

高槻市と関西大学による市民意識調査報告書

—令和6年度—

令和7年3月

高槻市・関西大学総合情報学部

はじめに

本報告書は、高槻市と関西大学が共同で、高槻市民を対象に実施した令和6年度市民意識調査「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」の成果を取りまとめたものです。この調査は、関西大学総合情報学部で開講している「社会調査実習」(2024年度)の授業の一環として行われているもので、当授業の受講生が、調査票の設計からデータの入力作業まで、実施全体に大きく関わっています。たとえば、春学期には、受講生各自の関心から調査テーマを設定した上で調査票の設計を行います。そして、秋学期には、調査票のデータ入力と分析、最終報告書の執筆を行うことで、社会調査の実施に必要となる一連の過程を経験します。

このような背景から、例年、この調査では、大学生らしい自由な発想の調査テーマが選ばれる特長があります。今年度も、地域への愛着、ご当地キャラ、食生活、インターネット、旅行、演劇、ニュース、犯罪不安など、若者にとって身近なものから、地域や社会の問題に関わるものまで、多様で独創的なテーマが並びました。これらの調査結果は、単に一つの地域の市民調査という枠を超えて、学術的にもさまざまな知見を提供するものだといえるでしょう。

本調査は今回で14回目となり、回収率は56.5%でした。回収率が60%前後を推移していた過去の13回の調査からやや低下しましたが、高い回収率を達成できたといえるでしょう。これは関係各位の皆さまのご協力があったこそ、成しえたことです。まず、関西大学総合情報学部の松本渉先生には、調査の準備から報告書の取りまとめまでのすべての段階で、毎回、的確で丁寧なご助言をいただきました。本調査を無事終えることができたのは松本先生にご尽力いただいたおかげです。また、ティーチング・アシスタントの高山理名さん、スチューデント・アシスタントの雷新雨さんには、これまでの社会調査の経験やスキルを活かして、受講生に寄り添った立場から様々なサポートをしていただきました。

この「社会調査実習」の授業では、大規模な郵送調査を実施する都合上、時間的制約のなかで、社会調査の一連の過程を一つずつ進めていく必要があります。受講生の皆さんには、調査テーマの設定、データ入力作業、データ分析と報告書執筆などすべての段階で、熱心に粘り強く、調査や作業に取り組んでもらいました。今年度の受講者は13名と比較的多く、データ入力作業はスムーズに進めることができましたが、1年間で調査を実施し、報告書を完成させることは大変だったと思います。この報告書は、こうした受講生の皆さんの努力によって完成したものといえます。

最後に、本調査の実施にあたり、高槻市市民生活環境部市民生活相談課の皆さま、関西大学総合情報学部オフィスの皆さまに多大なご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。そして何より、本調査にご協力いただきました高槻市民の皆さまに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2025年3月

関西大学総合情報学部教授 阪口 祐介

目次

はじめに		i
第1章 調査の概要	阪口祐介・松本渉	1
第2章 調査結果の概要	高山 理名	8
資料		119
予告はがき		121
調査票		123

第1章 調査の概要

阪口 祐介・松本 渉

1. 調査の概要とスケジュール

高槻市と関西大学による市民意識調査「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」は、2024(令和6)年8月から9月にかけて、高槻市と関西大学総合情報学部によって行われた。社会調査実習の一環として、春学期には調査票の作成が、夏休みには調査票発送作業が、秋学期にはデータ入力、データ作成、分析等が行われた(表1)。

表1 高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査スケジュール

	日付	授業内	授業外
春学期	4/11	「社会調査実習」前期授業開講	高槻市と関西大学の
	4/18～7/18	調査票の作成	打ち合わせ(随時)
夏休み	7/31		サンプリング
	7/11～7/25		調査票印刷
	8/7	調査票発送準備作業	
	8/19		予告はがき発送
	8/21		調査票発送
	9/6		返送締切日
秋学期	9/26	「社会調査実習」秋学期授業開講	
	9/26～11/14	データの入力・読み合わせ	
	11/14～12/5		データクリーニング
	11/21～12/5	分析方法の習得	
	12/12～1/16	中間レポートの提出・報告	速報版報告書執筆
	1/16	最終授業(最終レポートの提出)	報告書執筆
	1/16～2/28		報告書編集

2. サンプリング

調査対象者：18歳以上85歳未満の高槻市民(1939年8月1日～2006年7月31日出生)

抽出名簿：住民基本台帳(2024(令和6)年7月31日現在)

標本抽出法：層化抽出法

(具体的な手順)

1. 2024(令和6)年6月末現在の人口に基づいて、性別と年齢によって作成された12の層の人口を算出する。次に、その人口の比率に従って、計画標本2,000を各層に割り当てる(表2)。

表2 層化の基準日の人口構成と計画標本の割り当て

	令和6年6月末現在の人口			計画標本の割り当て		
	男	女	男女計	男	女	男女計
18・19歳	3,392	3,130	6,522	25	23	48
20代	16,584	16,966	33,550	118	121	239
30代	17,222	17,473	34,695	126	129	255
40代	22,723	23,478	46,201	170	176	346
50代	26,702	27,254	53,956	186	189	375
60代	17,347	19,200	36,547	123	138	261
70代以上	28,224	37,357	65,581	206	270	476
合計	132,194	144,858	277,052	954	1,046	2,000

2. 各層で割り当てられた人数を系統的に無作為抽出する。

3. 調査実施上の工夫

この調査では、調査および回収を円滑に実施するために、過年度と同様の工夫を行っている。

予告はがきの送付

調査票が届き次第、スムーズに回答できるように調査票発送の2日前に予告はがきを送付した(昨年度は5日前に送付)。このように事前に調査の実施を通知することで、調査対象者は心の準備をすることができ、また調査に対する期待感を高められると考えたからである。なお、見やすくシンプルな文面とするため、ご挨拶以外にはがきに掲載した情報は最低限(「近日中に大きな茶封筒(ボールペン入り)が届くこと」「対象者が無作為で選ばれたこと」の2点)にとどめた。今回は8月19日(月)に予告はがきを送付した。

調査票送付日

調査票の送付は、大学の窓口の盆休み終了後、最初の水曜日である 2024(令和 6)年 8 月 21 日(水)に行った。勤め人の夏休みを避けた上で、金曜日頃に調査票を受け取るためである。なお、2022 年度までは、調査票の送付は木曜日であったが、2023 年度から水曜日に変更している。2021 年 10 月より土曜日の郵便配達休止されたことで、以前は土曜日に届いていた配達が月曜日になったため、週末に調査票が届くように 1 日発送を早くした。

同封物

筆記具を探す必要がないようにという配慮から、箱入りボールペンを同封した。また、箱を同封することで封筒の形状を目立たせ、ほかの郵便物に紛れなくなるという効果もある。なお事前にも事後にも金銭的な謝礼は一切行っていない。

調査票の用紙

目立つように、水色(なお前年はうす水色)の紙を使用した。また、やや重くなるが、裏面が透けて読みにくくならないように厚手の紙を利用した。

調査票における挨拶文

すぐに質問文が目に入るようにするため、挨拶文は 1 ページの上段のみにとどめた。その主な内容は、①調査目的以外に一切利用しないこと、②結果の公表を約束すること、③住所や名前を記入しないことをお願いすることの 3 点である。それぞれ、①安心感の付与、②社会還元の明示、③匿名性の担保を示している。

調査票の構成デザイン

二段組にすることによってスペースを有効に利用し、A4 サイズ 8 ページ(両面)の範囲に収まる調査票とした。文字フォントは、質問文を太字の MS ゴシック、選択肢を MS 明朝としてメリハリをつけた。

封筒

調査票送付用封筒については、A4 サイズの調査票を折り曲げずに済むように、角 2 サイズの糊付封筒を利用した。

一方、返信用の封筒については、ハイシール加工済みの角 2 サイズの封筒を利用した。調査対象者が、回答票を封入して返送しやすくするためである。

催促状(なし)

催促状の送付は行っていない。

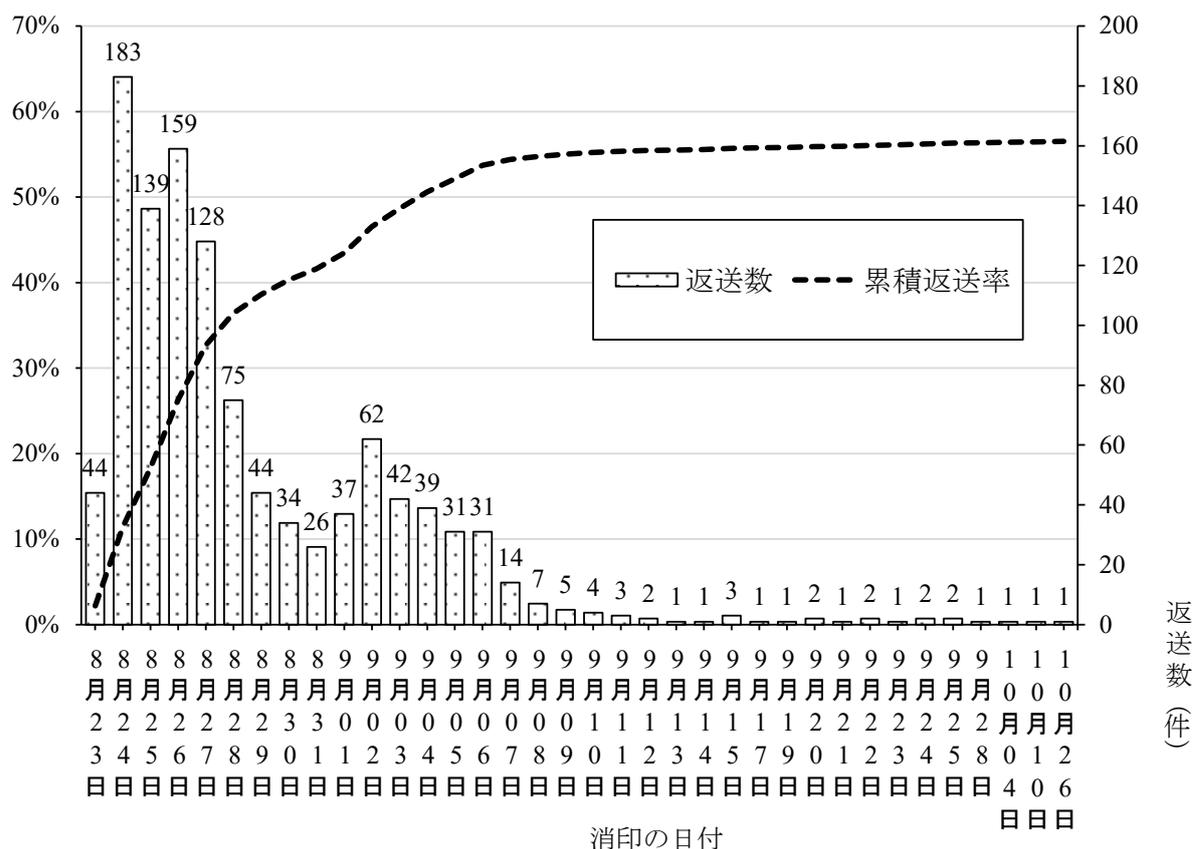
4. 調査票の回収状況

4.1. 返送状況

調査票の返送状況について述べる。図 1 は、消印の日付から調査票の返送状況の経過を示したものである。

最も早い消印は翌 8 月 23 日(金)である。返送日の山が二つみられる。第 1 の山は、最大の返送数 183 となった 8 月 24 日(土)であり、調査票受取直後の記入・返送のピークといえる。第 2 の山は、返送数 159 であった 8 月 26 日(月)である。調査票受領後にすぐにおとずれた土日を利用した記入・返送のピークといえる。これに続く山は、返送数 37 であった 9 月 1 日(日)から返送数 31 であった 9 月 6 日(金)までの期間であり、調査票受取直後の時期に生じる 2 つのピークの後に、平坦な山が続く返送のパターンはおおむね例年の調査と同様といえる。

累積返送率については、例年と同じく、調査票の返送受け取り期間の前半で返送率が 50% 台後半に達している。累積返送率のグラフ(図 1)が示しているように、回収期間後半に入ってもなおだらかに上昇を続け、受け取り締切日頃には返送率が 55% を推移する結果になった。



(注1) 返送数とは、回答票の返送日ごとの件数(日付は消印による)

(注2) 累積返送率とは、その日までに返送された件数の累計を計画標本サイズで割った値

図 1 時系列に見た調査票の返送状況

4.2. 回収率と調査不能の内訳

郵送調査の特質上、締切日の9月6日(金)以降も調査票の返送が続いた。そのためしばらくの間返送を受け付け、10月26日(土)で打ち切った。返送されてきた調査票総数は1,132件であり、無効調査票は2であった。最終的に有効な回答票数を1,130件、回収率を56.5%とした。調査不能の内訳も含めた調査の状況は表3の通りである。

表3 回収率と調査不能の内訳

		件数	(%)
1. 調査不能	尋ね当たらず等	4	(0.2%)
	未返送	864	(43.2%)
	無効調査票	2	(0.1%)
	計	870	(43.5%)
2. 有効回答票		1,130	(56.5%)
3. 計画標本サイズ(合計)		2,000	100.0%

4.3. 回収率の詳細

男女別の回収率については、男性48.4%、女性61.9%となり、女性の方が13%ほど高い(表4)。年齢層別の回収率では、70代以上で67.0%、60代で71.6%と高く、年齢が下がるにつれて回収率が低下し、20代で31.8%、18・19歳で25.2%まで低下する(表5)。社会調査において、男性よりも女性において、若年層よりも高年齢層において回収率が高くなることは一般的な傾向である。

表4 男女別の回収率

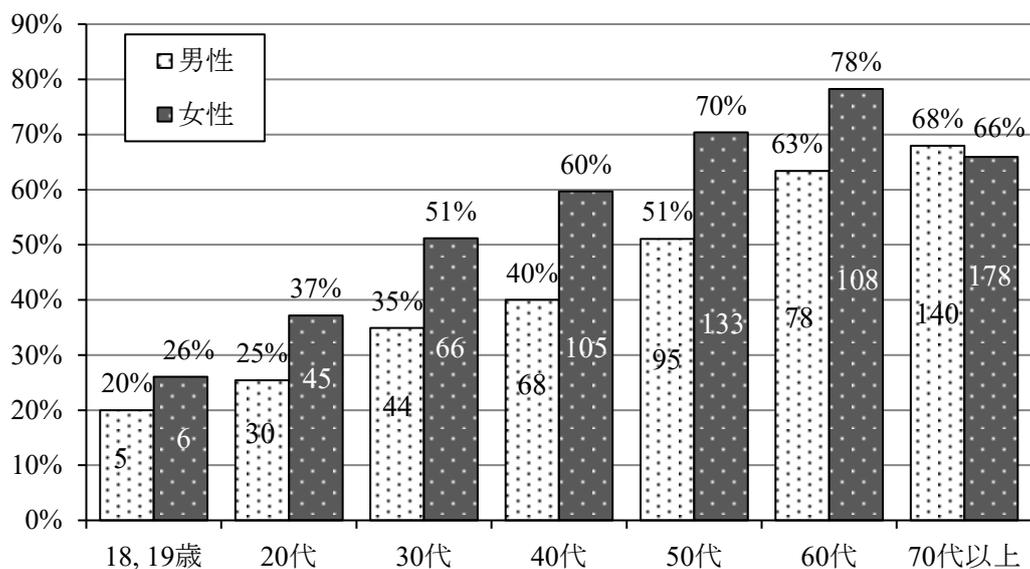
	男性	女性	不明	合計
回収標本	462	647	21	1,130
計画標本	954	1046	—	2,000
回収率 (%)	48.4%	61.9%	—	56.5%

(注) 男女別の回収率の計算には、不明分21が含まれていない。

表5 年齢層別の回収率

	18, 19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	合計
回収標本	12	76	111	174	230	187	319	21	1,130
計画標本	48	239	255	346	375	261	476	—	2,000
回収率 (%)	25.2%	31.8%	43.6%	50.3%	61.3%	71.6%	67.0%	—	56.5%

(注) 年齢別の回収率の計算には、不明分21が含まれていない。



(注1) 棒グラフの高さおよび上側の数字は、回収率をあらわしている。
(注2) 棒グラフの内側の数字は、各層における実際の回収数である。

図2 男女・年齢層別の回収率

5. 回収標本の特徴

前述した男女別・年齢層別の回収率の違いにより、回収標本が母集団からある程度ずれている可能性があるため、その確認を行った。

表6は、母集団における男女・年齢別の人口分布と回収標本における男女・年齢別の人口分布を比較したものである。適合度検定*から、男女・年齢別の人口分布について、回収標本が母集団と乖離していることが統計学的に示されている。とりわけ、20代から50代の男性といった回収率の低い層では母集団よりも過小な人口割合である一方で、70代以上の男性、30代以上の女性といった回収率の高い層では母集団より過大な人口割合である。

高槻市の統計では、世帯人数別の人口分布もわかるので、この点についても回収標本と母集団との間の人口分布の比較を行った(表7)。その結果、この比較においても適合度検定*から両者が乖離していることが統計学的に示された。一人暮らしの多い20代、30代の回収率の低さがここにも影響したと考えられる。

*適合度検定

観測したデータの分布が、理論上の分布にあてはまっているかどうかを調べる統計学的手法。表6と表7では、2024(令和6)年6月末時点での高槻市全体の人口の分布を理論上の分布としている。なお、表6と表7の注釈にある統計量 χ^2 は適合度基準と呼ばれる値で、この値が0の場合二つの分布は同一であり、値が大きいほど乖離していることを示している。 df は、自由度と呼ばれる値(表6と表7では、「性別と年齢」「世帯人員数」の各カテゴリ数から1を引いた数に相当)である。 p は、二つの分布が同一の分布である確率を表しており、統計量 χ^2 と自由度 df から計算されている。

表 6 男女・年齢別の人口分布の比較

性別	年齢	回収標本	%	R6年6月末 人口	%
男性	18, 19歳	5	0.5%	3,392	1.2%
男性	20代	30	2.7%	16,584	6.0%
男性	30代	44	4.0%	17,222	6.2%
男性	40代	68	6.2%	22,723	8.2%
男性	50代	95	8.6%	26,702	9.6%
男性	60代	78	7.1%	17,347	6.3%
男性	70～84歳	140	12.7%	28,224	10.2%
女性	18, 19歳	6	0.5%	3,130	1.1%
女性	20代	45	4.1%	16,966	6.1%
女性	30代	66	6.0%	17,473	6.3%
女性	40代	105	9.5%	23,478	8.5%
女性	50代	133	12.1%	27,254	9.8%
女性	60代	108	9.8%	19,200	6.9%
女性	70～84歳	178	16.2%	37,357	13.5%
合計		1,101	100.0%	277,052	100%

(注1) 表左側の回収標本には、性別または年齢の不明分29件が含まれていない。

(注2) 表右側のR6年6月末人口は、高槻市全体の人口である

(<https://www.city.takatsuki.osaka.jp/soshiki/11/33243.html>) 参照

(適合度検定) $\chi^2=85.5008, df=13, p<0.0001$

表 7 世帯人員別世帯数分布の比較

世帯人員数	回収標本	%	R6年6月末 世帯人員数別人口	%
1人	138	12.2%	68,349	19.7%
2人	368	32.6%	94,044	27.2%
3人	254	22.5%	75,372	21.8%
4人	218	19.3%	78,528	22.7%
5人	70	6.2%	24,610	7.1%
6人	17	1.5%	3,948	1.1%
7人	0	0.0%	1,078	0.3%
8人	1	0.1%	176	0.1%
9人	0	0.0%	81	0.0%
10人	0	0.0%	40	0.0%
11人以上	0	0.0%	22	0.0%
無回答	64	5.7%	—	—
合計	1,130	100.0%	346,248	100.0%

(注1) 表右側の世帯人数別人口は母集団の分布であり、高槻市の人口

(<https://www.city.takatsuki.osaka.jp/soshiki/11/33243.html>) から算出した。ただし、回収標本が18～84歳で構成されているのに対し、表右側の世帯人数別人口には未成年および85歳以上も含まれている。

(適合度検定) $\chi^2=57.1227, df=10, p<0.0001$

第2章 調査結果の概要

高山 理名

1. 調査対象者の属性

調査票の質問順とは異なるが、はじめに本調査における回答者の属性を確認する。ただし、グラフや表、本文中における百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。よって合計%は100.0%になるとは限らない。回答者の性別は男性が462人で女性が647人であり女性の方が多（図1）。年齢は70代が約3割と多く、18歳、19歳と20代は1割未満と少ない（図2）。男女別に年齢を確認してもほぼ同様の傾向がみられる（図3）。

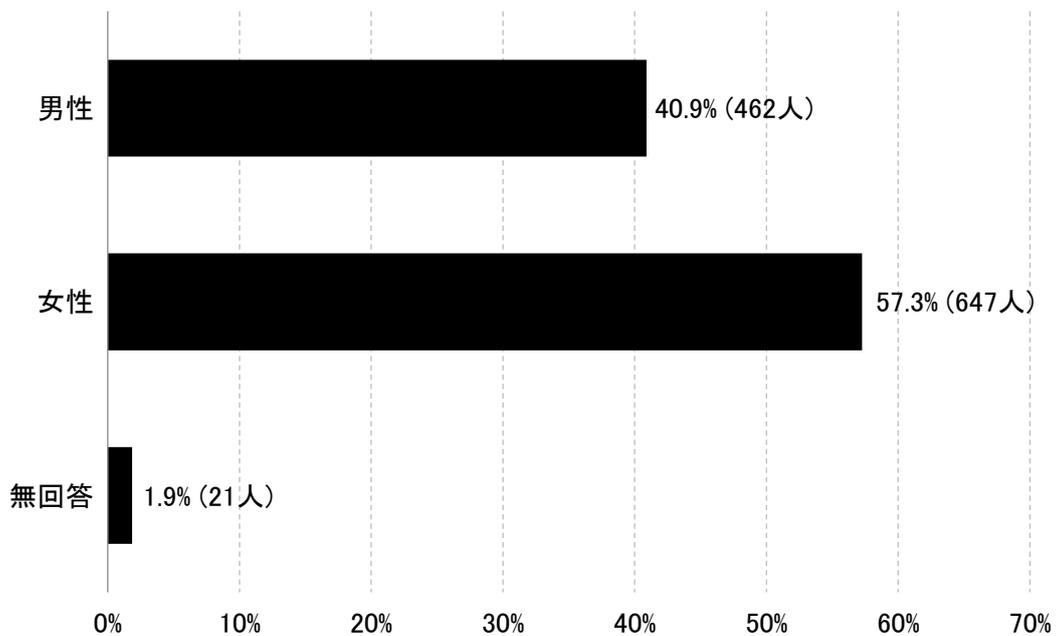


図1 Q51 性別

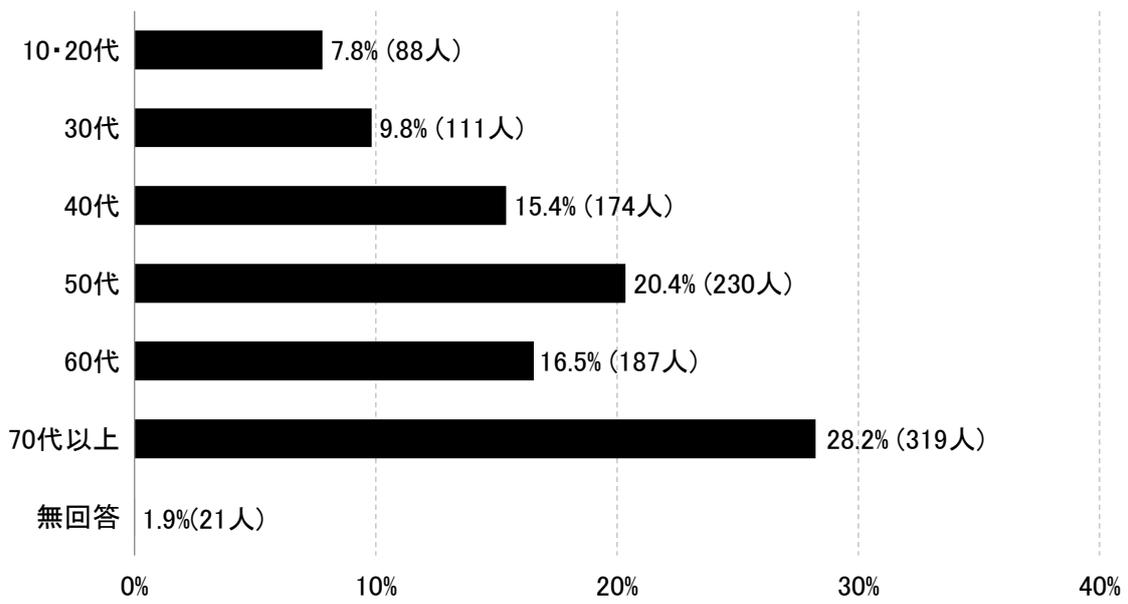


図 2 Q52 年齢

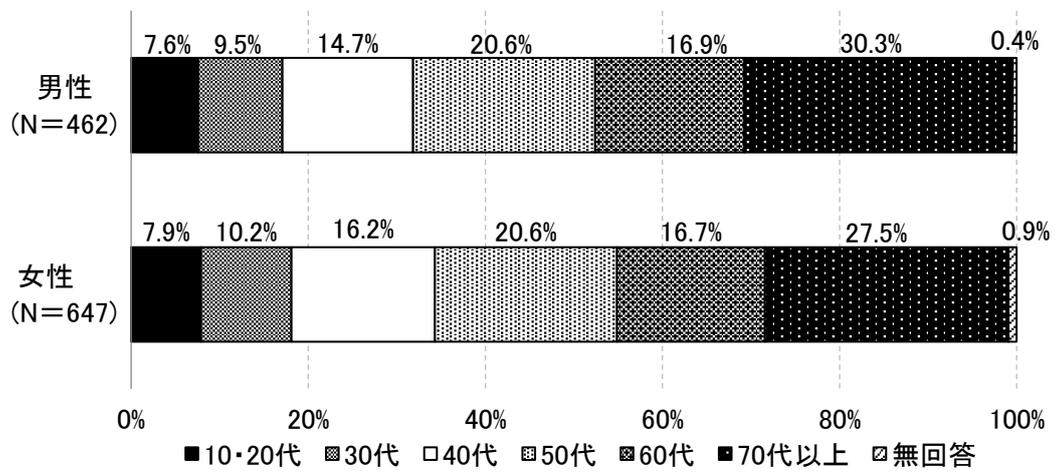


図 3 性別×年齢

以降、基本的には全ての質問項目に関して性別・年齢とのクロス集計を提示する。ただし、一部の回答者のみに回答が求められている質問項目に関して、その項目に該当しない者を非該当者として分析から除外している。なお、本調査の全回答者数は 1,130 人である。性別・年齢の内訳については図 1 と図 2 を参照のこと。また、質問項目ごとの設問提案者と例年の質問項目との対応関係の一覧については本章の最後を参照のこと。

職業は、合計をみると常時雇用者が 30.2%と最も多く、次いで無職が多い。男女別でみると、男性は常時雇用者が 43.5%と最も多く、女性は臨時雇用、パート、アルバイトが 26.4%と最も多い。年代別でみると、60代・70代以上で常時雇用者の割合が大きく減少し、無職が大きく増加している。臨時雇用、パート、アルバイトと回答した人は、30代から60代が2割以上となっている（表 1）。

表 1 Q53 職業

		(%)									
		常時雇用 の勤め人	臨時雇用、 パート、 アルバイト	自営業主	自営業の 家族従業 者	経営者、 役員	家事専業	学生	無職	その他	無回答
男女別	合計 (N=1130)	30.2	19.4	4.0	2.0	2.6	11.4	2.5	24.0	1.1	2.9
	男性 (N=462)	43.5	10.2	5.4	1.1	4.1	0.4	2.6	29.2	1.7	1.7
	女性 (N=647)	21.0	26.4	3.1	2.8	1.5	19.6	2.3	20.2	0.6	2.3
年代別	10・20代 (N=88)	52.3	9.1	2.3	0.0	2.3	3.4	28.4	2.3	0.0	0.0
	30代 (N=111)	50.5	29.7	2.7	1.8	0.9	8.1	1.8	2.7	0.9	0.9
	40代 (N=174)	52.9	27.0	4.6	3.4	2.3	6.9	0.0	1.1	0.0	1.7
	50代 (N=230)	45.7	25.2	3.5	2.2	3.0	8.7	0.4	7.0	2.2	2.2
	60代 (N=187)	20.9	25.7	5.3	2.1	3.2	15.0	0.0	24.6	1.6	1.6
	70代以上 (N=319)	0.6	7.8	4.4	1.9	2.8	17.2	0.0	62.4	0.9	1.9

最終学歴は、男女別で見ると、男性が「大学（旧高専）・大学院」が49.4%と最も多いのに対し、女性が26.1%と男性よりも少ない。女性で最も多いのは「高校（または旧制中学など）」であり、31.8%である。また、「短大・高専（5年制）」は男性が3.7%と最も少ないのに対して、女性が20.1%と「高校（または旧制中学など）」や「大学（旧高専）・大学院」に次いで3番目の多さである。年代別で見ると、10・20代が「大学（旧高専）・大学院」が65.9%であるが、年代が上がるごとに減少傾向にあり、70代以上が21.0%である。反対に、10・20代は「高校（または旧制中学など）」が12.5%であるが、年代が上がるごとに増加し、70代以上が50.2%となっている（図4）。

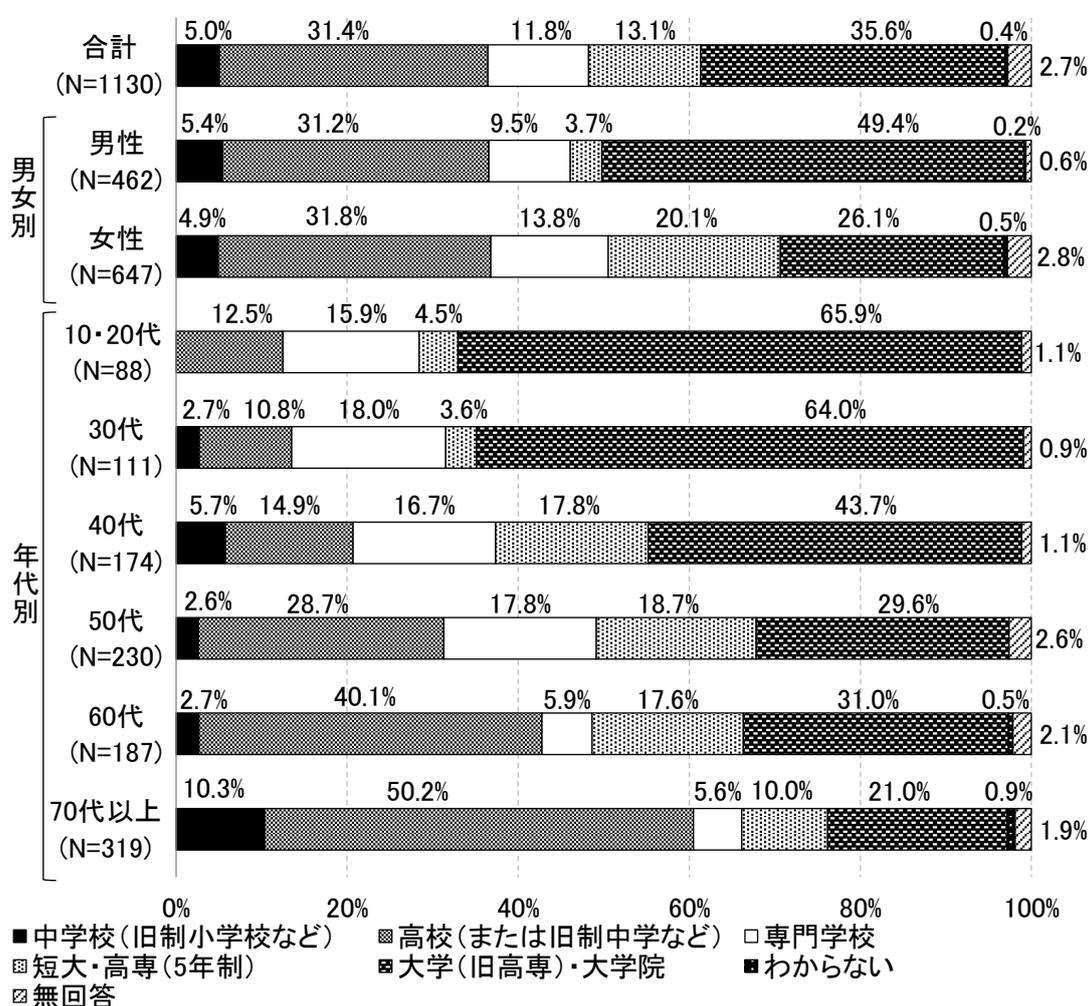


図4 Q54 最終学歴

居住地域については昨年のおり、単純集計のみを提示する。ここでの地区とは小学校の校区を参考に行している。各地区と該当小学校区は、榎田地区（榎田小学校）、高槻北地区（芥川・真上・磐手・奥坂・清水・北清水・安岡寺・日吉台・北日吉台小学校）、高槻南地区（高槻・桃園・大冠・北大冠・松原・桜台・竹の内・西大冠・若松・南大冠・冠小学校）、五領地区（五領・上牧小学校）、高槻西地区（郡家・赤大路・阿武野・南平台・川西・土室・阿武山小学校）、如是・富田地区（芝生・丸橋・寿栄・富田・柳川・玉川・如是・津之江・五百住小学校）、三箇牧地区（三箇牧・柱本小学校）である（図 5）。

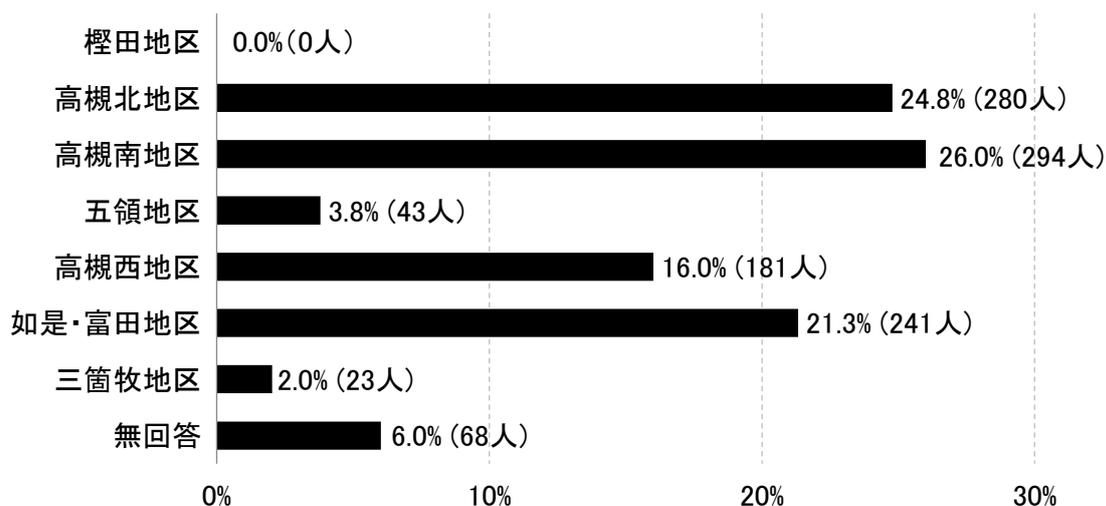


図 5 Q55 居住地域

高槻市内での居住年数に関して、全体の8割以上が10年以上市内に居住していることが分かる。年代別でみると、10・20代が「20年以上30年未満」が43.2%と最も多く、子どもころから市内に居住していることが分かる。70代以上が「50年以上」が42.6%と最も多い。なお、大きな男女差はみられない（表2）。

表2 Q56 市内居住年数

		(%)									
		1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上 40年未満	40年以上 50年未満	50年以上	無回答
男女別	合計 (N=1130)	2.1	3.6	3.5	5.5	13.8	16.1	13.8	18.3	21.3	1.9
	男性 (N=462)	2.8	3.2	4.1	5.0	13.4	18.0	12.6	17.5	22.3	1.1
	女性 (N=647)	1.7	3.9	3.1	5.9	14.1	14.8	14.8	19.2	21.3	1.2
年代別	10・20代 (N=88)	9.1	8.0	5.7	12.5	21.6	43.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	30代 (N=111)	6.3	19.8	19.8	7.2	9.9	11.7	25.2	0.0	0.0	0.0
	40代 (N=174)	1.1	2.9	6.9	10.9	27.0	14.4	8.0	27.0	0.0	1.7
	50代 (N=230)	1.3	1.7	0.0	4.8	19.1	22.2	12.2	13.5	23.9	1.3
	60代 (N=187)	2.1	1.6	0.0	2.1	7.5	16.6	22.5	19.3	26.7	1.6
	70代以上 (N=319)	0.0	0.0	0.0	2.5	6.3	6.0	12.9	28.8	42.6	0.9

市民の住居は男女別・年代別で見ると、10・20代を除いて、すべての層で「一戸建て」の方が「集合住宅（アパート・マンションなど）」よりも高い割合である。（図 6）。

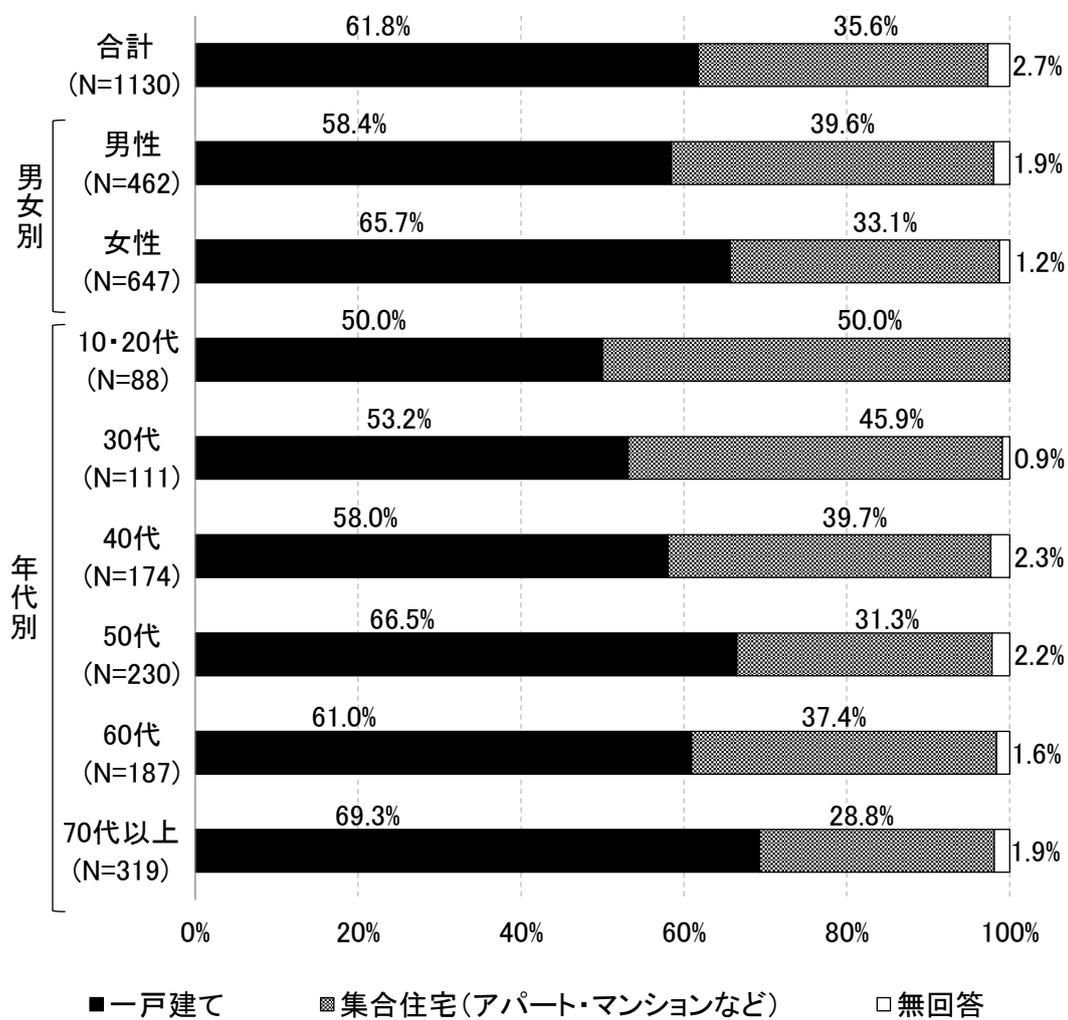


図 6 Q57 住居

居住形態は、男女別・年代別のすべての層で「持ち家」が 5 割以上と最も高い割合である。50 代以上は約 8 割以上が「持ち家」である。「民間の賃貸住宅」では、10・20 代が 30.7%と一定割合いるが、年代が上がるにつれて減少傾向にあり、70 代以上で 5.0%になる。「公社・公団等の公営の賃貸住宅」の割合は、70 代以上が 10.7%と最も高く、次いで 60 代の 7.0%である（図 7）。

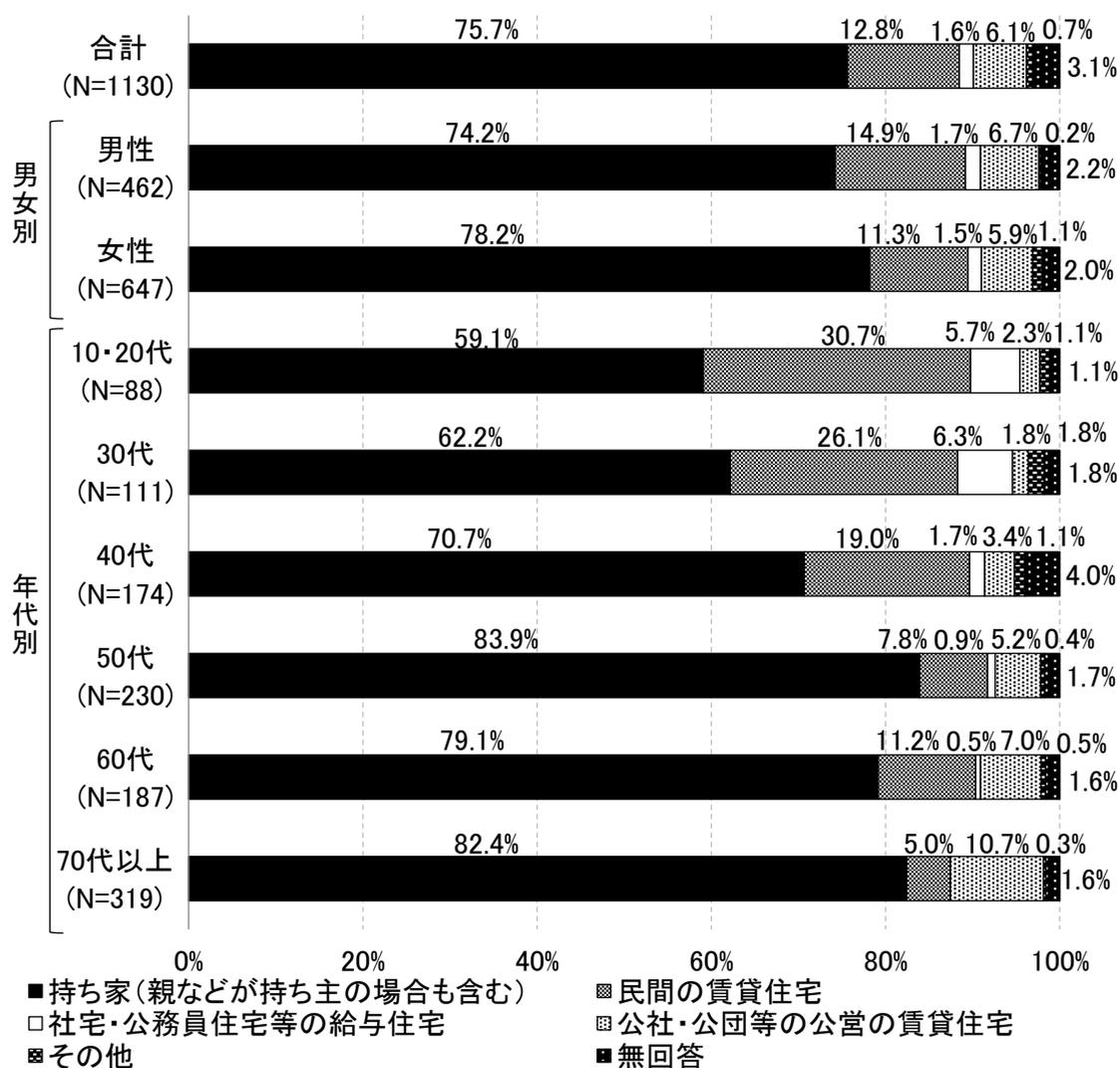


図 7 Q58 居住形態

婚姻状況に関して、男女別・年代別の30代以上の層で、「既婚（配偶者あり）」が最も高い割合を占める。10・20代は「未婚」の割合が7割以上である。男女別でみると、「既婚（離別・死別）」の割合は、男性で6.7%、女性で17.0%と、女性の方が10.3ポイント高い（図8）。

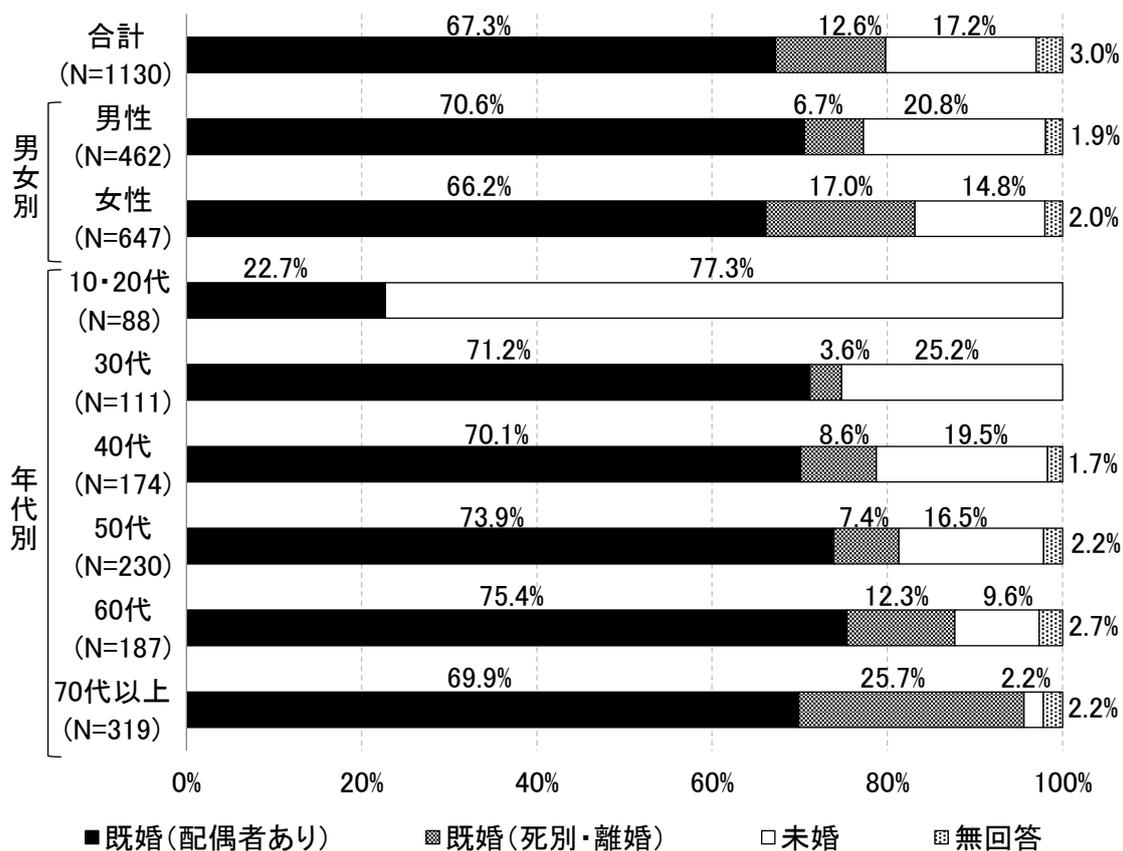


図8 Q59 婚姻状況

子どもの有無に関して、男女別の各層・年代別の30代以上の層で、「いる」と回答した人の割合が「いない」と回答した人の割合より高い。10・20代は「いない」割合が8割以上である。なお、「いる」と回答した人の割合は、女性の方が男性よりも7.7ポイント高い(図9)。

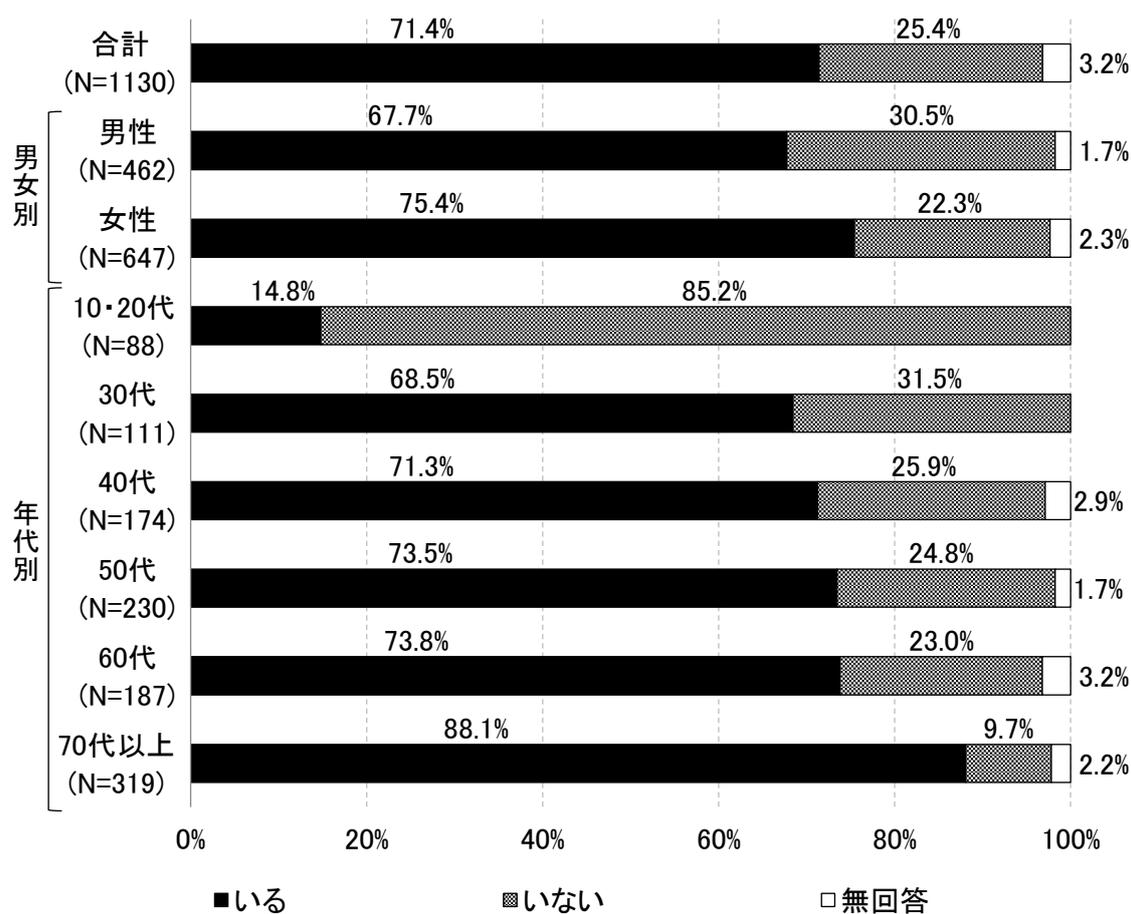


図9 Q60 子どもの有無

世帯人数に関して、その多くは2～4人世帯である。年代別でみると、30代、50代は3人世帯が最も多い。一方で、10・20代、40代は4人世帯が最も多い。また、60代、70代以上は2人世帯が4割以上を占めている（表3）。

表3 Q61 世帯人数

									(%)
		1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上	無回答
男女別	合計 (N=1130)	12.2	32.6	22.5	19.3	6.2	1.5	0.1	5.7
	男性 (N=462)	13.0	34.8	23.6	16.7	6.1	1.7	0.2	3.9
	女性 (N=647)	11.9	31.5	22.3	21.6	6.3	1.4	0.0	4.9
年代別	10・20代 (N=88)	12.5	14.8	25.0	33.0	9.1	3.4	0.0	2.3
	30代 (N=111)	8.1	14.4	32.4	28.8	11.7	0.9	0.0	3.6
	40代 (N=174)	9.8	13.2	23.6	33.3	14.4	1.1	0.6	4.0
	50代 (N=230)	8.3	25.7	28.3	27.8	4.3	0.9	0.0	4.8
	60代 (N=187)	14.4	41.7	23.0	11.2	3.7	0.0	0.0	5.9
	70代以上 (N=319)	16.9	56.1	14.4	4.1	2.2	2.8	0.0	3.4

世帯年収は、合計および男性・女性では「200～400万円未満」が最も多い。年代別でみると、「わからない」を除いて割合が最も高いのは、10・20代が「200万円～400万円未満」、30代が「400万円～600万円未満」、40代、50代が「600万円～800万円未満」と、年代が上がるごとに年収が高額になっている。ただし、60代と70代以上は「200万円～400万円未満」の割合が最も高い（表4）。

表4 Q62 世帯年収

										(%)	
		100万円未満	100万円～200万円未満	200万円～400万円未満	400万円～600万円未満	600万円～800万円未満	800万円～1000万円未満	1000万円～1500万円未満	1500万円以上	わからない	無回答
男女別	合計 (N=1130)	5.3	10.8	23.4	13.5	11.3	8.8	7.0	3.5	6.5	9.7
	男性 (N=462)	4.8	9.7	25.3	15.2	14.1	10.4	7.6	3.7	3.9	5.4
	女性 (N=647)	5.9	11.7	22.6	12.7	9.7	8.0	6.6	3.6	8.3	10.8
年代別	10・20代 (N=88)	4.5	11.4	22.7	8.0	12.5	8.0	8.0	2.3	20.5	2.3
	30代 (N=111)	6.3	7.2	15.3	17.1	9.9	13.5	9.9	5.4	8.1	7.2
	40代 (N=174)	6.3	5.2	11.5	17.8	19.0	11.5	6.3	7.5	5.2	9.8
	50代 (N=230)	3.0	4.3	12.6	15.2	17.0	12.6	16.5	4.3	6.1	8.3
	60代 (N=187)	6.4	10.2	27.8	16.0	9.1	9.1	3.7	2.7	5.3	9.6
	70代以上 (N=319)	5.6	20.4	39.5	9.7	5.3	3.8	1.6	1.3	4.4	8.5

2. 各質問項目の結果

ここからは回答者個人の属性だけでなく、意識や行動などの項目についての結果の概要を示す。ここでも基本的には性別・年齢によるクロス集計を提示する。なお、一部の回答者のみに回答が求められている質問項目に関して、その項目に該当しない者を非該当者として分析から除外している。回答者の性別と年齢の分布については、図1と図2を参照のこと。

なお、グラフや表、本文中における百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。よって合計%は100.0%になるとは限らない。

Q1の生活満足度に関して、男女別・年代別のすべての層で5割以上が「満足」または「やや満足」と回答している。年代別でみると、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は10・20代が79.5%と最も高く、60代が62.0%と最も低い(図10)。

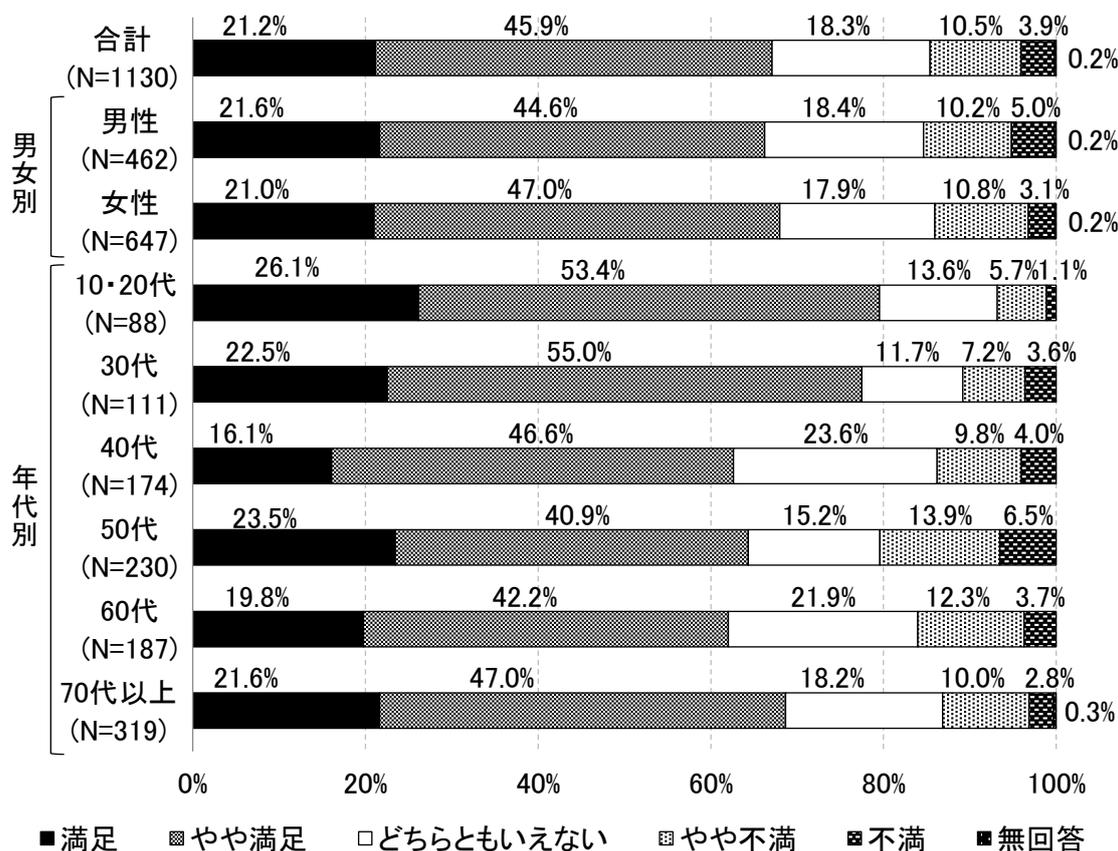


図10 Q1 生活満足度

Q2の幸福度に関して、男女別でみると、男女ともに「幸せ」または「やや幸せ」と回答した人の割合は7割程度である。年代別でみると、「幸せ」または「やや幸せ」と回答した人の割合はすべての層で6割を超えており、30代が86.5%と最も高い(図11)。

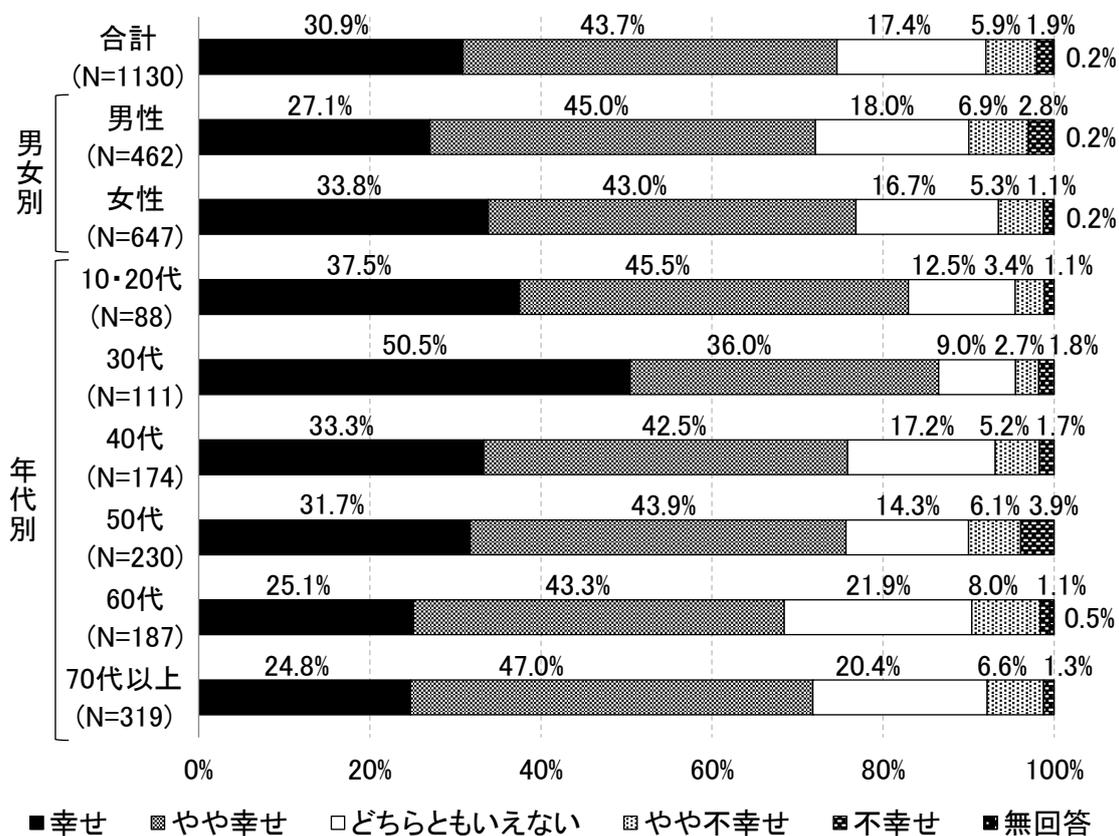


図 11 Q2 幸福度

Q3 の居住地は暮らしやすいかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が7割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は30代が90.1%と最も高い。反対に60代が78.1%と最も低い（図12）。

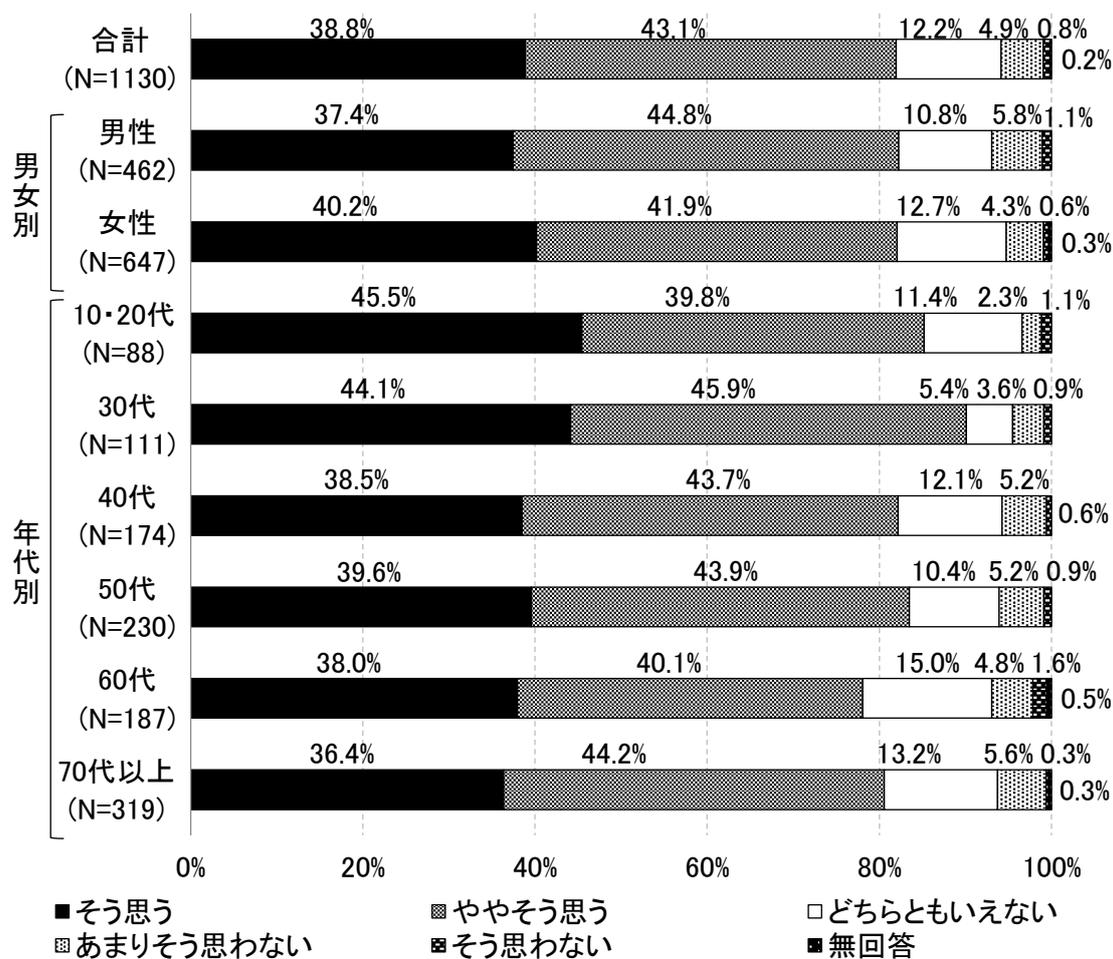


図12 Q3 居住地は暮らしやすいか

Q4の地域に住み続けたいかに関して、男女別・年代別のすべての層で5割以上が「ずっと住み続けたい」または「住み続けたい」と回答している。年代別でみると、「ずっと住み続けたい」または「住み続けたい」と回答した人の割合は70代以上が70.5%と最も高い。反対に、40代は57.5%と最も低い(図13)。

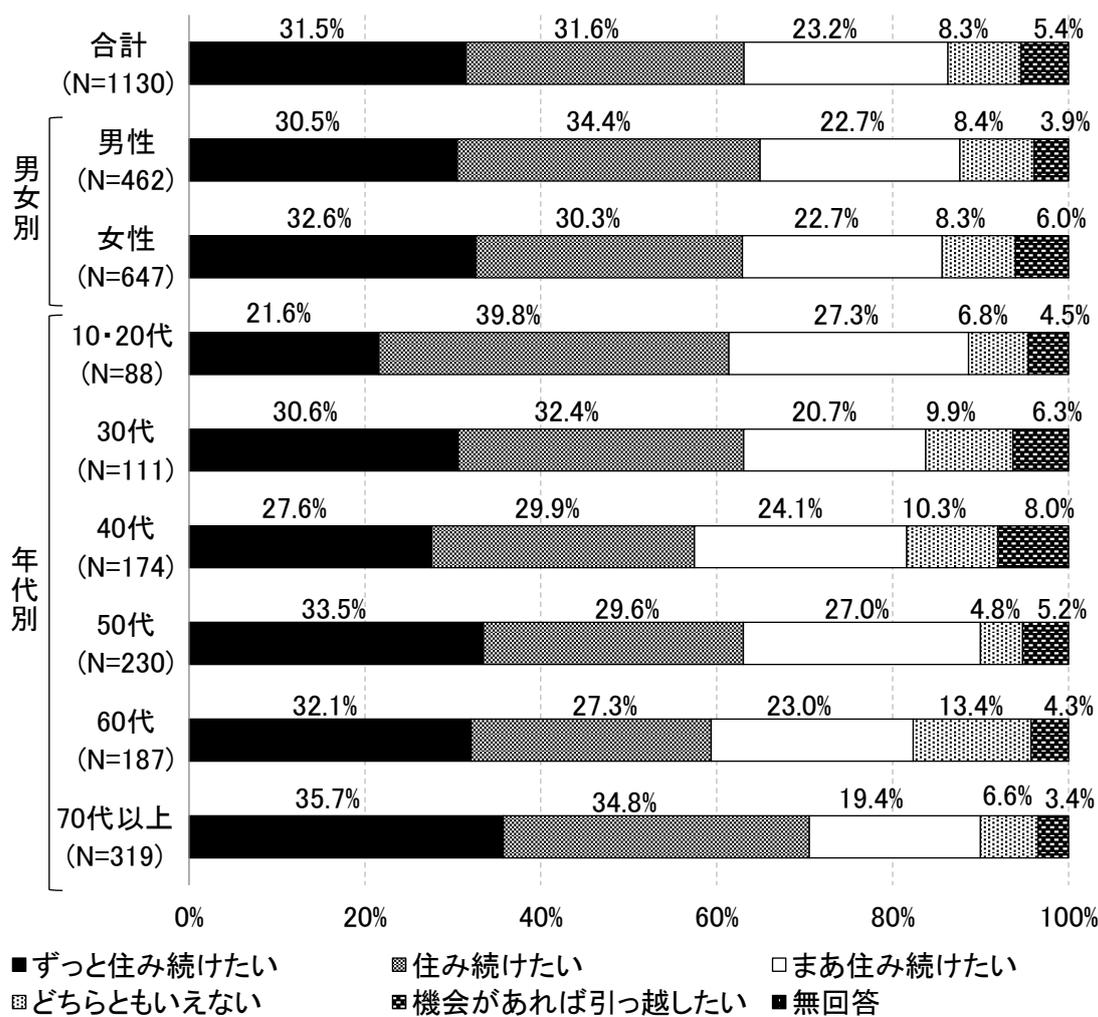
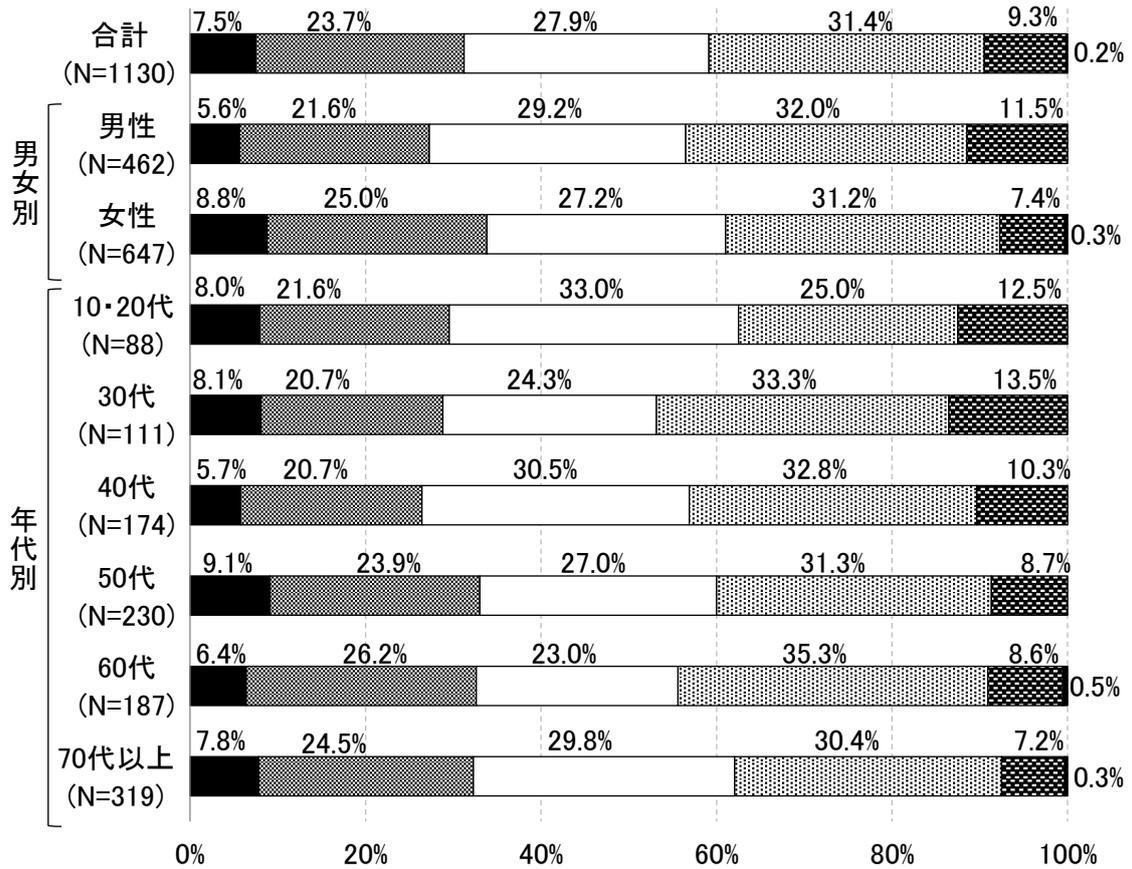


図13 Q4 地域に住み続けたいか

Q5の高槻市に地域ブランドがあると思うかに関して、男女別でみると、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人の割合が男性で43.5%、女性が38.6%であり、男性の方が4.9ポイントほど高い。年代別でみると、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人の割合は30代が46.8%と最も高い。反対に、10代・20代は37.5%と最も低い(図14)。



■ そう思う ■ ややそう思う □ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

図 14 Q5 高槻市に地域ブランドがあると思うか

Q6の中心市街地に行く頻度が7年前と比べて増加したかに関して、男女別でみると、「増加した」または「少し増加した」と回答した人の割合が男性で32.0%、女性が33.8%であり、女性の方が1.8ポイントほど高い。年代別でみると、「増加した」または「少し増加した」と回答した人の割合は10代・20代が51.1%と最も高い。反対に、70代以上は22.6%と最も低い(図15)。

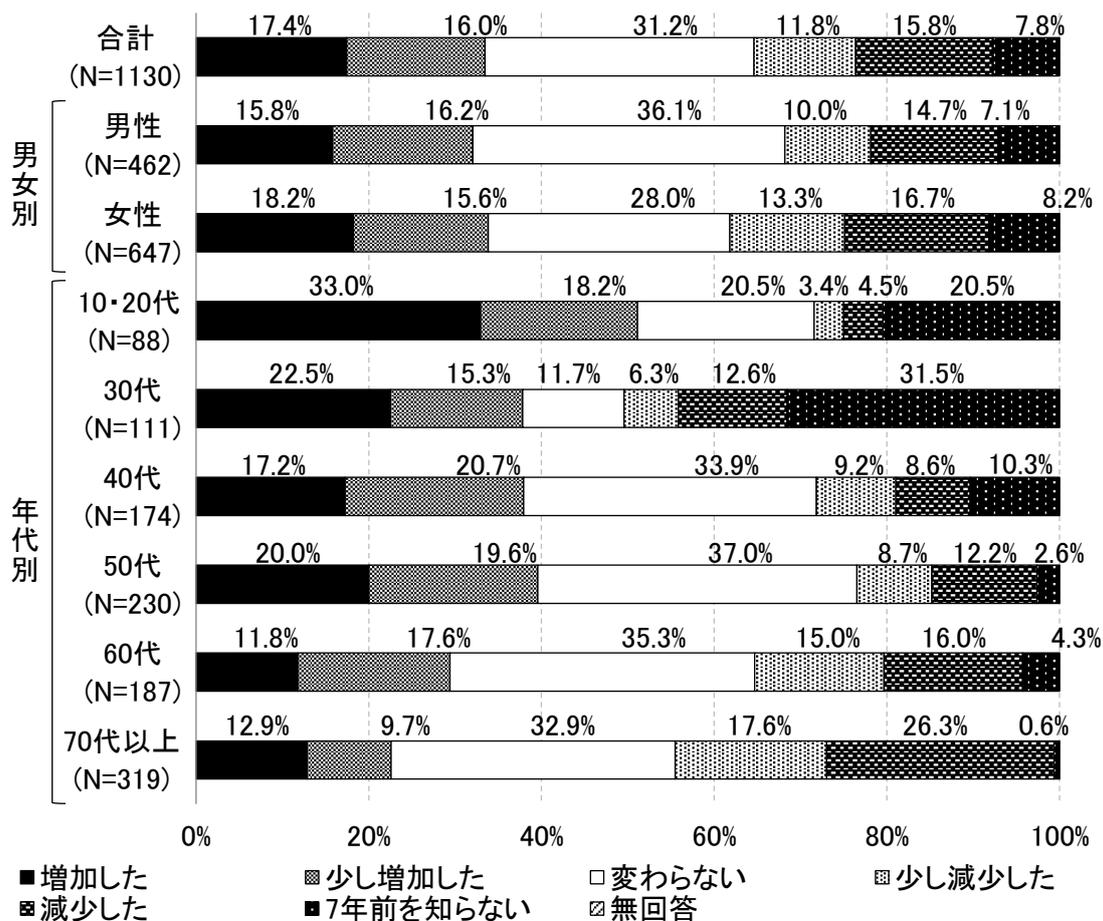


図15 Q6 中心市街地に行く頻度が7年前と比べて増加したか

Q7A～Q7F が、中心市街地において、それぞれが7年前と比べて向上したか、低下したかを質問している。

Q7A の7年前と比べた場合の中心市街地の防災面での安全性や快適性に関して、男女別・年代別でみると、30代を除いた層で「変わらない」が最も高い割合である。また、男女別・年代別のすべての層で「低下した」の割合が1割以下である。一方で、「向上した」の割合は男女別・年代別のすべての層で2割以上である（図16）。

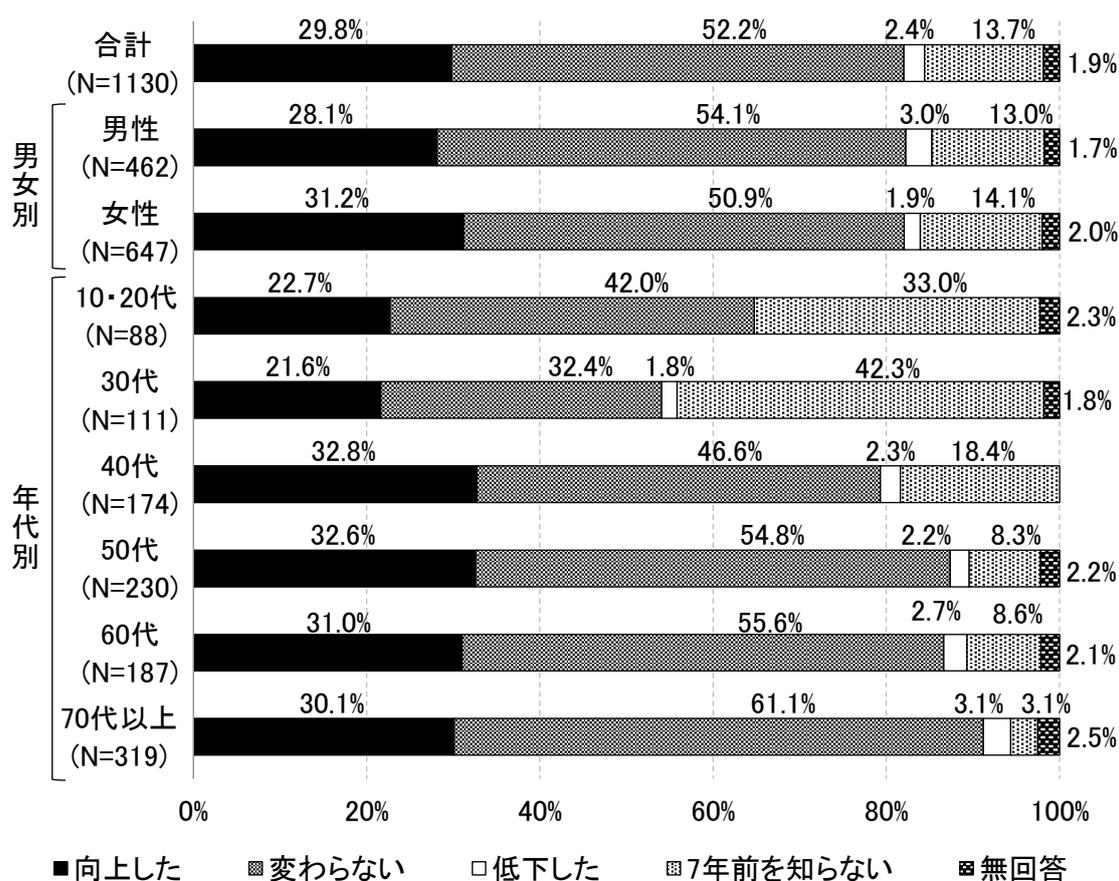


図16 Q7A 中心市街地で7年前と比べて向上したか（防災面での安全性や快適性）

Q7B の7年前と比べた場合の中心市街地の防犯面での安全性や快適性に関して、男女別・年代別でみると、30代を除いた層で「変わらない」が最も高い割合である。また「向上した」の割合を年代別でみると、40代が21.8%と最も高く、10代・20代が15.9%と最も低い(図17)。

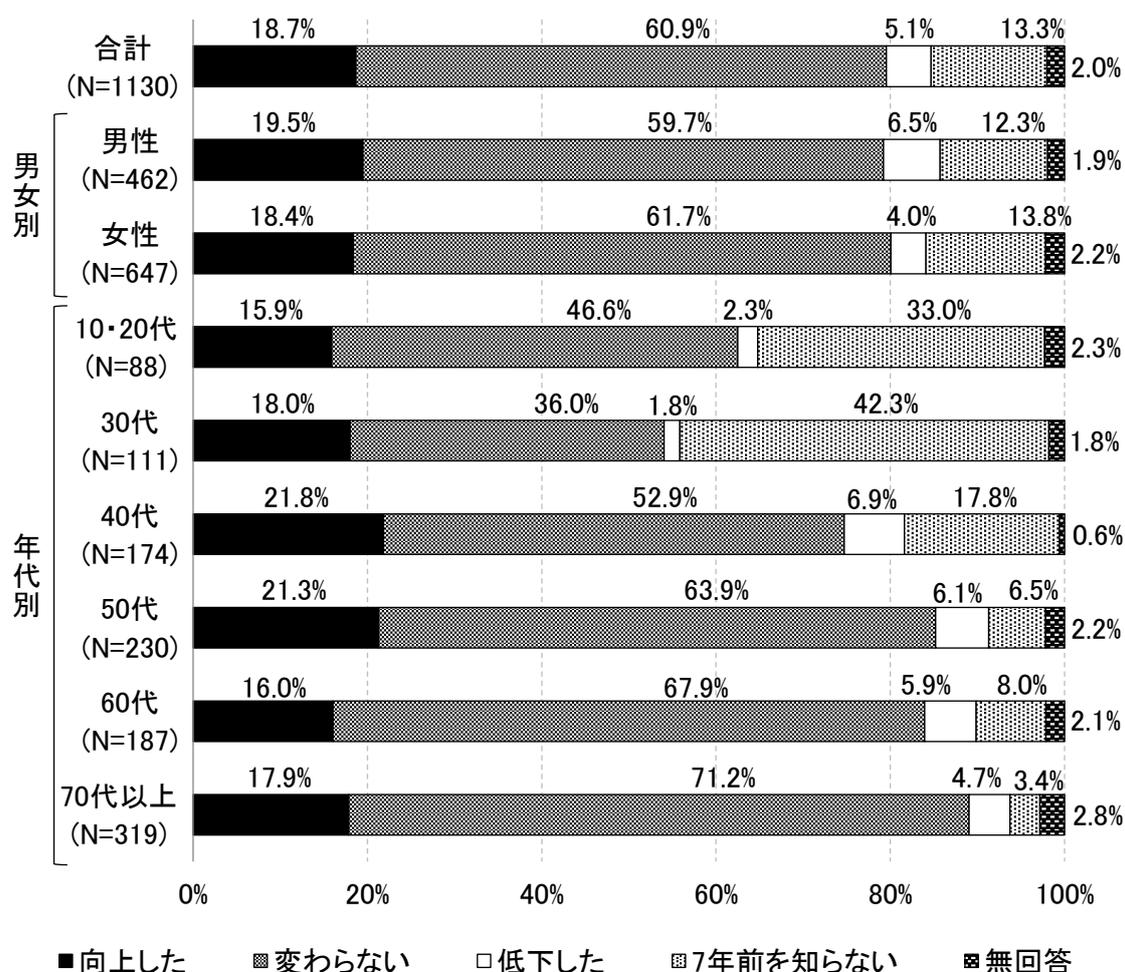


図 17 Q7B 中心市街地で7年前と比べて向上したか (防犯面での安全性や快適性)

Q7C の7年前と比べた場合の中心市街地の居住環境に関して、男女別・年代別でみると、30代を除いた層で「変わらない」が最も高い割合である。また男女別・年代別のすべての層で「低下した」の割合が2割以下である。また「向上した」の割合を年代別でみると、50代が30.0%と最も高く、70代以上が20.1%と最も低い（図18）。

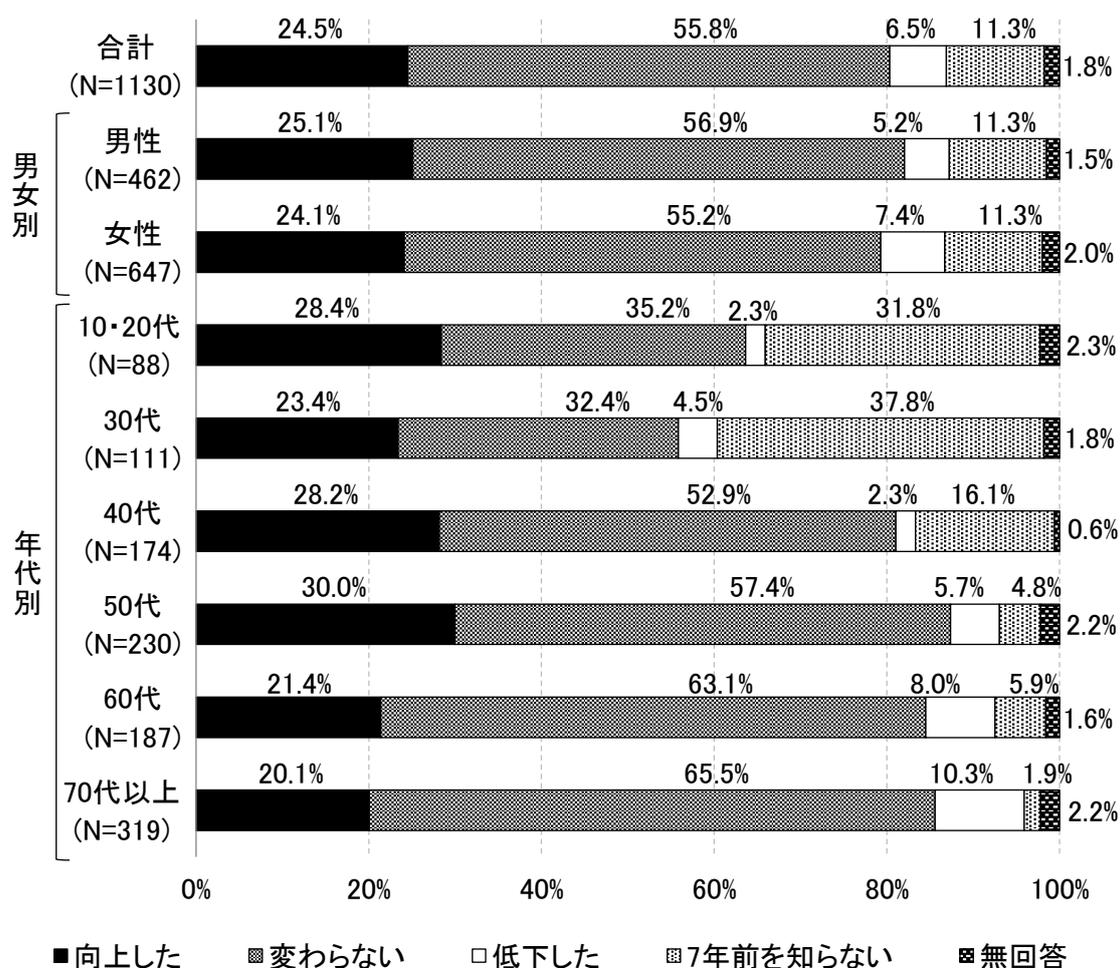


図18 Q7C 中心市街地で7年前と比べて向上したか（居住環境）

Q7D の7年前と比べた場合の中心市街地の公共交通機関の利便性に関して、男女別・年代別でみると、30代を除いた層で「変わらない」が最も高い割合である。また「向上した」の割合は、男女ともに約2割である。また「向上した」の割合を年代別でみると、10代・20代が23.9%と最も高く、60代が15.0%と最も低い（図19）。

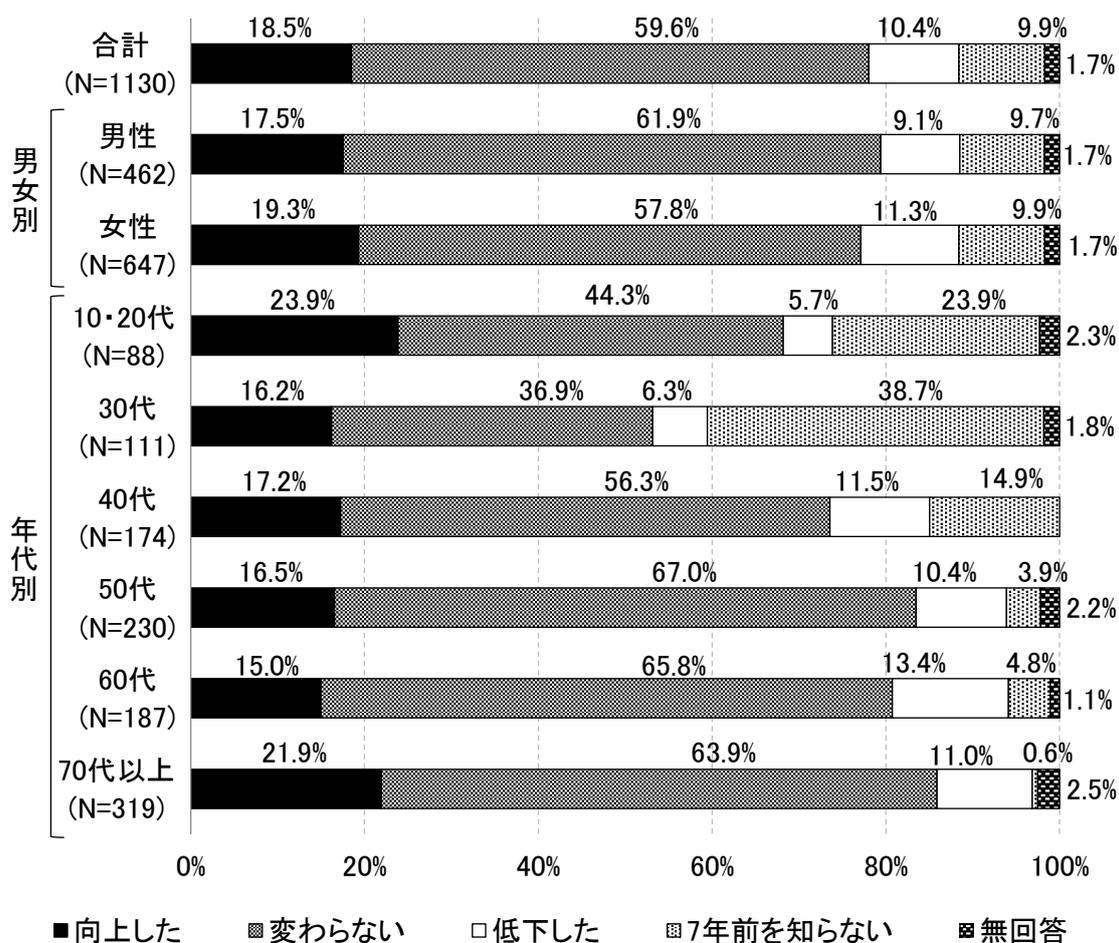


図19 Q7D 中心市街地で7年前と比べて向上したか（公共交通機関の利便性）

Q7E の7年前と比べた場合の中心市街地の歩行者にとっての歩きやすさに関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また「向上した」の割合を年代別で見ると、10代・20代が28.4%と最も高く、30代が13.5%と最も低い(図20)。

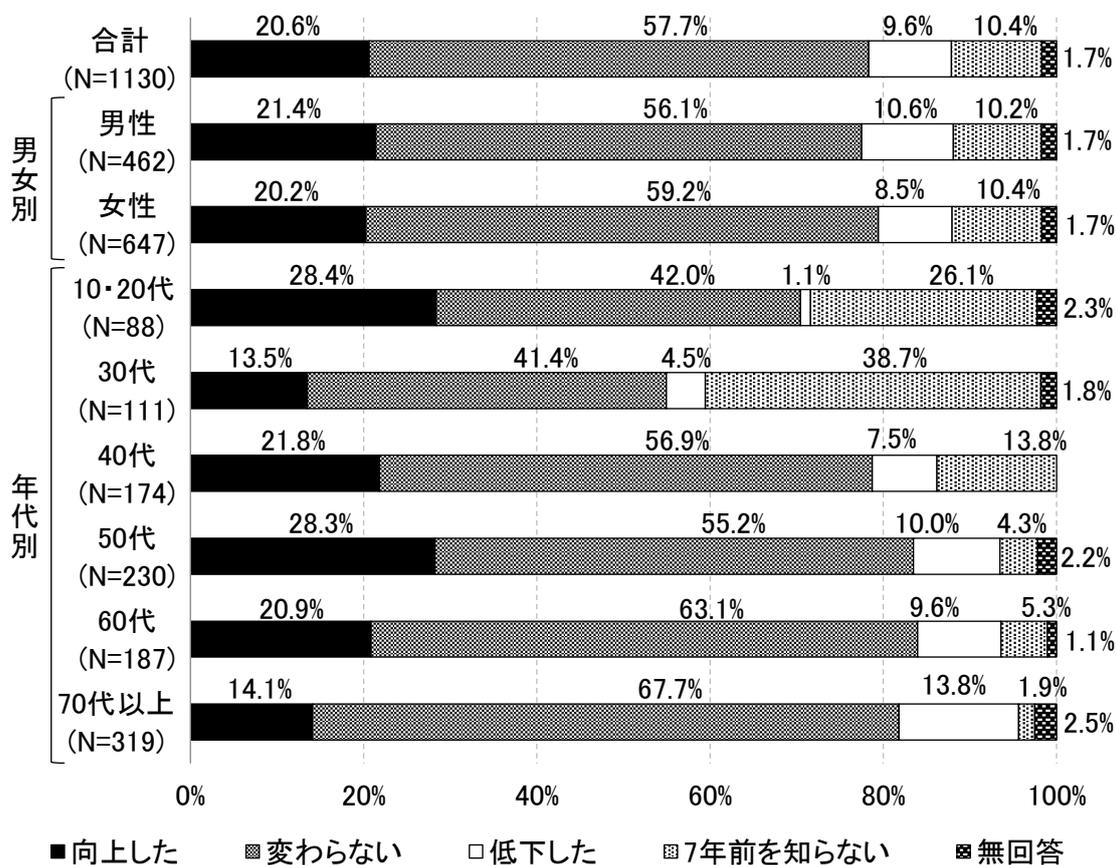


図20 Q7E 中心市街地で7年前と比べて向上したか (歩行者にとっての歩きやすさ)

Q7F の7年前と比べた場合の中心市街地の風紀や治安に関して、男女別・年代別のすべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また「向上した」の割合を年代別でみると、40代が14.9%と最も高く、60代が8.0%と最も低い（図 21）。

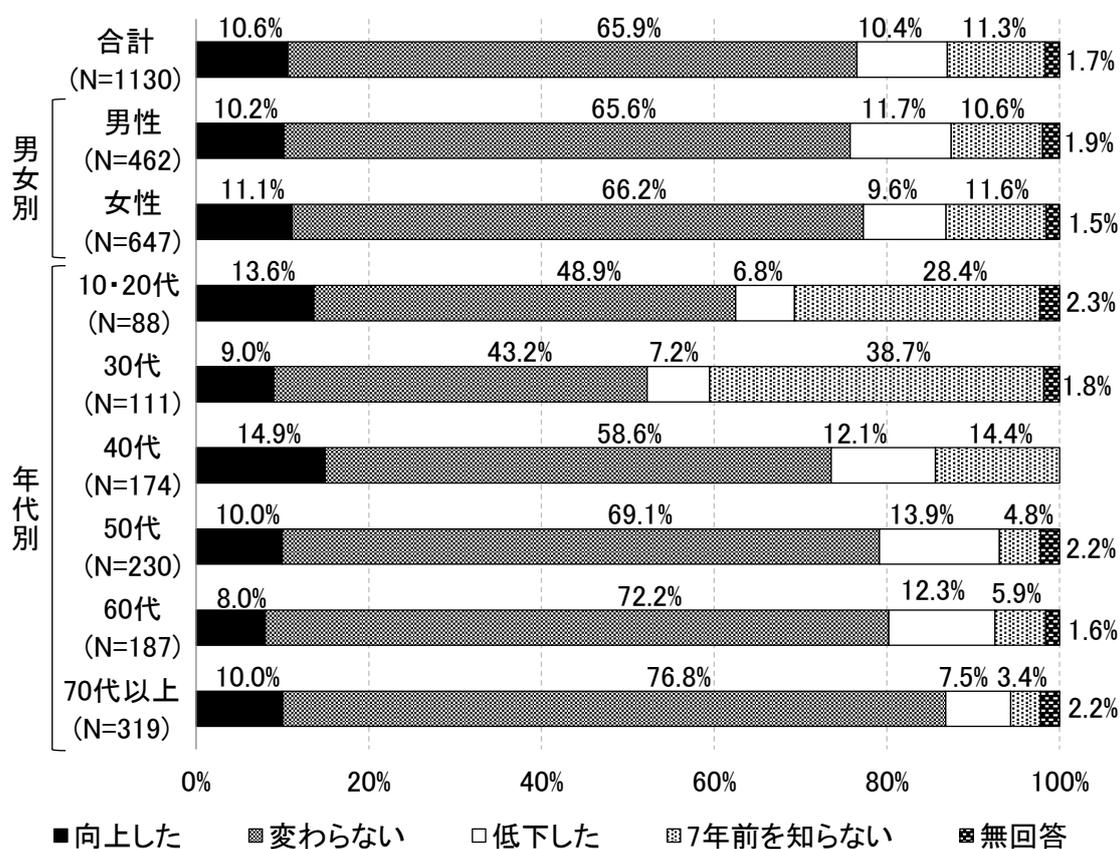


図 21 Q7F 中心市街地で7年前と比べて向上したか（風紀や治安）

Q8A～Q8L が、中心市街地において、それぞれが7年前と比べて増加したか減少したかを質問している。なお、Q8A～Q8K のいずれにおいても、30代で「7年前を知らない」の割合が高くなっていることに注意が必要である。

Q8A の文化活動に関して、男女別・年代別で見ると、30代を除いた層で「変わらない」が最も高い割合である。また、「増加した」の割合を男女別・年代別で見ると、30代を除いて、すべての層で3割程度である。「減少した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で1割に満たない（図 22）。

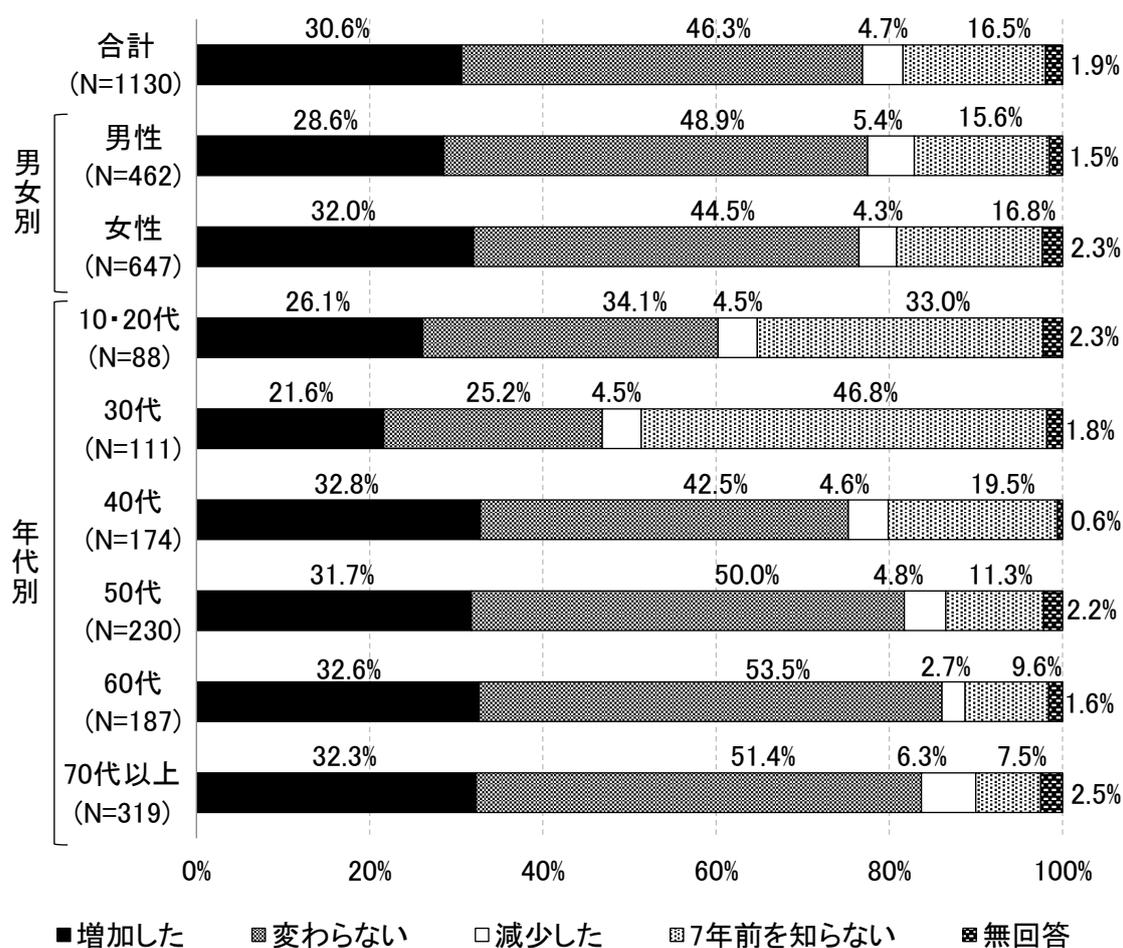


図 22 Q8A 中心市街地で7年前と比べて増加したか（文化活動）

Q8B のコミュニティ活動に関して、男女別・年代別で見ると、30代を除いた層で「変わらない」が最も高い割合である。また、「増加した」の割合は、男女別・年代別すべての層で3割未満である。「減少した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で2割に満たない(図 23)。

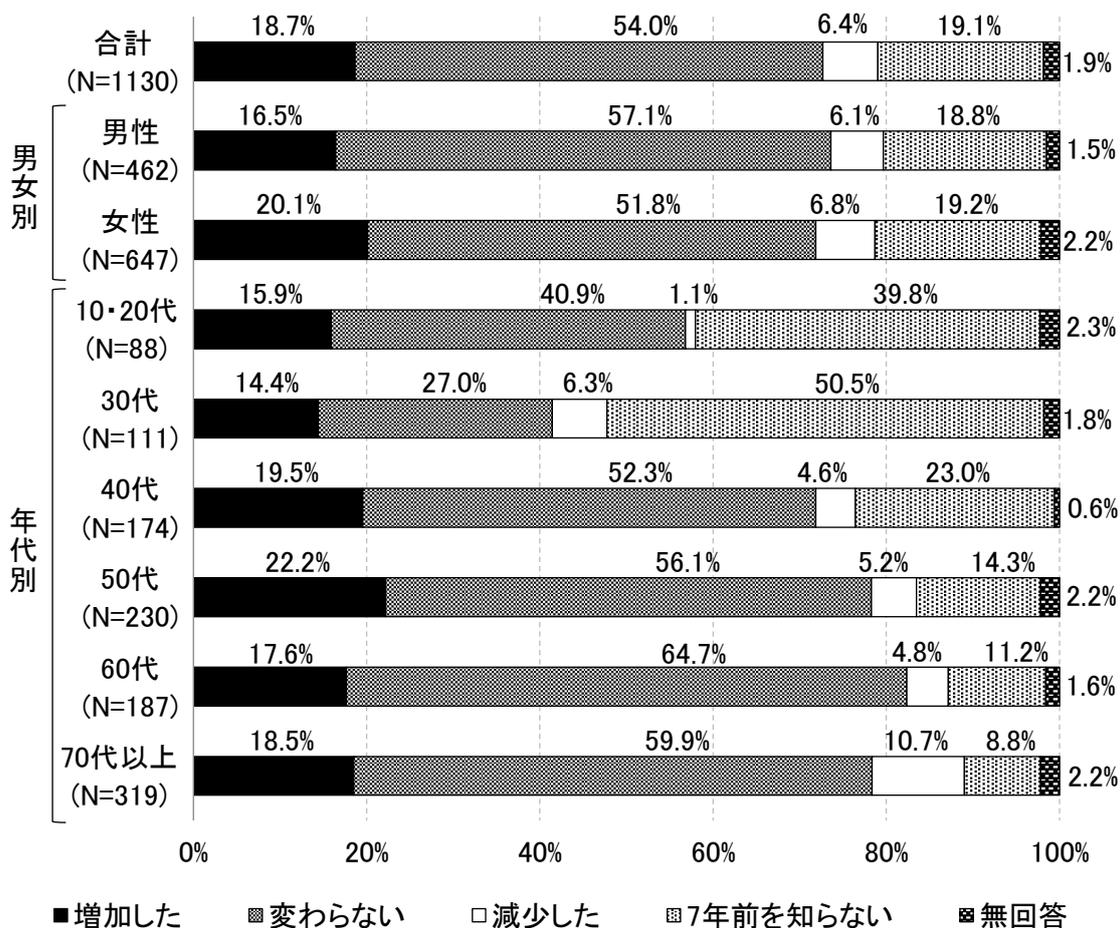


図 23 Q8B 中心市街地で7年前と比べて増加したか (コミュニティ活動)

Q8C の商店街の魅力に関して、男女別・年代別で見ると、30代を除いて、すべての層で「変わらない」が最も高い割合である。また、「増加した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で2割未満である。「減少した」の割合は、10・20代と30代を除くすべての年代で3割程度である（図24）。

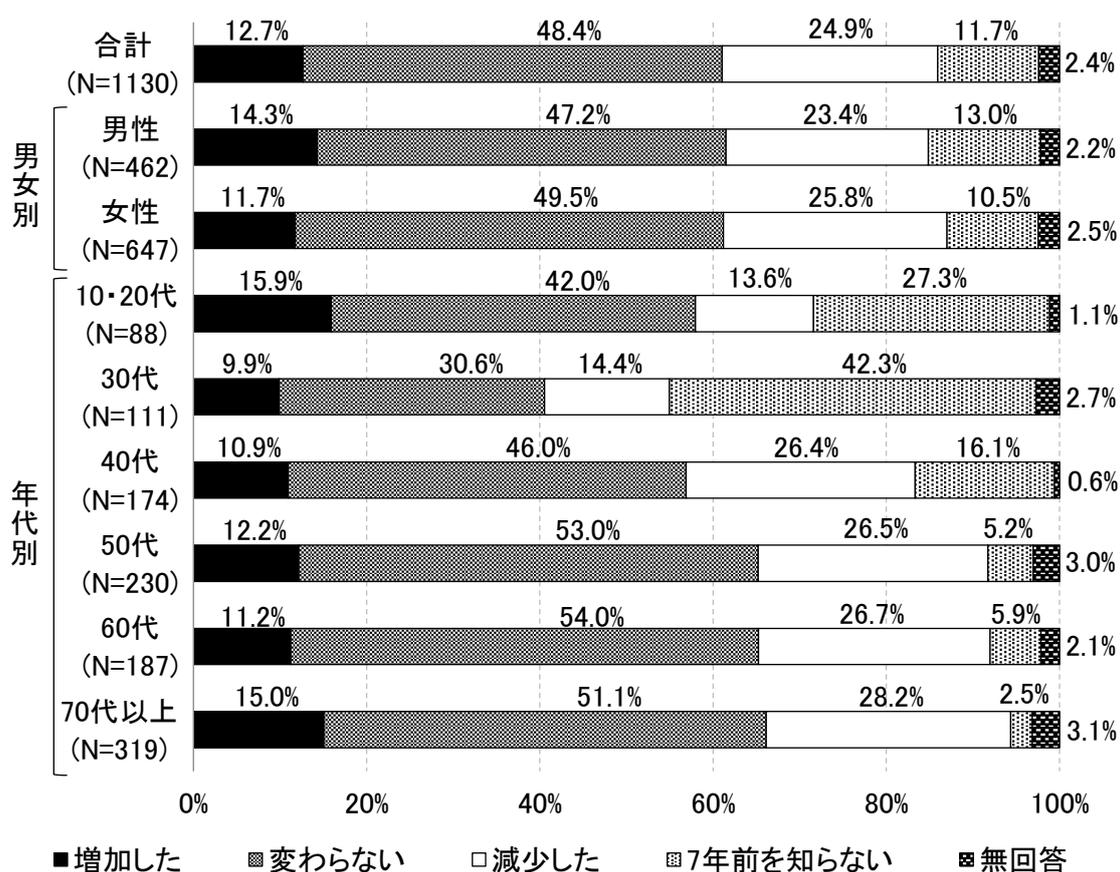


図24 Q8C 中心市街地で7年前と比べて増加したか（商店街の魅力）

Q8D の百貨店などの大型店の魅力に関して、男女別・年代別でみると、30代は「7年前を知らない」と「増加した」が同じ37.8%で最も高い割合である。また、「減少した」の割合は、男女別・年代別すべての層で3割未満であり、30代が4.5%と最も低い（図 25）。

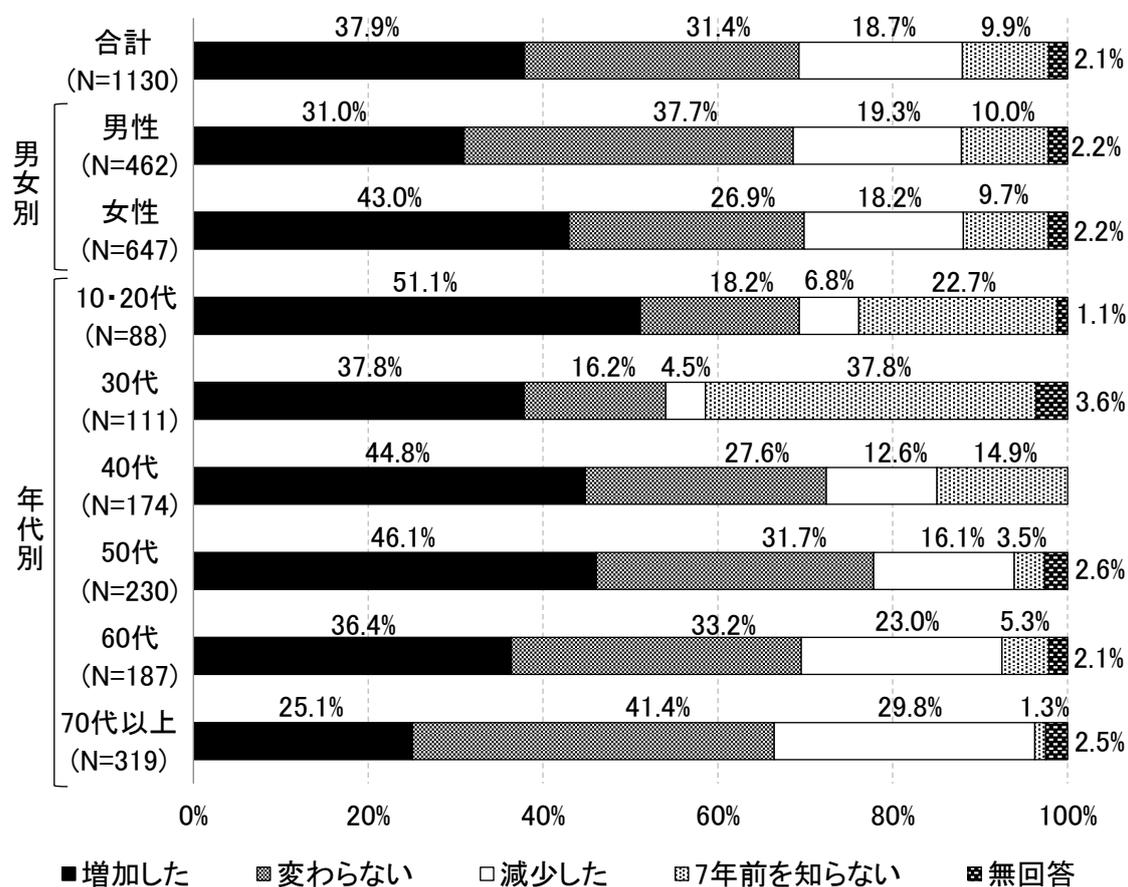


図 25 Q8D 中心市街地で7年前と比べて増加したか（百貨店などの大型店の魅力）

Q8E の買い物やイベントでのにぎわいに関して、男女別・年代別でみると、10・20代、30代を除いた層で「変わらない」が最も高い割合である。また、「増加した」の割合は、男女別・年代別すべての層で4割未満である。「減少した」の割合は、男女別・年代別すべての層で2割未満である（図 26）。

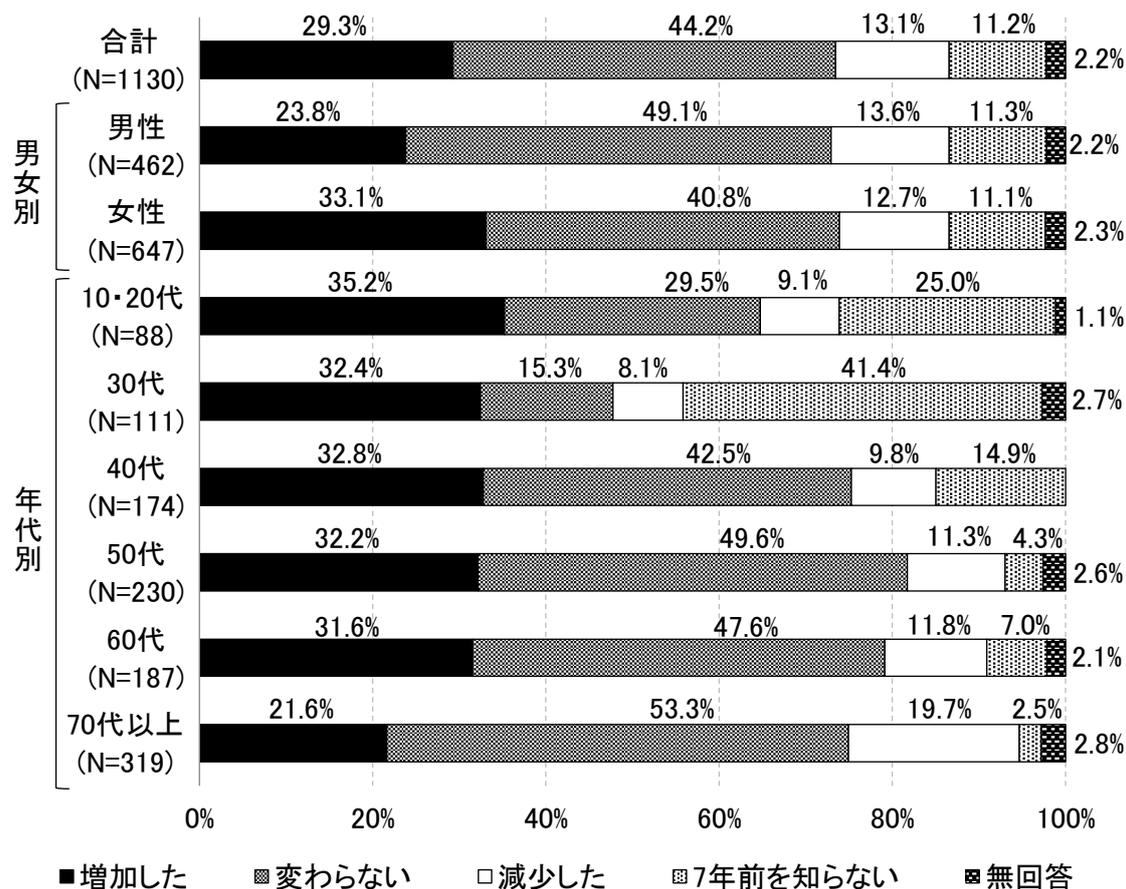


図 26 Q8E 中心市街地で7年前と比べて増加したか
(買い物やイベントでのにぎわい)

Q8Fの魅力的な飲食店に関して、男女別・年代別でみると、10・20代～40代を除いた層で「変わらない」が最も高い割合である。また、「増加した」の割合を年代別でみると、10・20代が44.3%と最も高く、反対に70代以上で18.8%と最も低い（図27）。

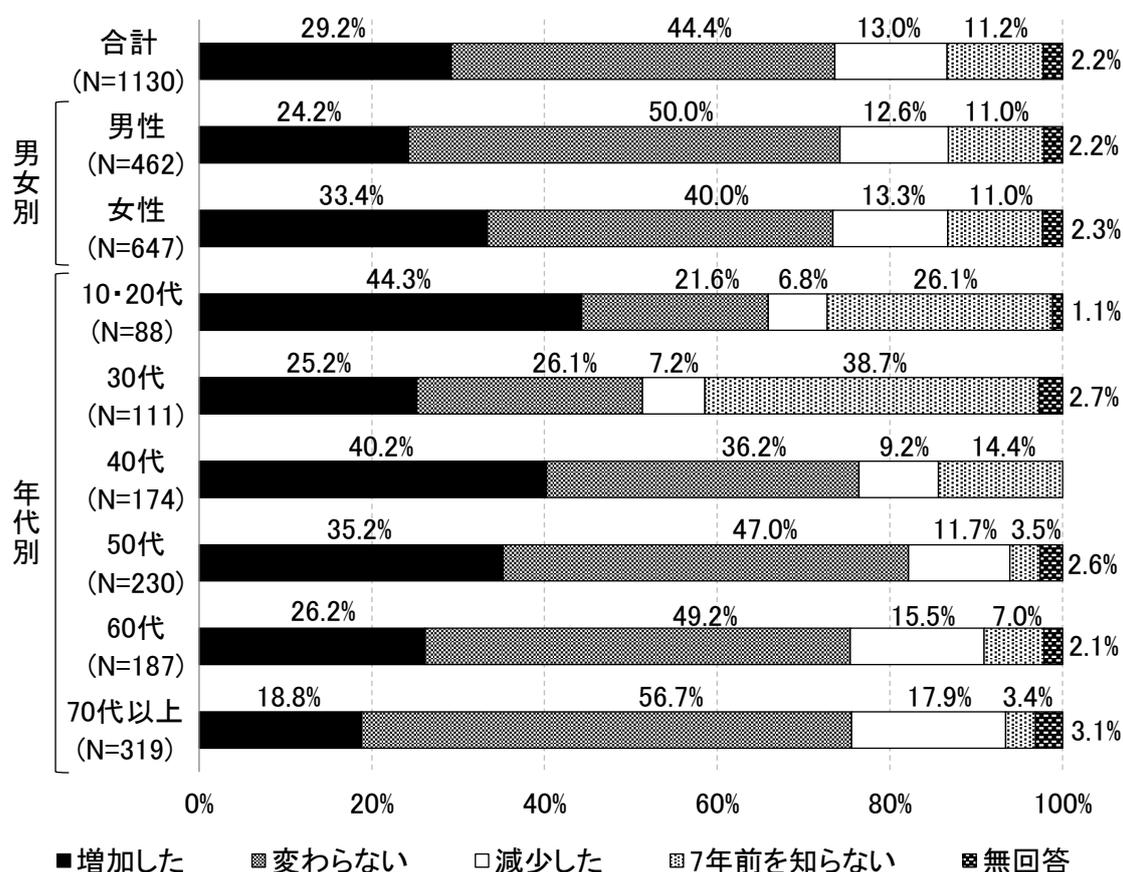


図27 Q8F 中心市街地で7年前と比べて増加したか（魅力的な飲食店）

Q8G のオフィスなどの業務施設に関して、男女別・年代別でみると、30代を除いた層で「変わらない」が最も高い割合である。また、「増加した」の割合は、男女別・年代別の10・20代を除く、すべての層でいずれも1割未満である（図 28）。

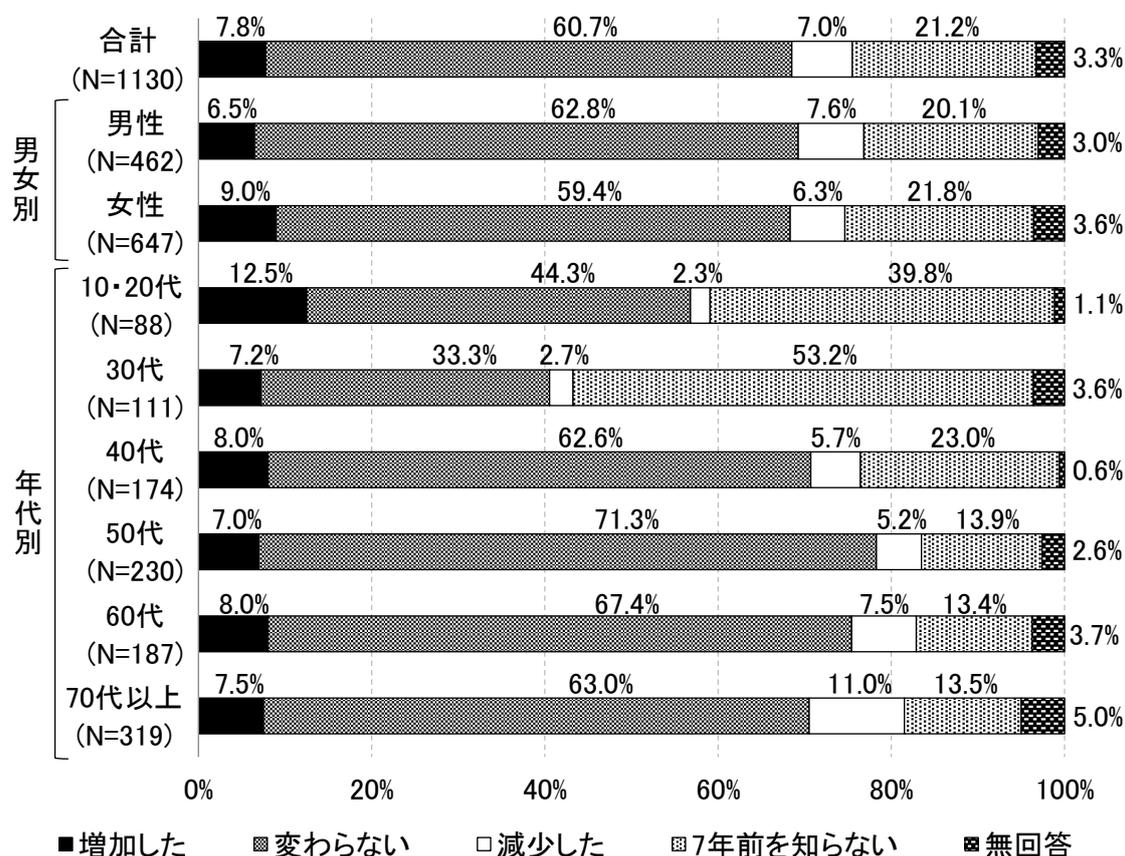


図 28 Q8G 中心市街地で7年前と比べて増加したか（オフィスなど業務施設）

Q8H の病院などの医療機関に関して、男女別・年代別でみると、30代を除いた層で「変わらない」が最も高い割合である。また、年代別でみると、「増加した」の割合は50代、70代以上は3割を超えているが、30代は24.3%と最も低い。「減少した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で1割未満である（図29）。

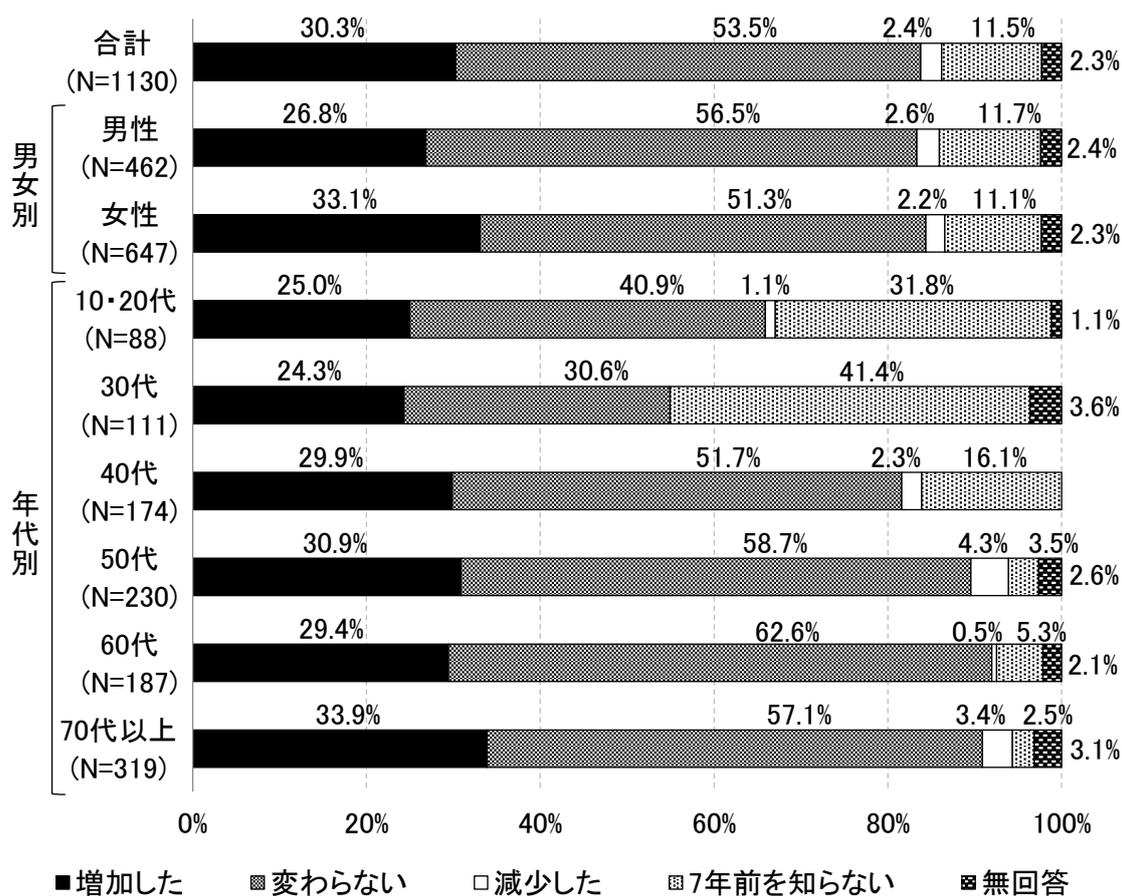


図29 Q8H 中心市街地で7年前と比べて増加したか（病院などの医療機関）

Q8I の道路の渋滞に関して、男女別・年代別でみると、30代を除いた層で「変わらない」が最も高い割合である。年代別でみると、「増加した」の割合は、すべての年代で3割未満である。また、「減少した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で1~2割程度である(図30)。

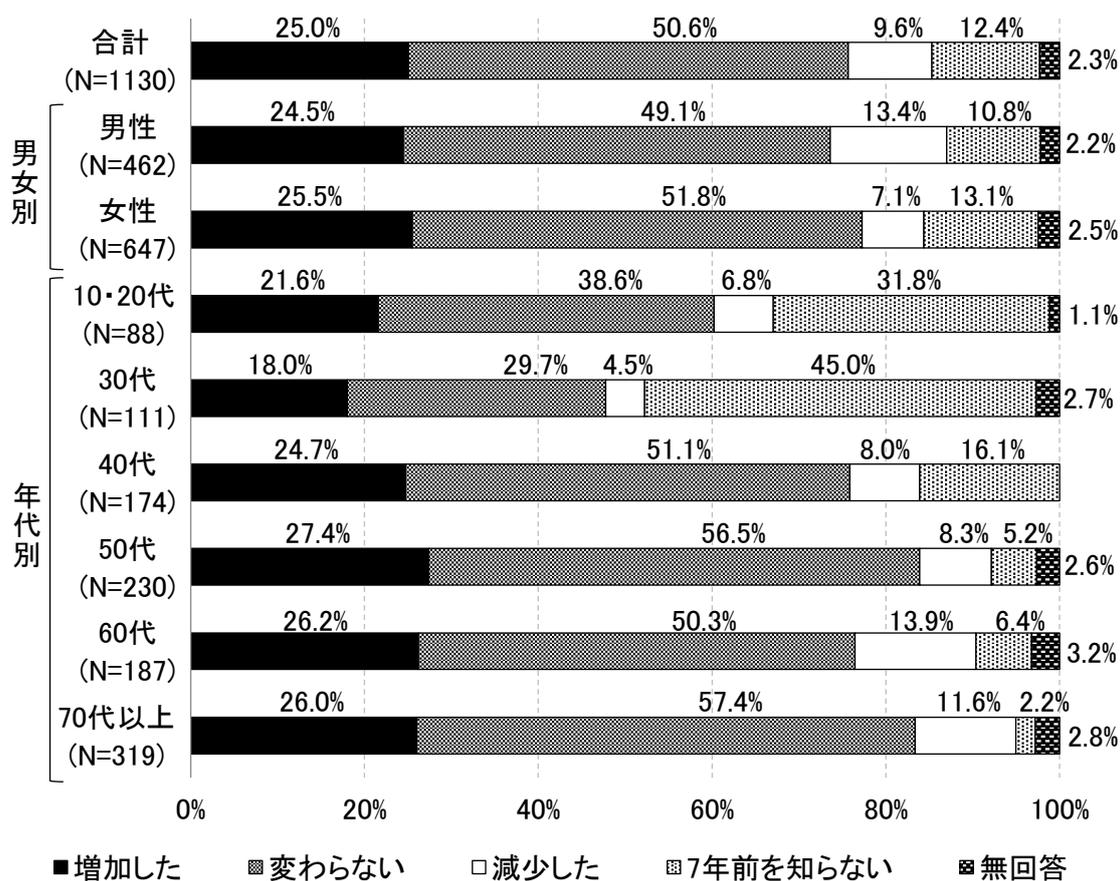


図30 Q8I 中心市街地で7年前と比べて増加したか (道路の渋滞)

Q8Jの駐輪場に関して、男女別・年代別でみると、10・20代は「7年前を知らない」と「変わらない」が同じ34.1%で最も高い割合である。年代別でみると、「増加した」の割合は、70代以上が28.8%と最も高く、30代が17.1%と最も低い。また、「減少した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で1割以下である（図31）。

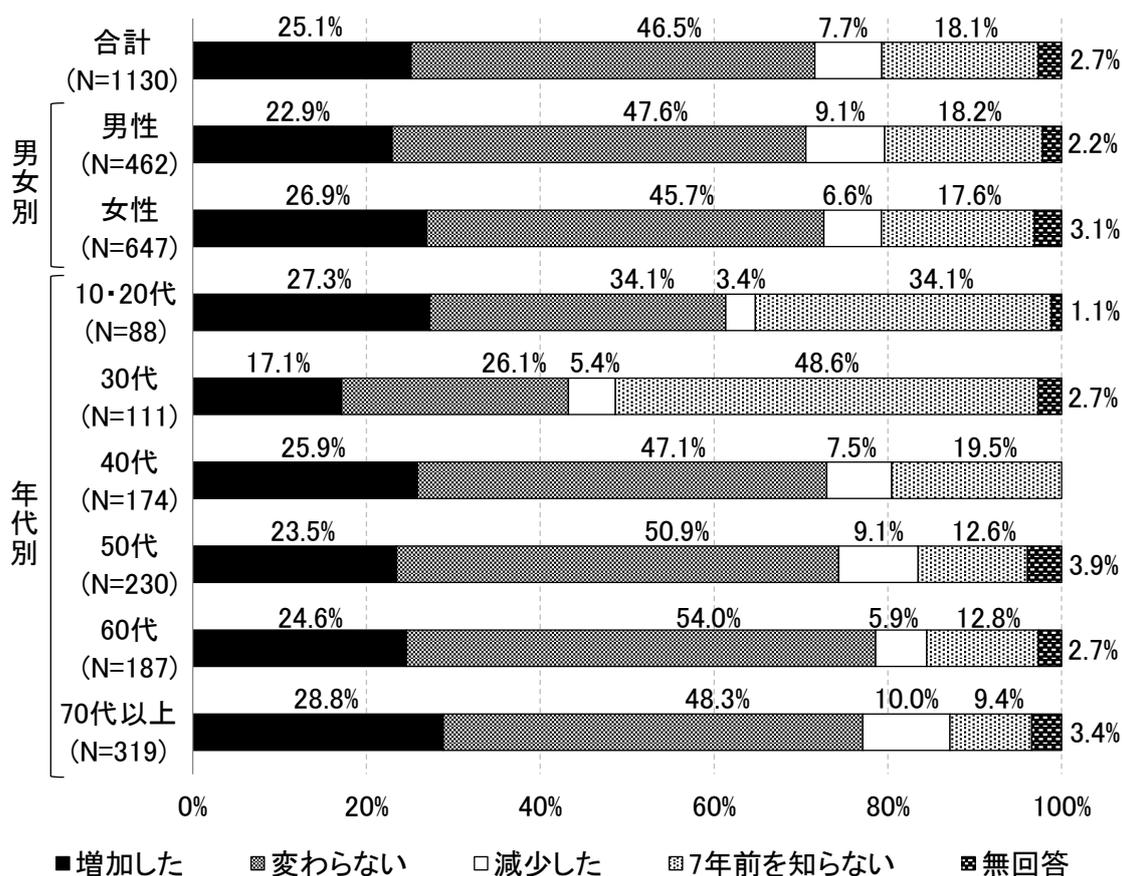


図31 Q8J 中心市街地で7年前と比べて増加したか（駐輪場）

Q8 K の駐車場に関して、男女別・年代別で見ると、30代を除いた層で「変わらない」が最も高い割合である。年代別で見ると、「増加した」の割合は、70代以上が22.6%と最も高く、反対に30代が10.8%と最も低い。また、「減少した」の割合は、男女別・年代別のすべての層で2割未満である（図32）。

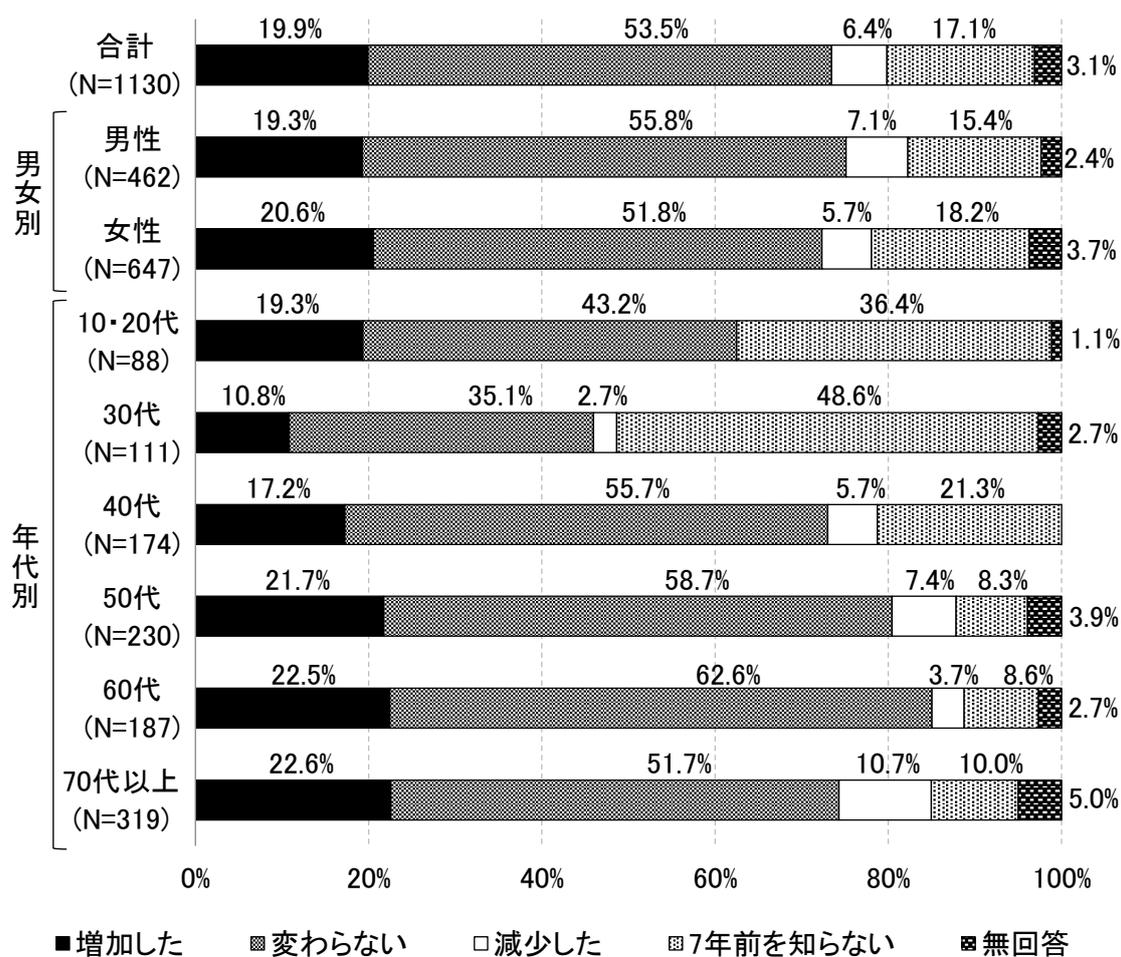


図 32 Q8K 中心市街地で7年前と比べて増加したか（駐車場）

Q8Lの街なかの緑や潤いに関して、男女別・年代別でみると、30代を除いた層で「変わらない」が最も高い割合である。年代別でみると、「増加した」の割合は、50代が18.7%と最も高く、30代が12.6%と最も低い。「減少した」の割合は、すべての年代で3割未満である(図33)。

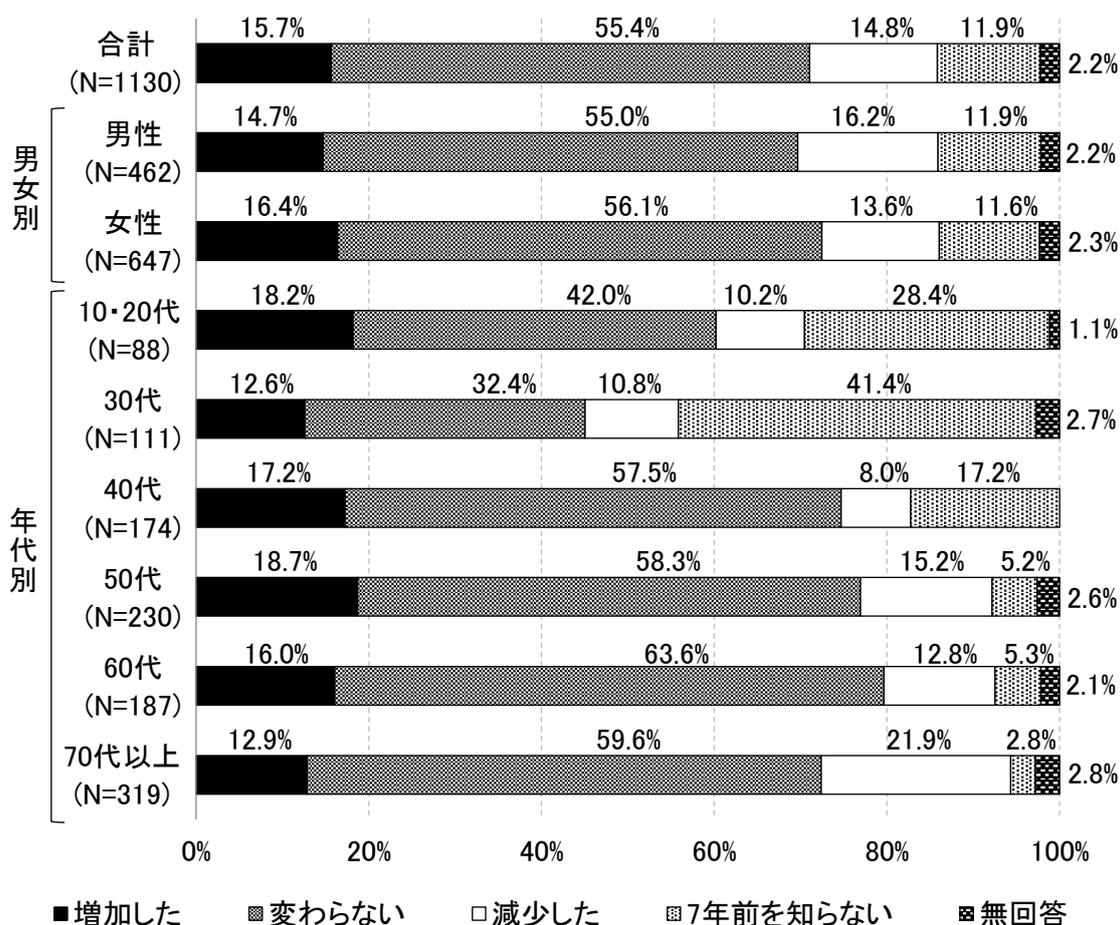


図33 Q8L 中心市街地で7年前と比べて増加したか (街なかの緑や潤い)

Q9 の中心市街地を住み良い街にするための必要な取り組みに関して、「治安・防犯の向上」が 48.8%と最も高く、「街のバリアフリー化」が 47.3%と続く（図 34）。

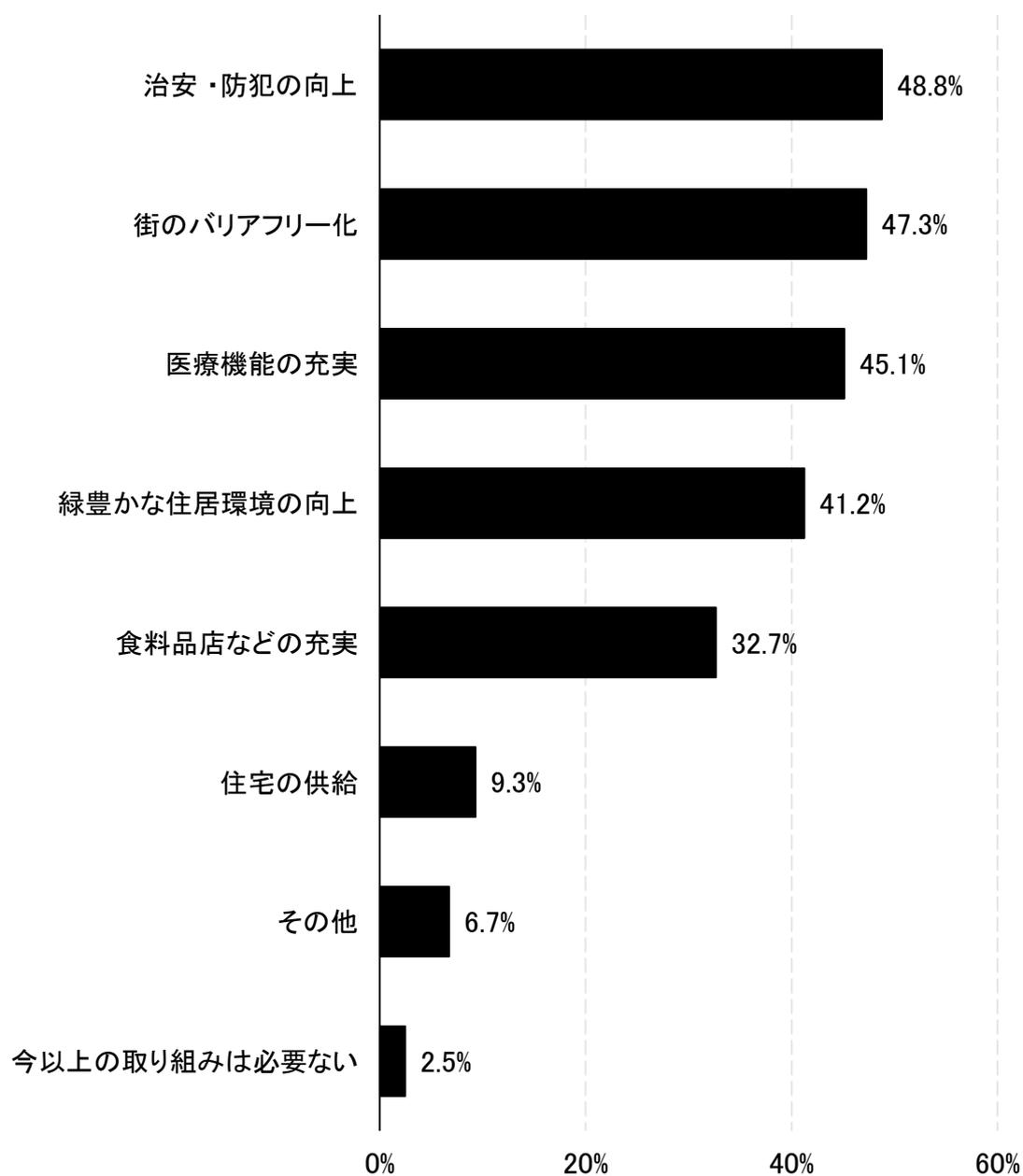


図 34 Q9 中心市街地で必要な取り組み（複数回答・全体 N=1130）

Q9 の中心市街地を住み良い街にするための必要な取り組みに関して、男女別でみると、「治安・防犯の向上」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 7.0 ポイント高い (図 35)。

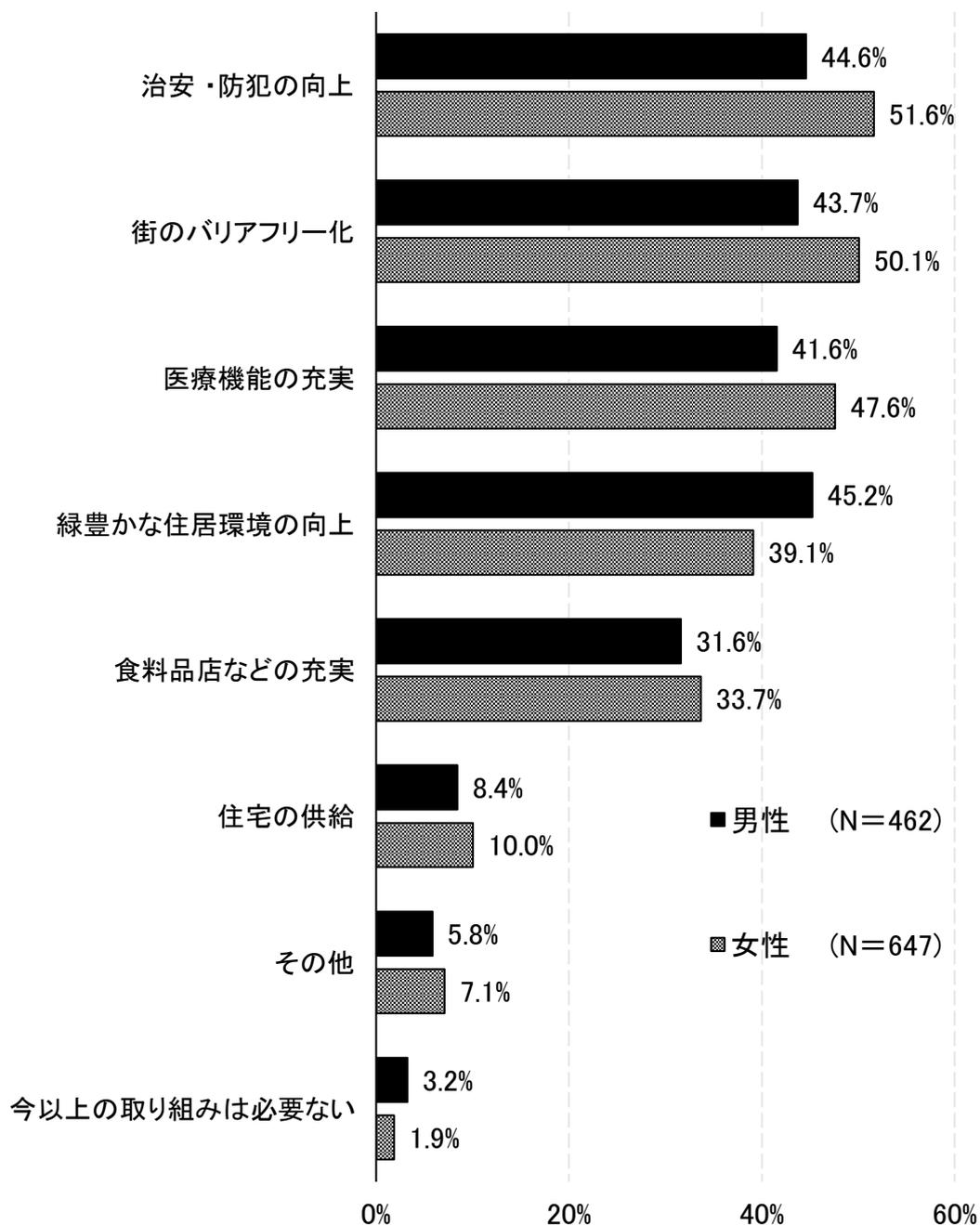


図 35 Q9 中心市街地で必要な取り組み (複数回答・男女別)

Q9 の中心市街地を住み良い街にするための必要な取り組みに関して、年代別でみると、「街のバリアフリー化」は、年代が上がるにつれて割合が高まる傾向にある（図 36）。

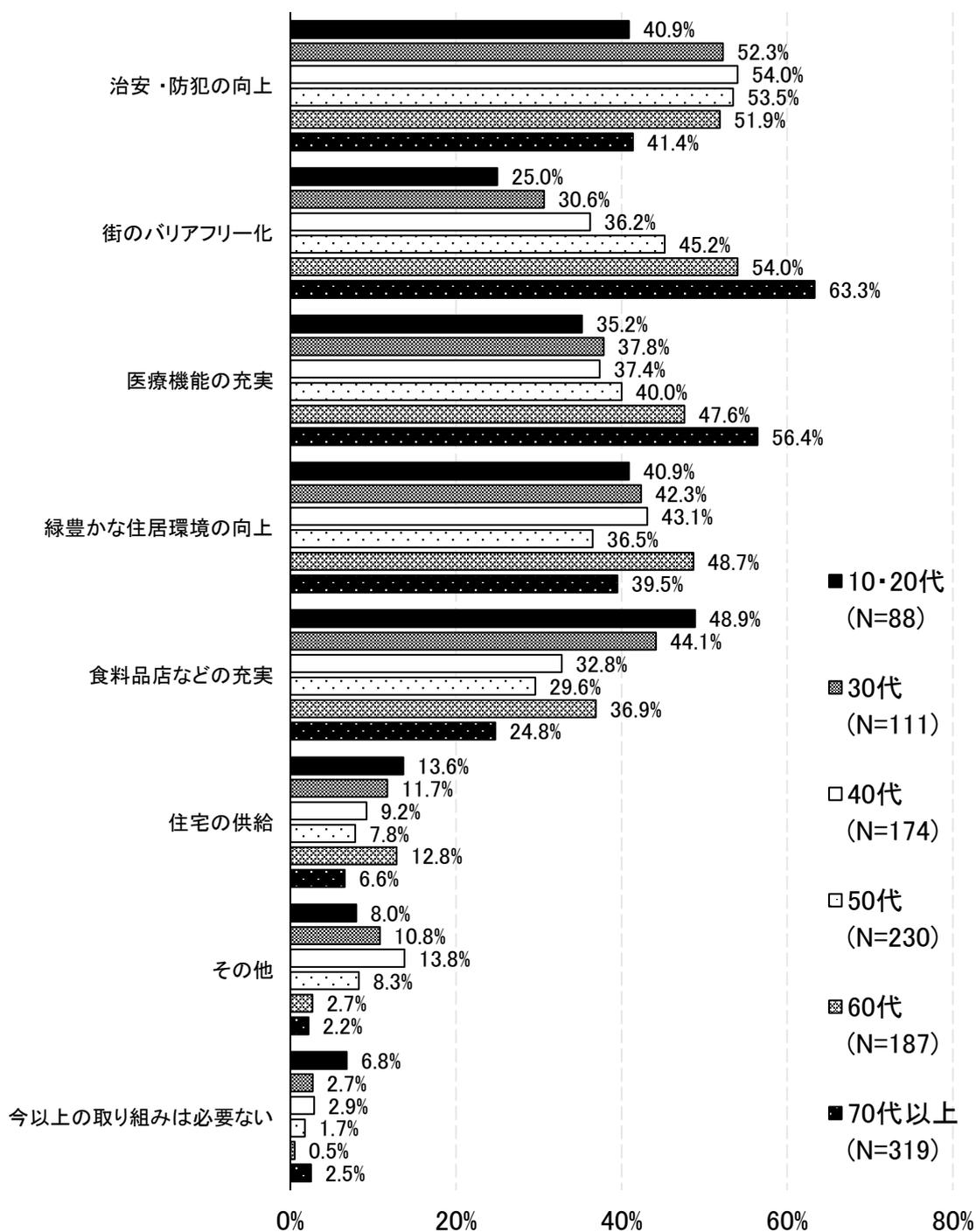


図 36 Q9 中心市街地で必要な取り組み（複数回答・年代別）

Q10のJR高槻駅の利用に関して、年代別でみると、男女別・年代別のすべての層で「利用する」と回答した人の割合が「利用しない」と回答した人の割合よりも高い。また、「利用する」と回答した人の割合は全ての年代で5割以上であり、10・20代が72.7%と最も高い(図37)。

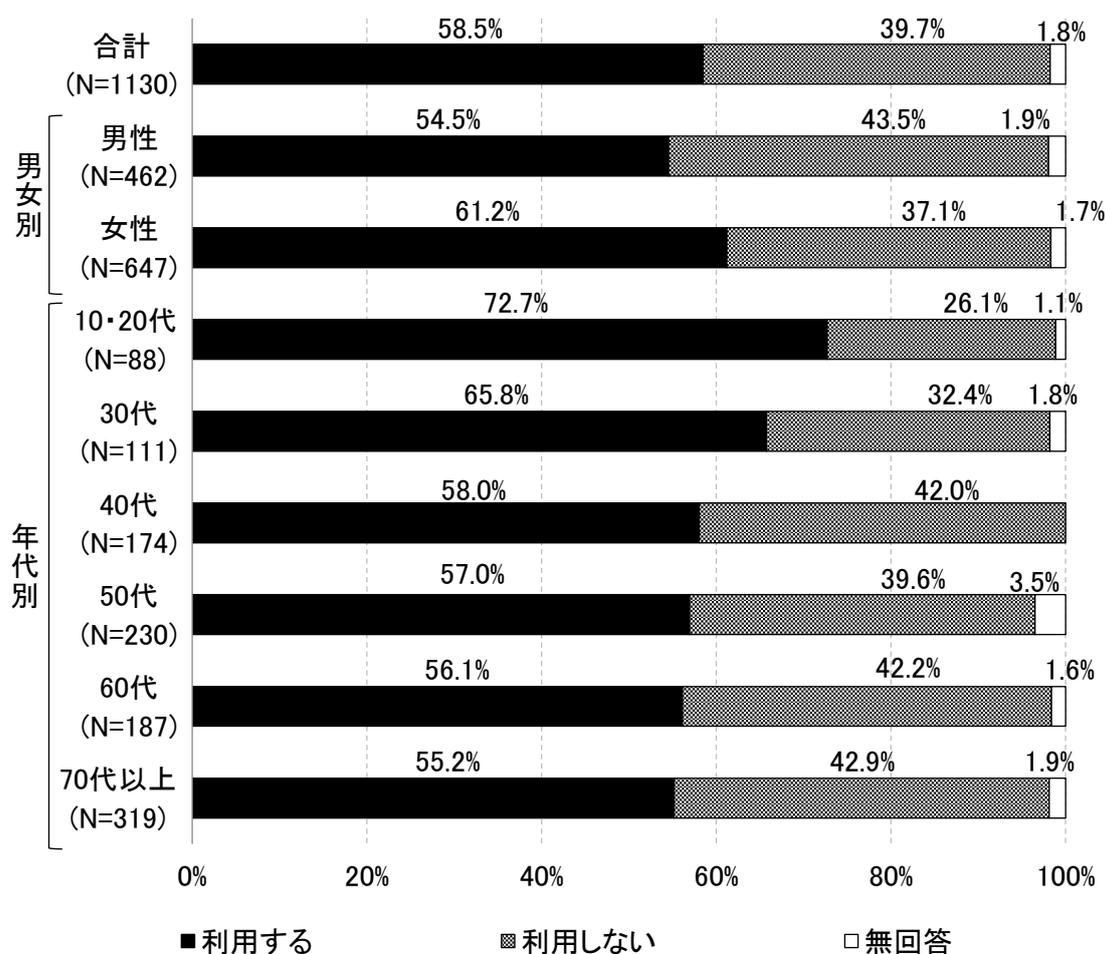


図 37 Q10 JR 高槻駅の利用

Q11のJR高槻駅周辺が高槻の玄関口にふさわしい風格と魅力ある都市空間だと感じるかに関して、男女別・年代別のすべての層で5割以上が「感じる」または「やや感じる」と回答している。年代別でみると、「感じる」または「やや感じる」と回答した人の割合は10・20代が70.5%と最も高い(図38)。

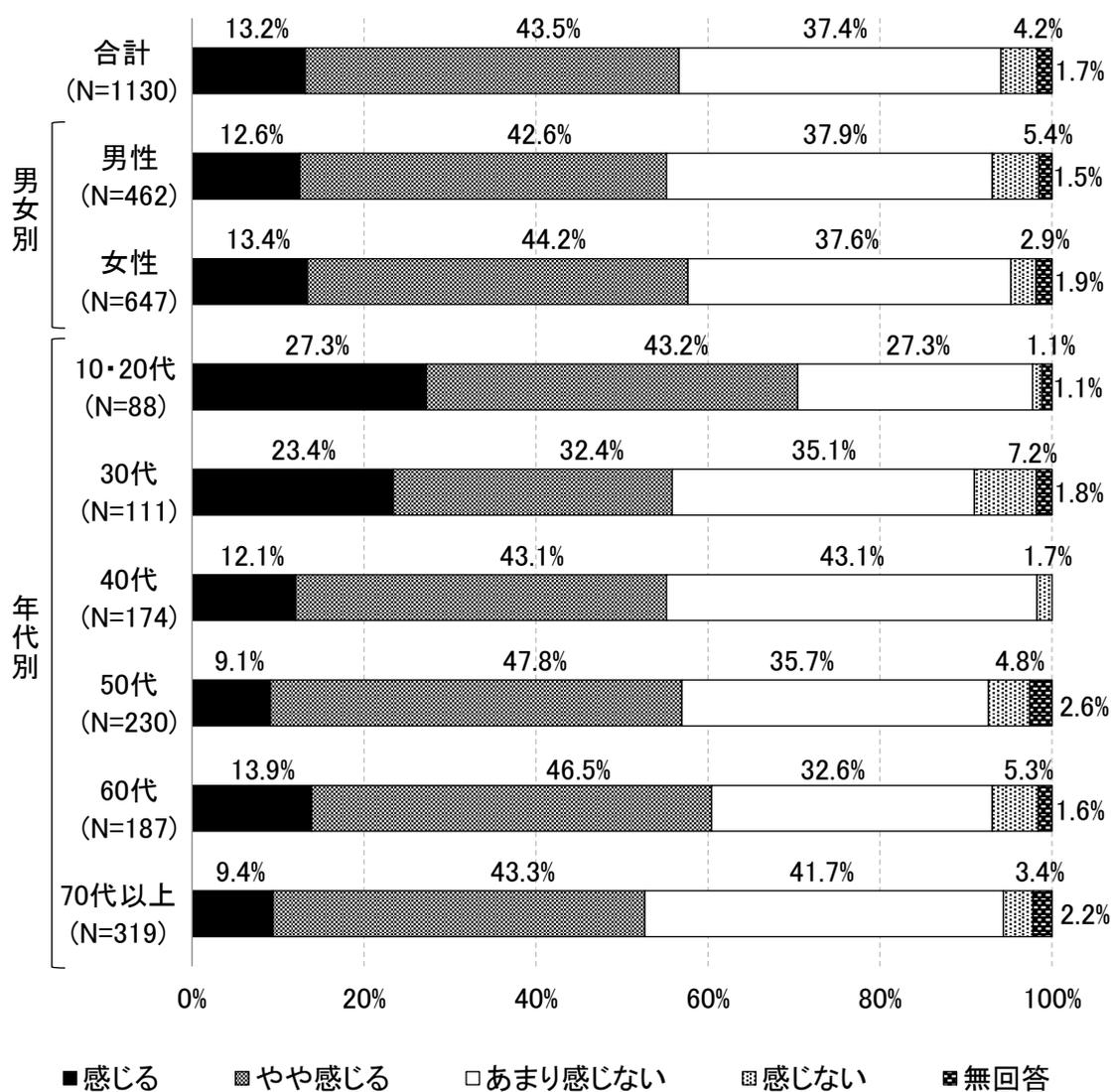


図38 Q11 JR高槻駅周辺が高槻の玄関口にふさわしい風格と魅力ある都市空間だと感じるか

Q12 の阪急高槻市駅の利用に関して、男女別・年代別で見ると、女性、10・20代、30代を除く、すべての層で「利用しない」と回答した人の割合が「利用する」と回答した人の割合よりも高い。また、「利用しない」と回答した人の割合は全ての年代で3割以上であり、40代が56.3%と最も高い（図39）。

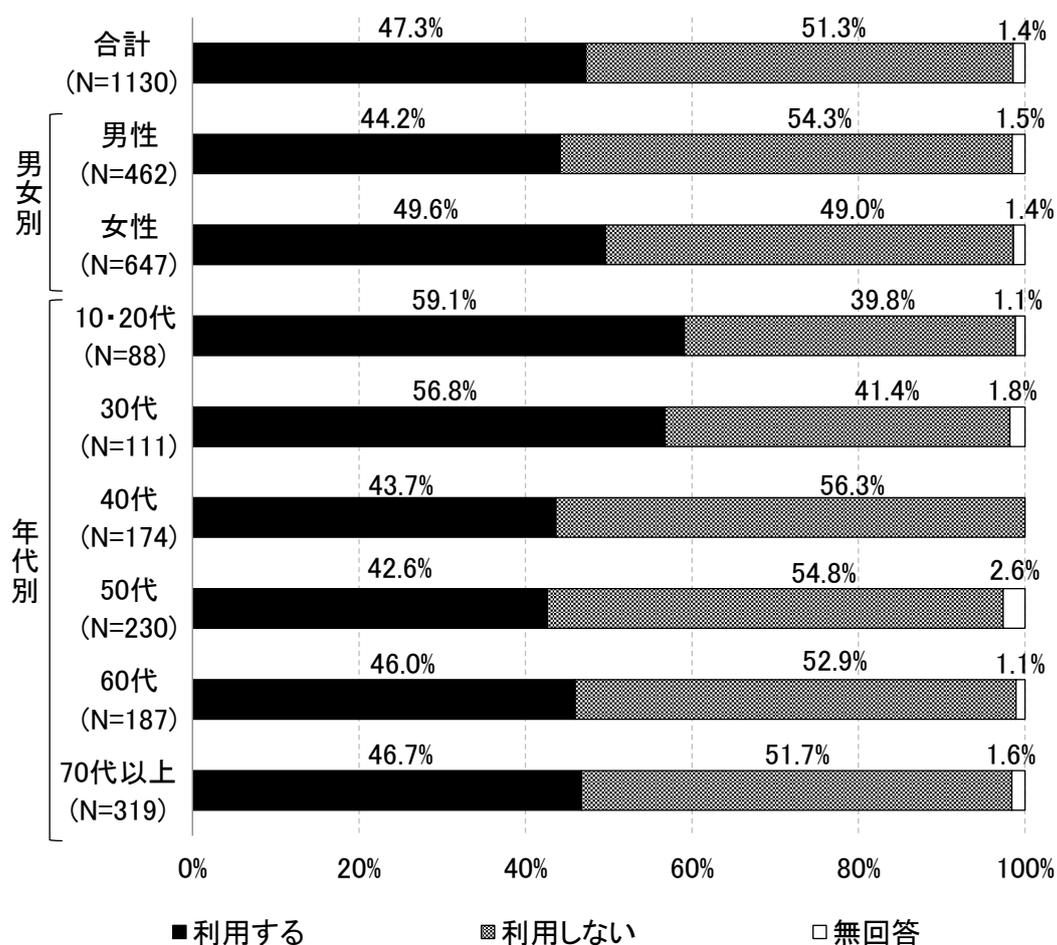


図 39 Q12 阪急高槻市駅の利用

Q13 の阪急高槻市駅周辺が高槻の玄関口にふさわしい風格と魅力ある都市空間だと感じるかに関して、男女別・年代別でみると、10・20代～40代を除き、すべての層で5割以上が「あまり感じない」または「感じない」と回答している。年代別でみると、「あまり感じない」または「感じない」と回答した人の割合は70代以上が69.9%と最も高い（図40）。

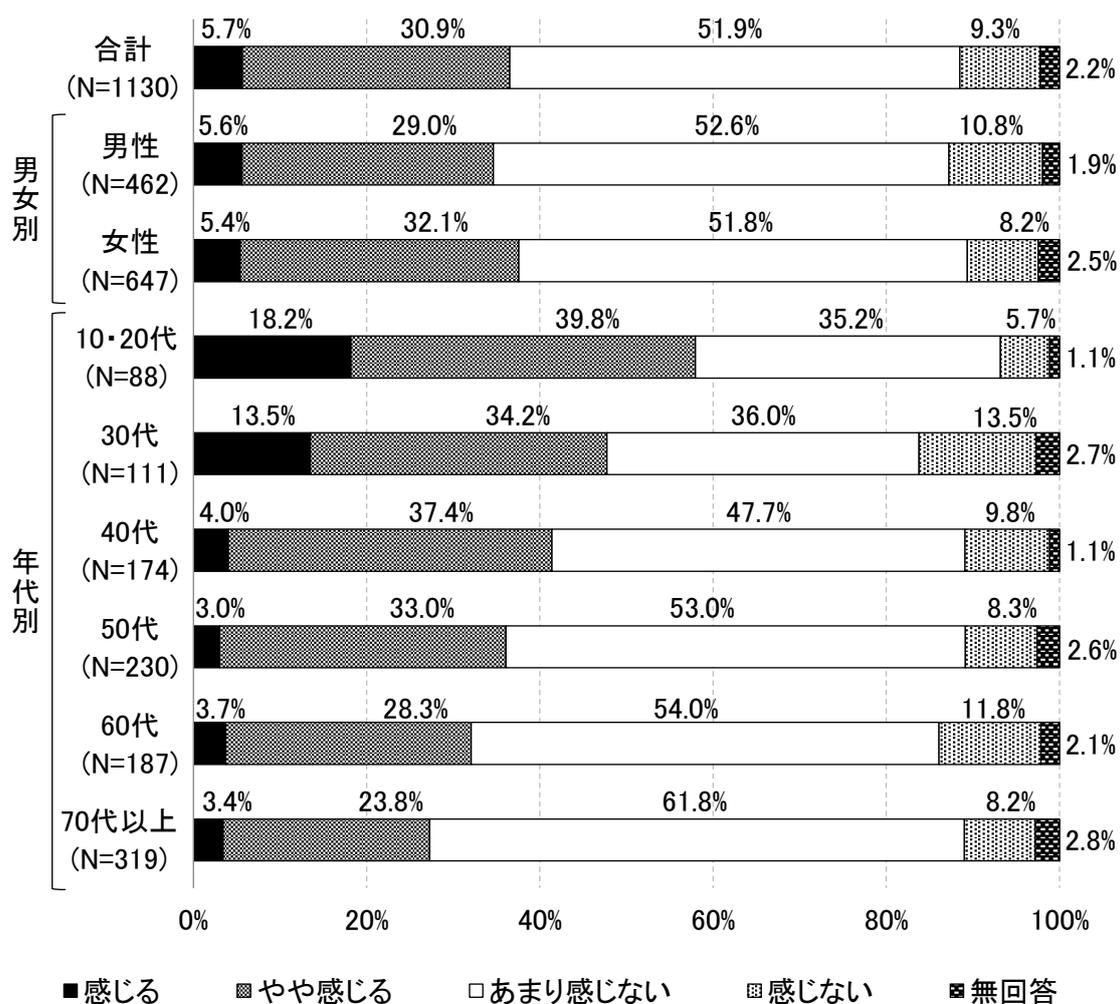


図40 Q13 阪急高槻市駅周辺が高槻の玄関口にふさわしい風格と魅力ある都市空間だと感じるか

Q14 の高槻市のイメージに関して、男女別・年代別のすべての層で「良い」または「やや良い」と回答した人が7割以上である。年代別で見ると、「良い」または「やや良い」と回答した人の割合は30代が85.6%と最も高く、反対に70代以上が78.4%と最も低い（図41）。

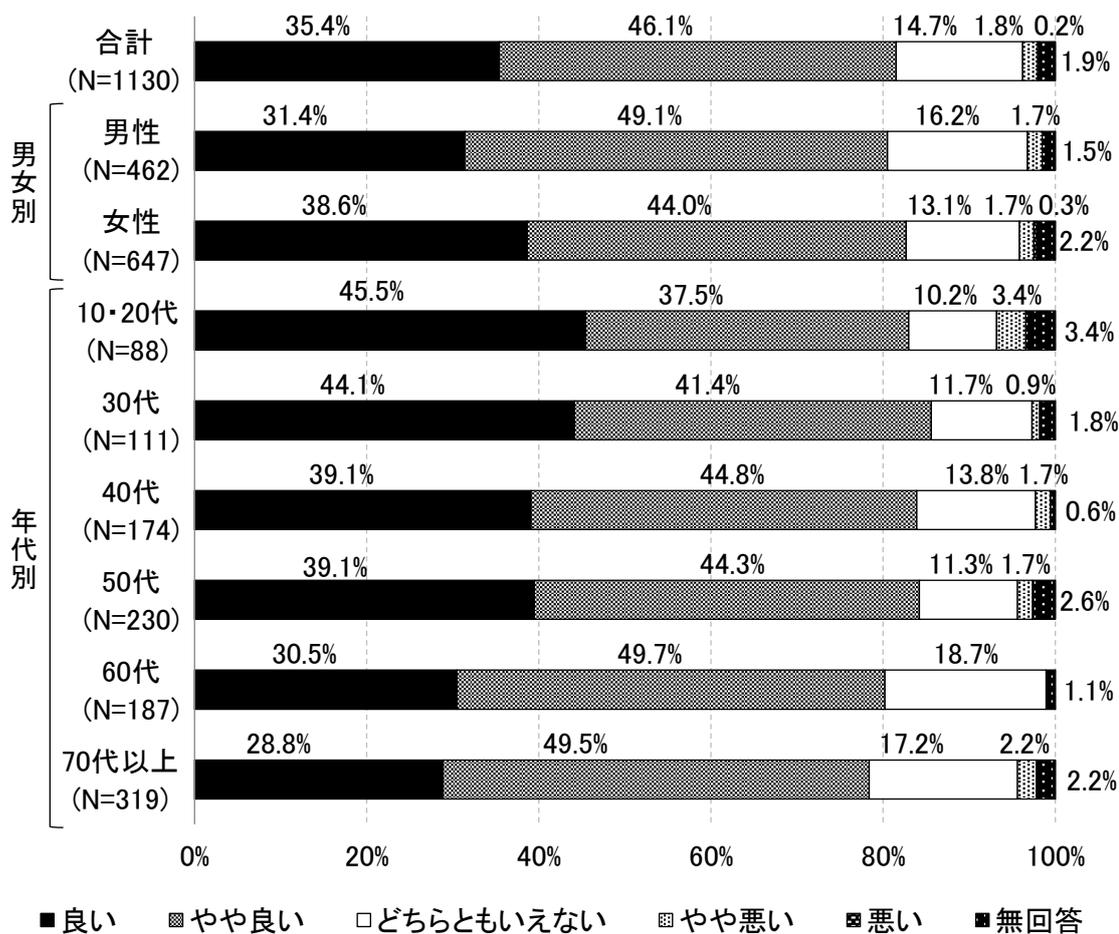


図 41 Q14 高槻市のイメージ

Q15 の高槻市に愛着を感じるかに関して、男女別・年代別のすべての層で「感じる」または「やや感じる」と回答した人が7割以上である。年代別でみると、「感じる」または「やや感じる」と回答した人の割合は50代が83.5%と最も高く、反対に10・20代が76.1%と最も低い（図42）。

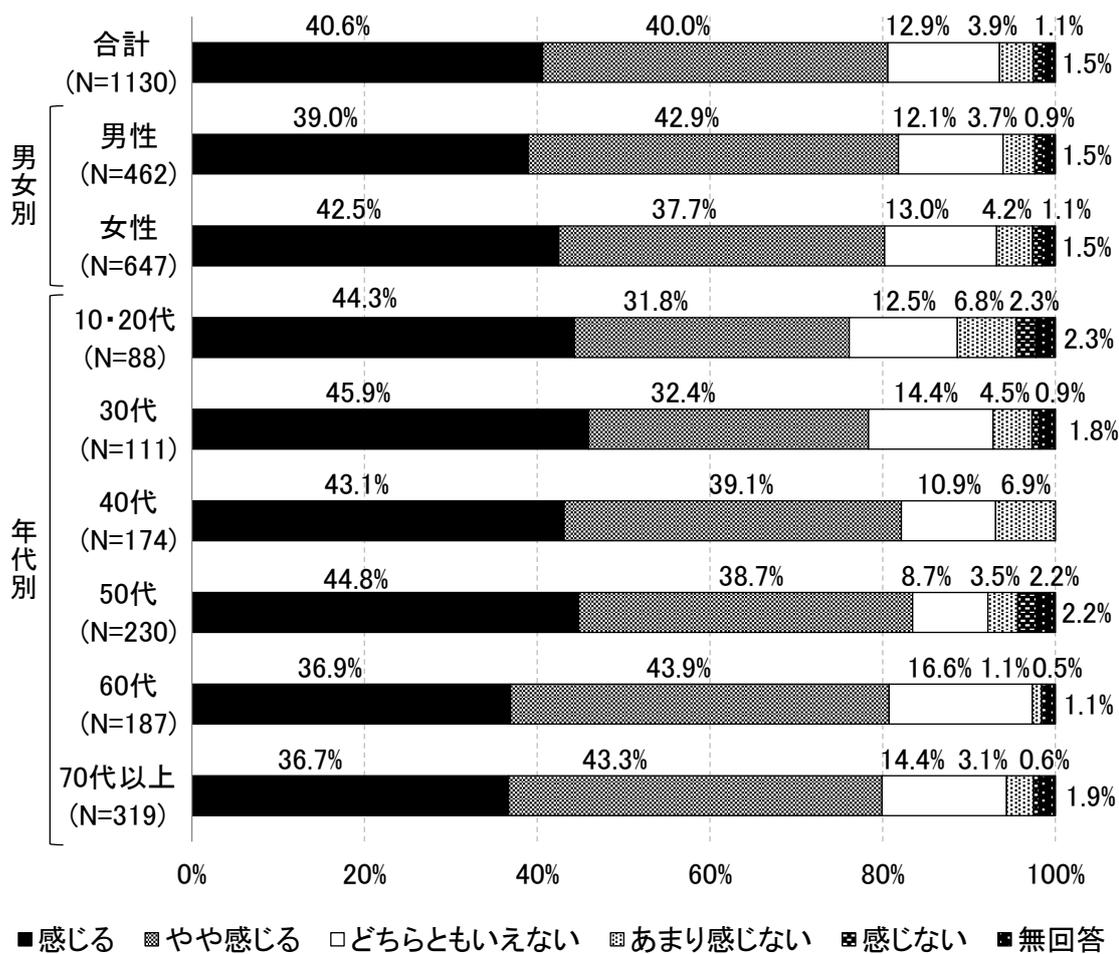


図42 Q15 高槻市に愛着を感じるか

Q16の高槻市のご当地キャラクター「はにたん」に愛着を感じるかに関して、男女別・年代別でみると、70代以上を除き、すべての層で5割以上が「感じる」または「やや感じる」と回答している。年代別でみると、「感じる」または「やや感じる」と回答した人の割合は40代が79.3%と最も高く、反対に70代以上が48.6%と最も低い（図43）。

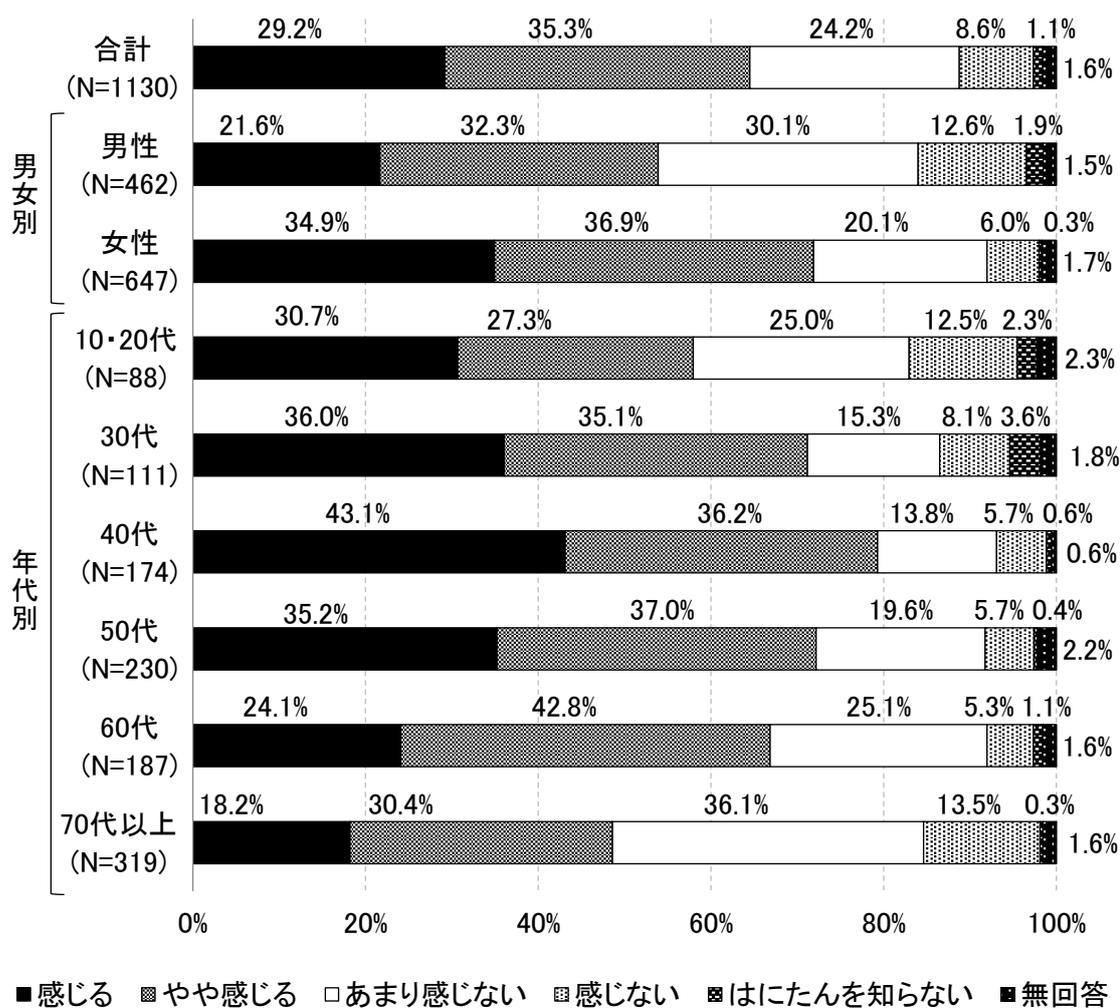


図43 Q16 高槻市のご当地キャラクター「はにたん」に愛着を感じるか

Q17 の高槻市営バスへの満足度に関して、男女別・年代別でみると、すべての層で 5 割以上が「満足」または「やや満足」と回答している。年代別でみると、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は 70 代以上が 78.1%と最も高く、反対に 60 代が 52.4%と最も低い（図 44）。

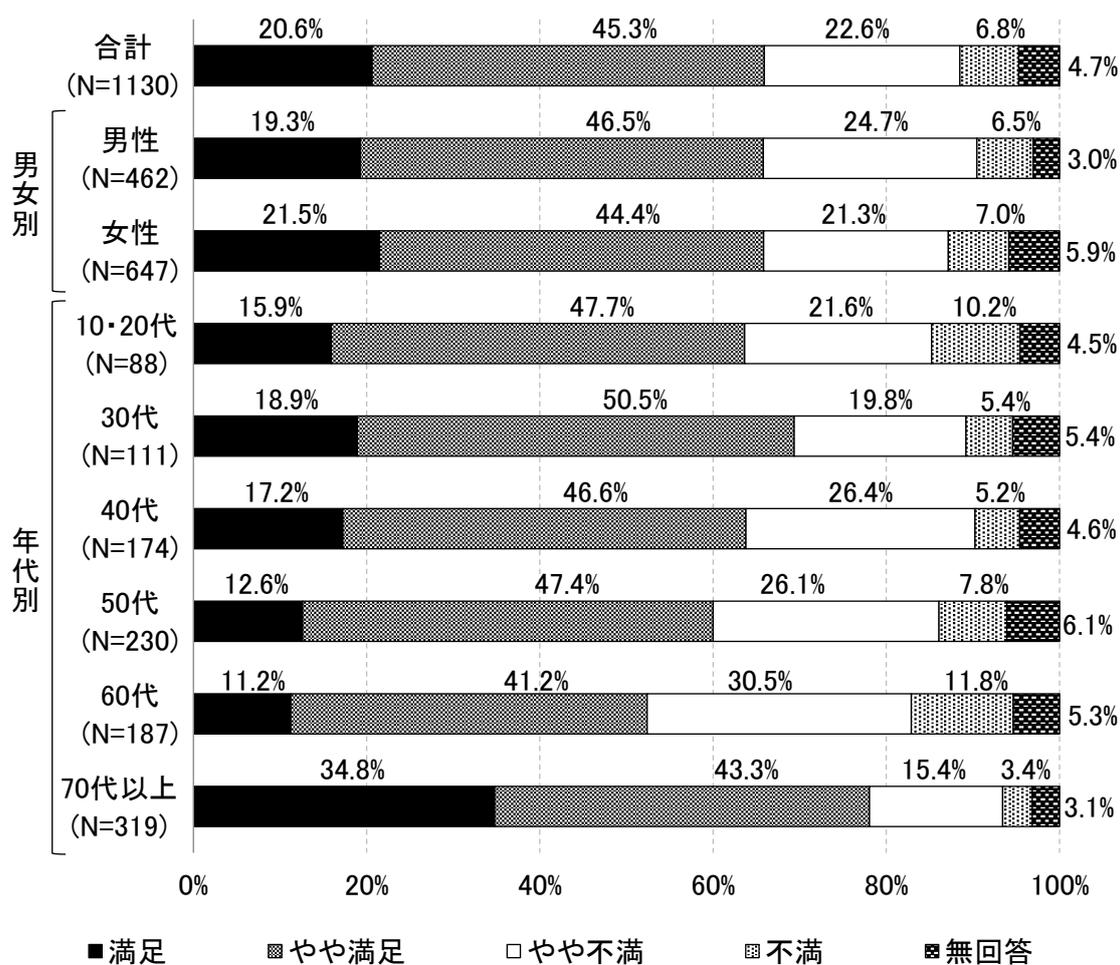


図 44 Q17 高槻市営バスへの満足度

Q18 の高槻市営バスの利用頻度に関して、男女別で見ると、「月に数日以上」（「ほぼ毎日」または「週に3～4日」または「週に1～2日」または「月に数日」）と回答した人の割合は、男性では52.4%、女性では56.1%である。また、年代別で見ると、「利用しない」と回答した人の割合は40代が53.4%と最も高く、反対に70代以上が24.8%と最も低い（図45）。

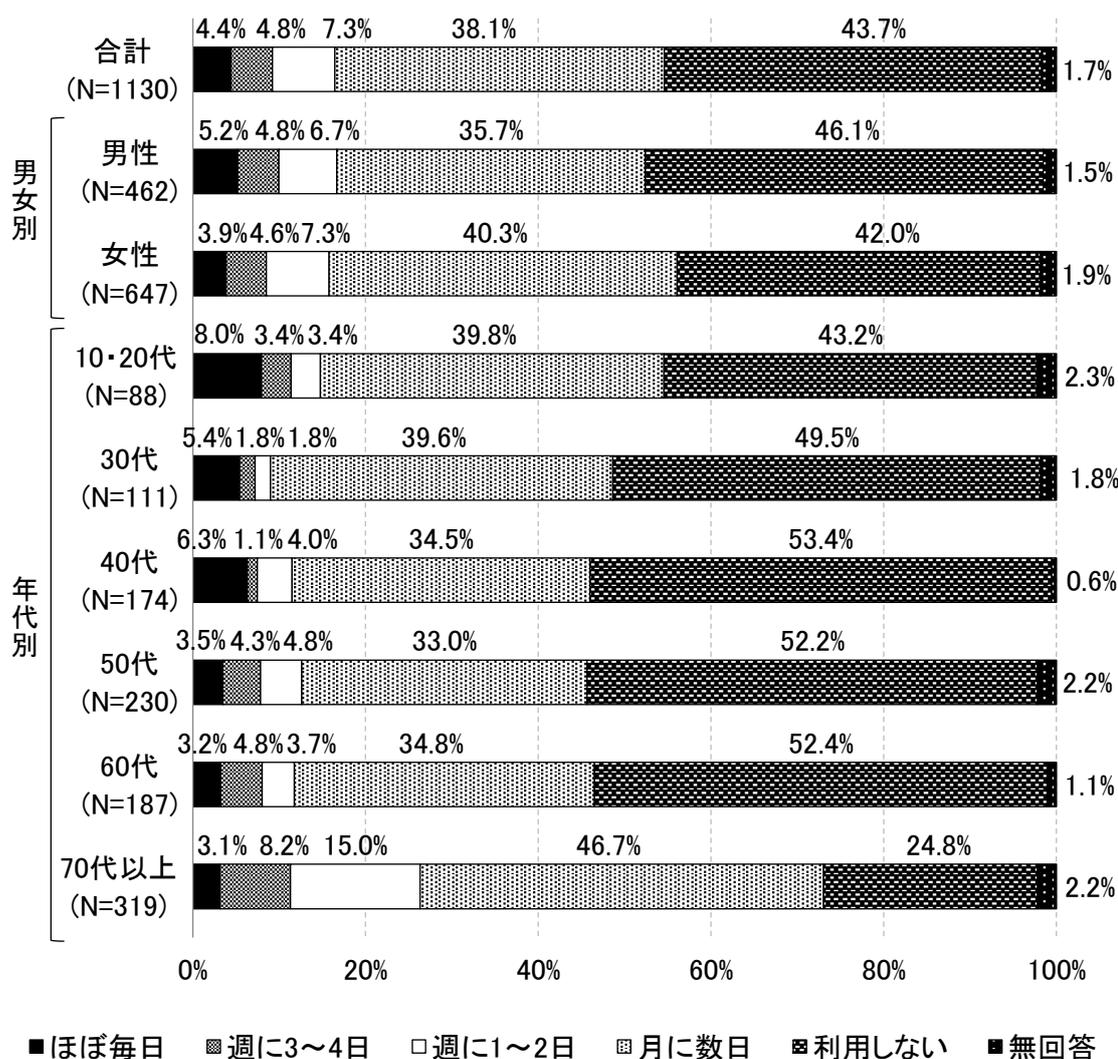


図 45 Q18 高槻市営バスの利用頻度

Q19A の高槻市営バスの運行本数が少ないに関して、男女別・年代別でみると、30代を除き、すべての層で3割以上が「そう思う」または「ややそう思う」と回答している。年代別でみると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は60代が40.1%と最も高く、反対に30代が26.1%と最も低い（図46）。

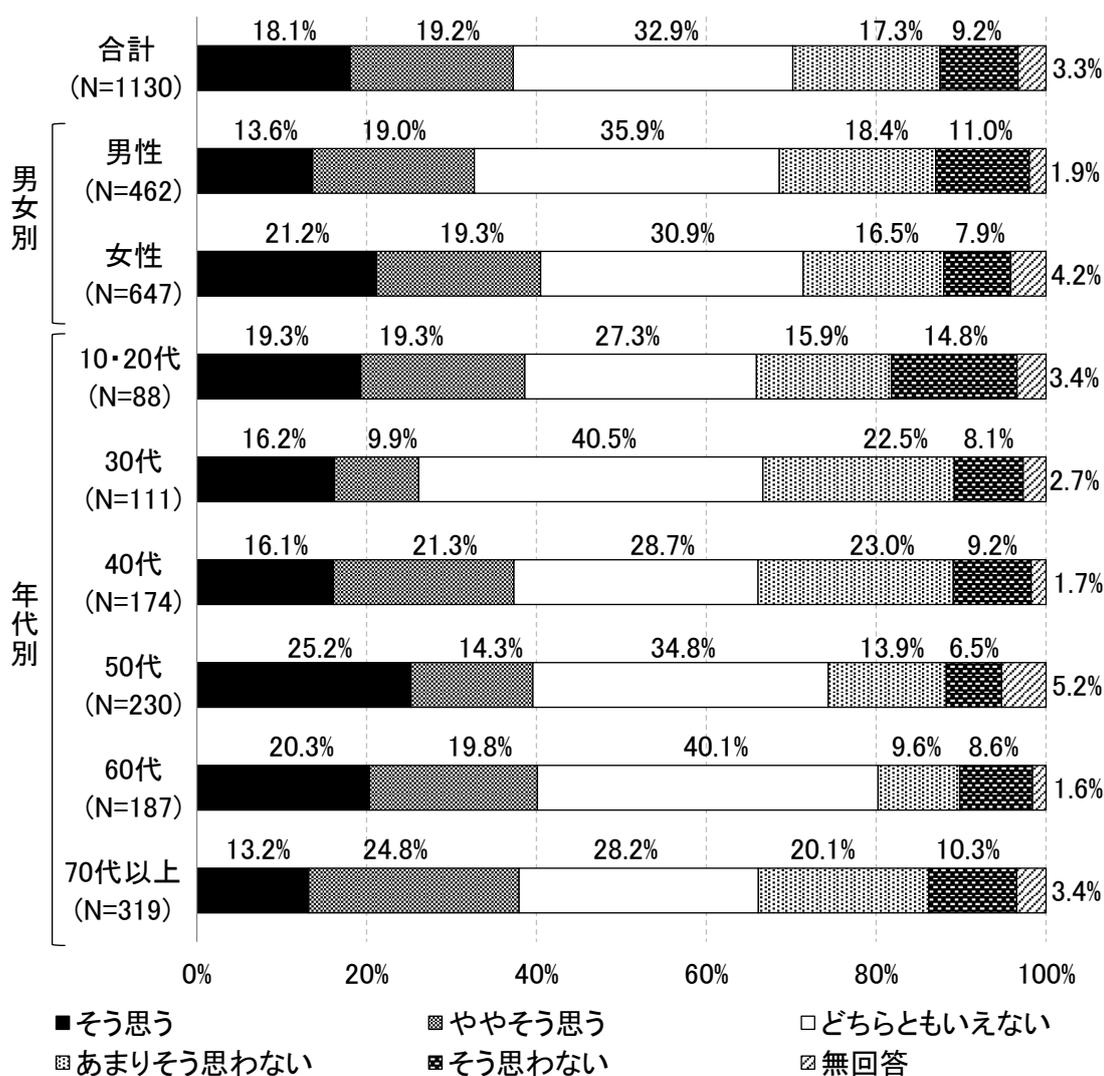


図 46 Q19A 高槻市営バスに関する考え：運行本数が少ない

Q19Bの近くに高槻市営バスの路線やバス停がないに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人が5割以上である。年代別でみると、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人の割合は60代が63.1%と最も高く、反対に10・20代が51.1%と最も低い(図47)。

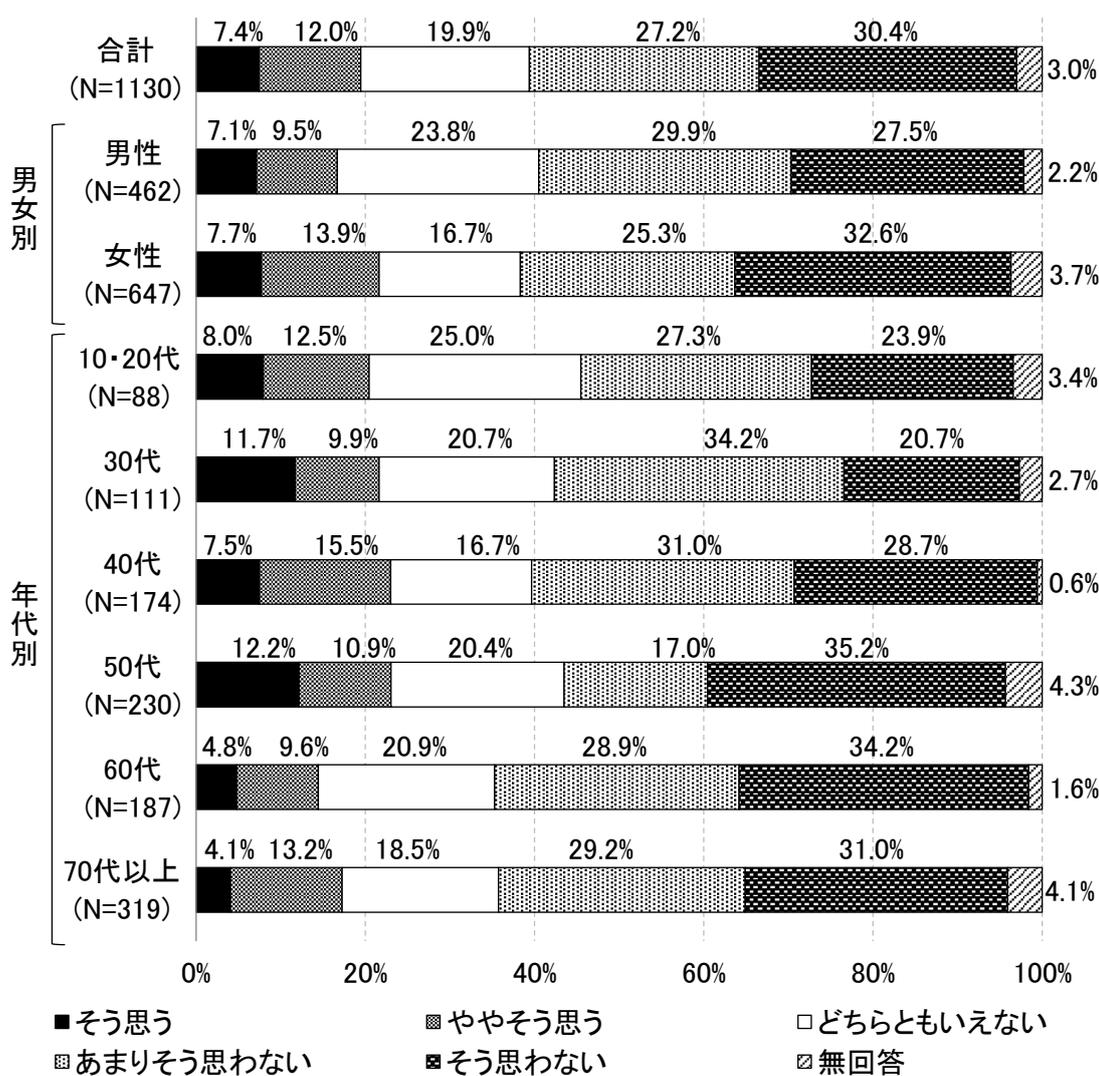


図 47 Q19B 高槻市営バスに関する考え：近くに路線やバス停がない

Q20 の環境に関する問題への関心度に関して、「異常気象」が 55.4%で最も高く、「地球温暖化」が 50.2%と続く（図 48）。

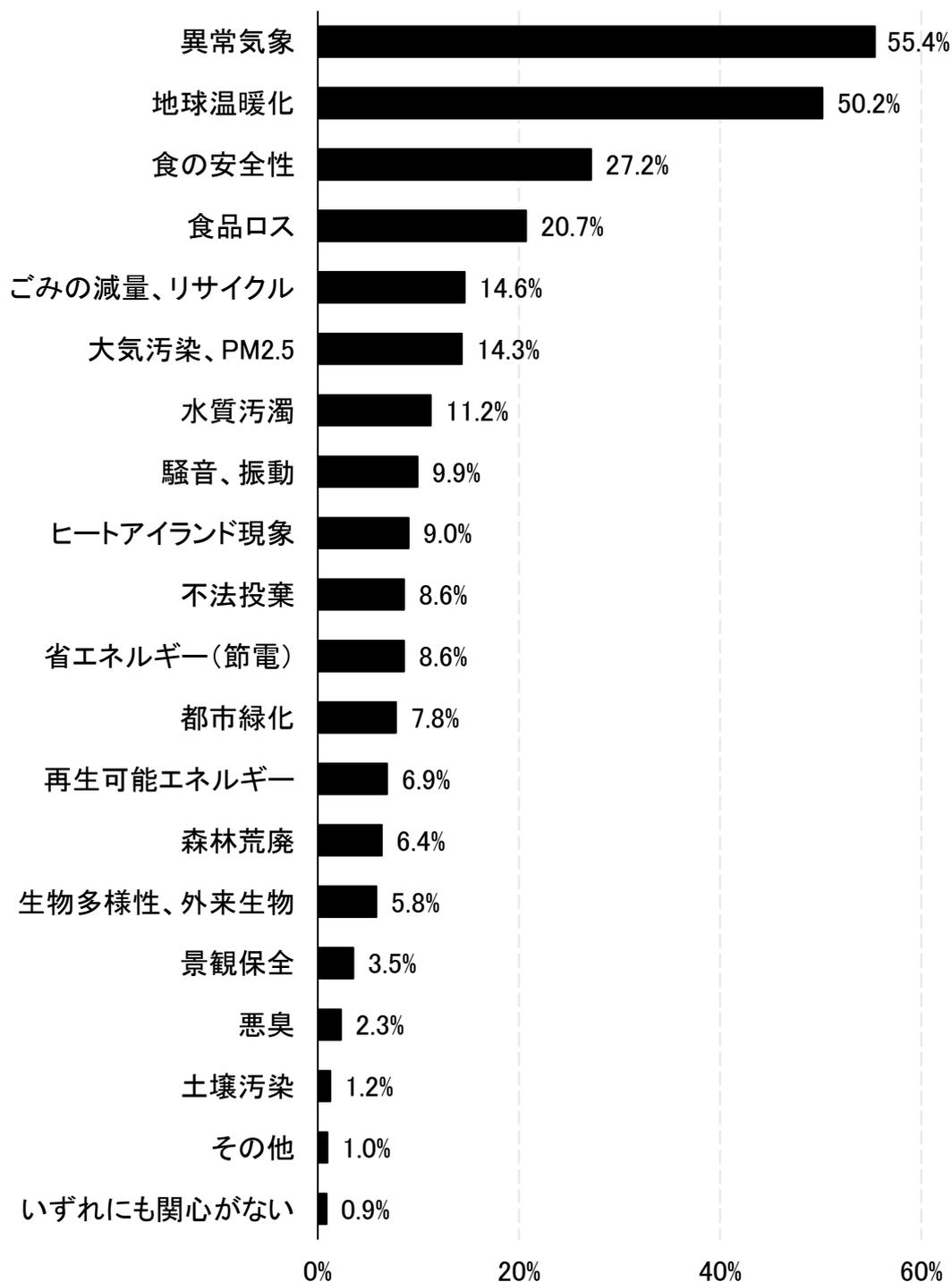


図 48 Q20 環境に関する問題への関心度（複数回答・全体 N=1130）

Q20 の環境に関する問題への関心度に関して、男女別で見ると、「食の安全性」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 10.3 ポイント高い（図 49）。

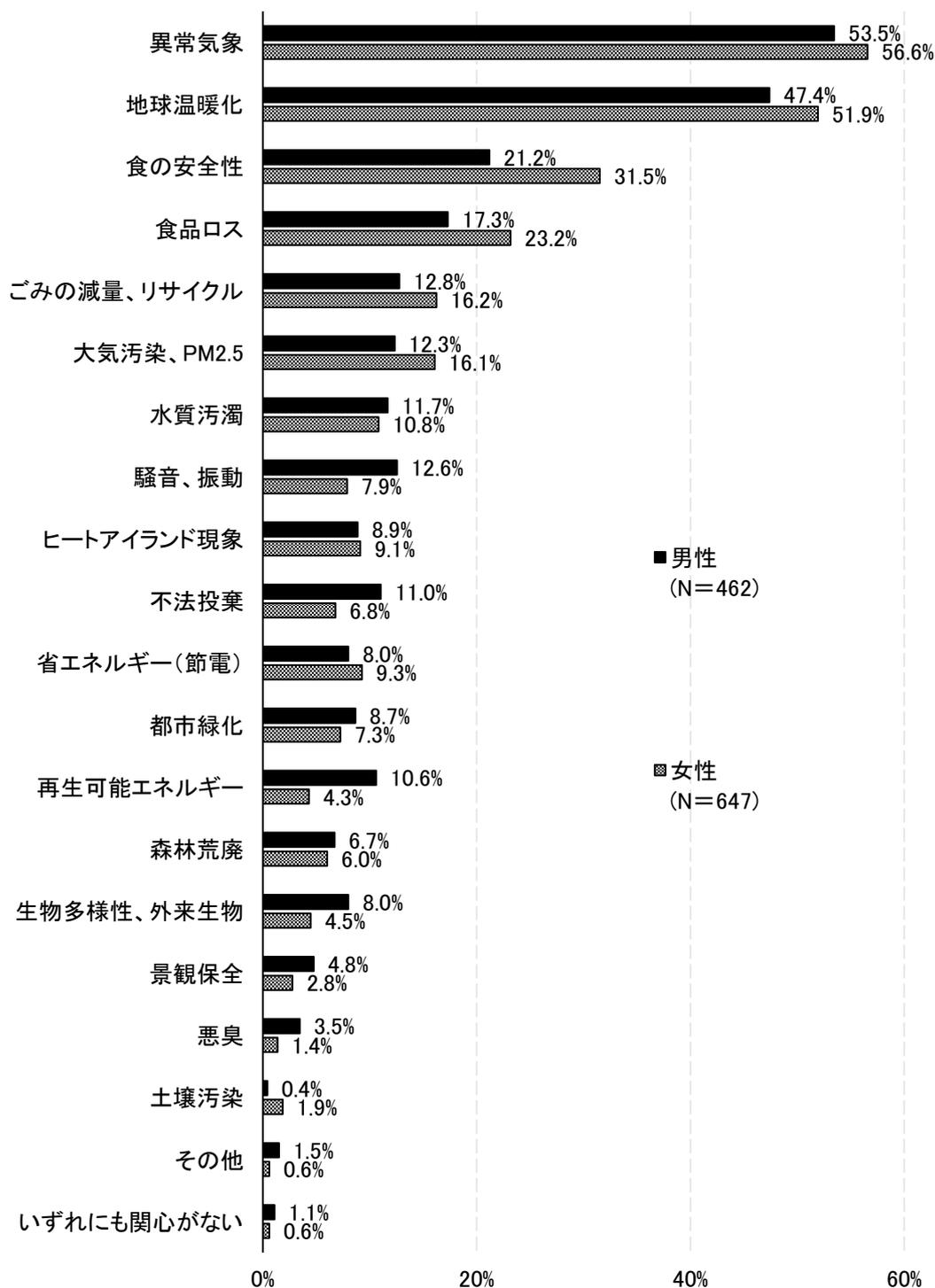


図 49 Q20 環境に関する問題への関心度（複数回答・男女別）

Q20 の環境に関する問題への関心度に関して、年代別で見ると、「食品ロス」は、10・20代が 29.5%と最も高く、60代は 15.5%と最も低い（図 50）。

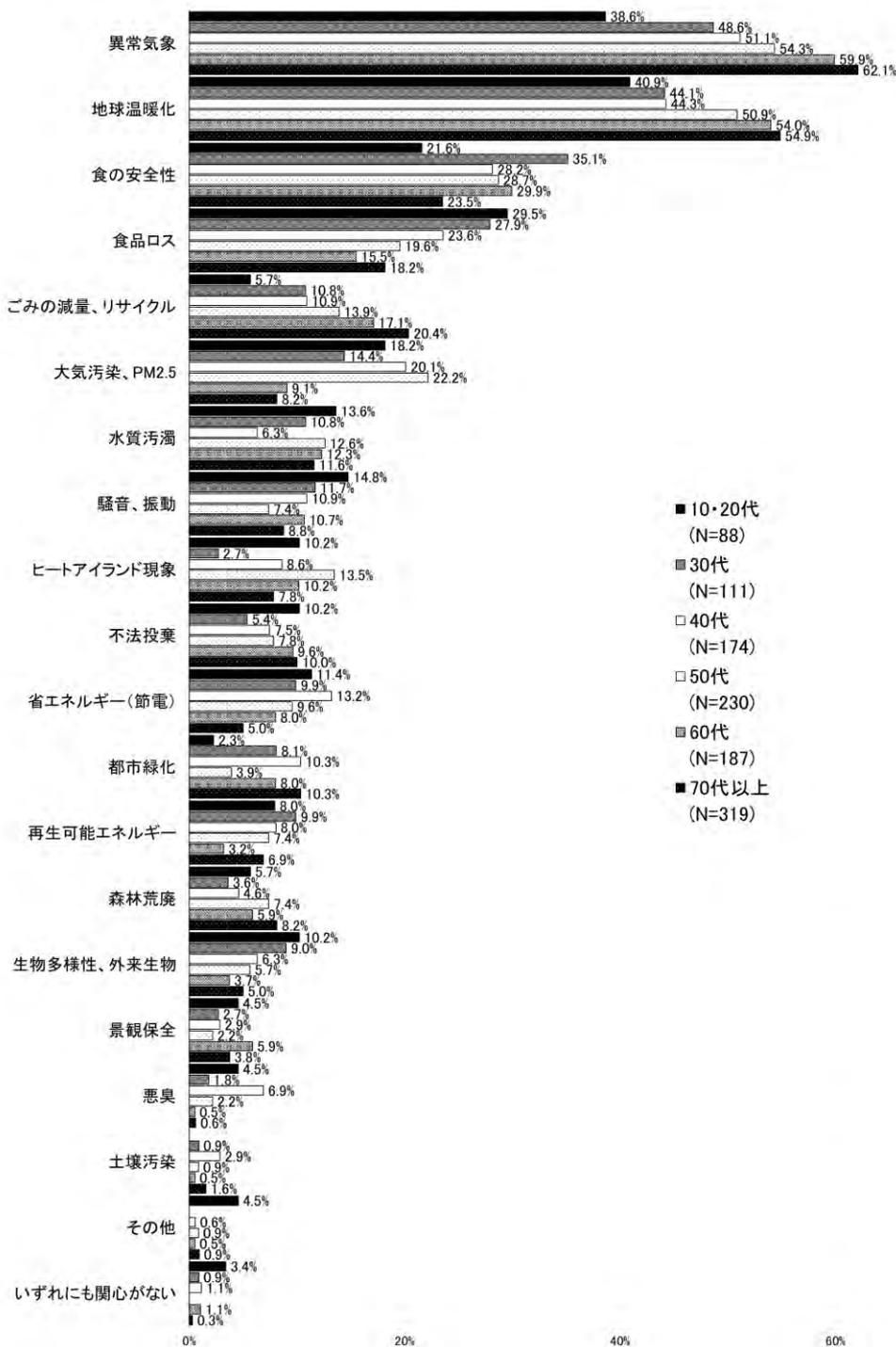


図 50 Q20 環境に関する問題への関心度（複数回答・年代別）

Q21A の身近な自然環境とのふれあいがあるかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が7割以上である。年代別でみると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は10・20代が81.8%と最も高く、60代が72.2%と最も低い（図51）。

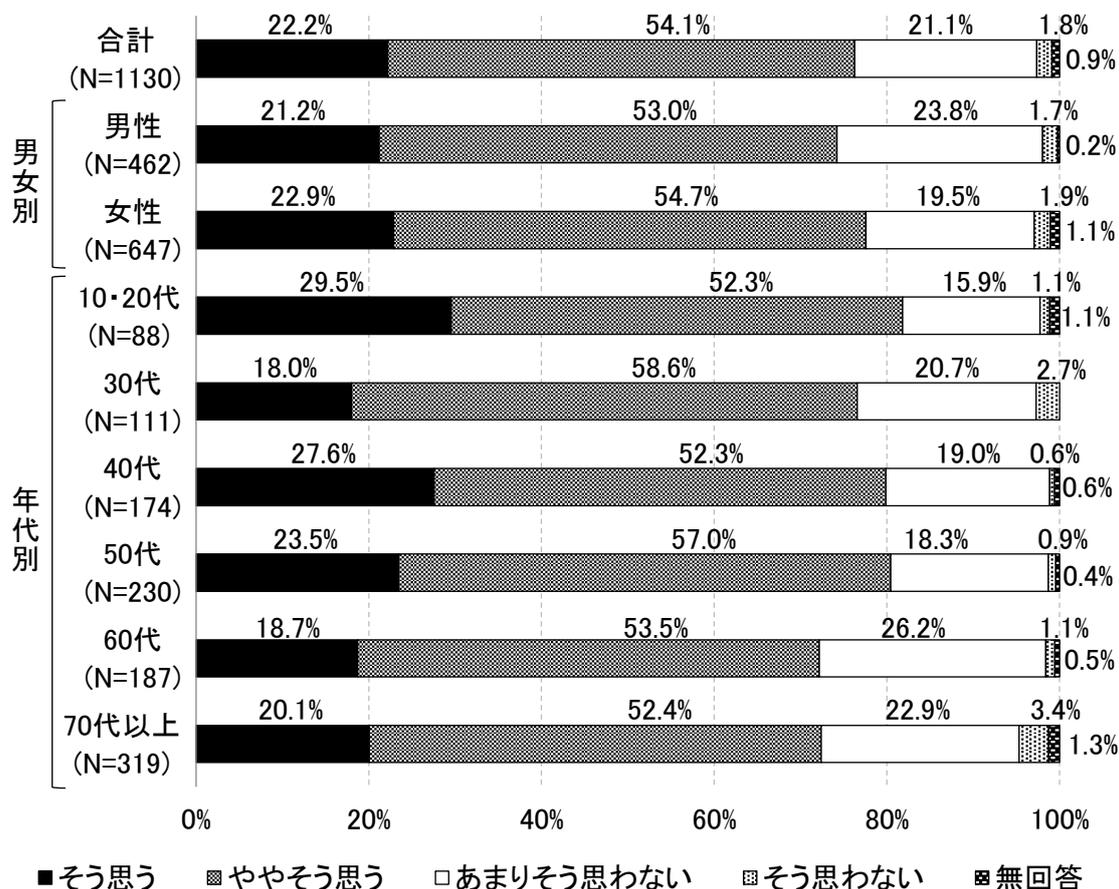


図51 Q21A 高槻市の環境：身近な自然環境とのふれあいがあるか

Q21Bの不法投棄やポイ捨ての少ない美しいまちかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が5割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は40代が63.2%と最も高く、60代が58.3%と最も低い(図52)。

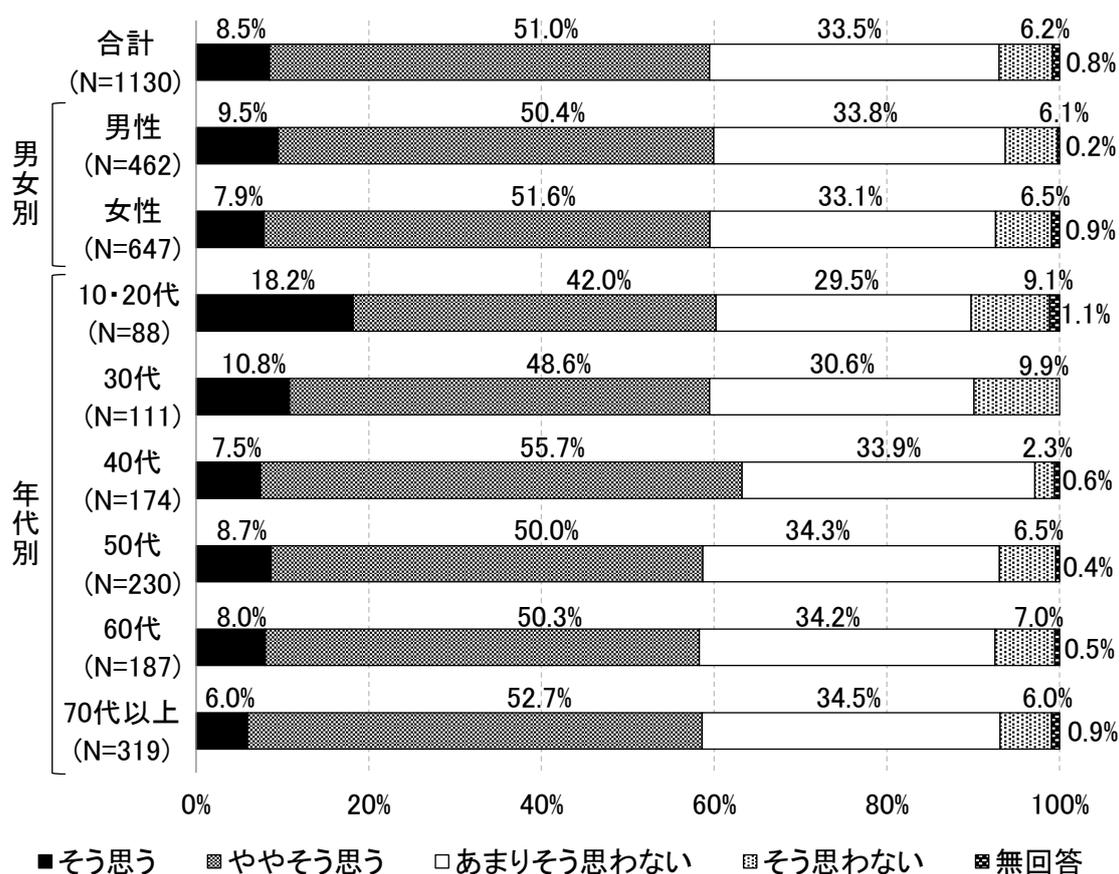


図 52 Q21B 高槻市の環境：不法投棄やポイ捨ての少ない美しいまちか

Q21C の良好な環境づくりを目指した活動が豊富かに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が 3 割以上である。年代別でみると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は 30 代が 52.2%と最も高く、60 代が 39.6%と最も低い（図 53）。

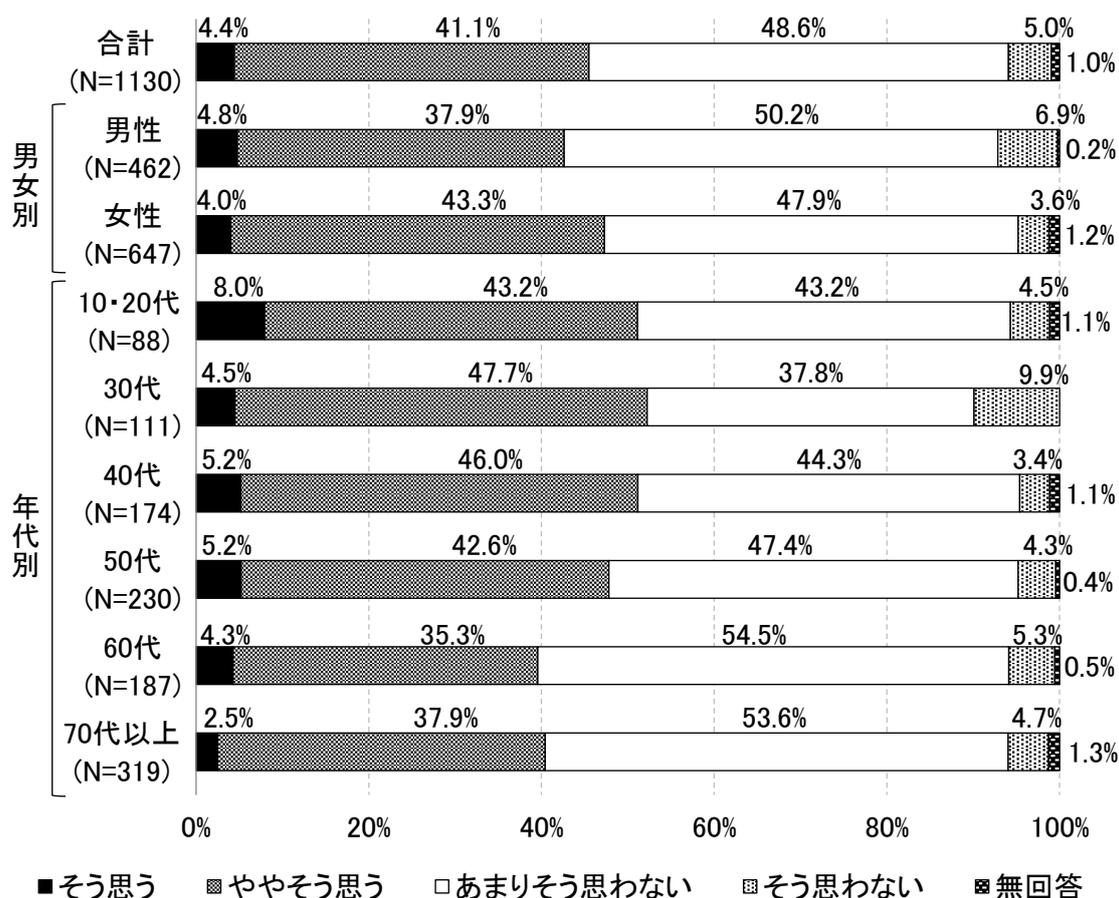


図 53 Q21C 高槻市の環境：良好な環境づくりを目指した活動が豊富か

Q21D の環境活動に関する情報や呼びかけが十分かに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が2割以上である。年代別でみると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は30代が40.5%と最も高く、60代が25.1%と最も低い（図 54）。

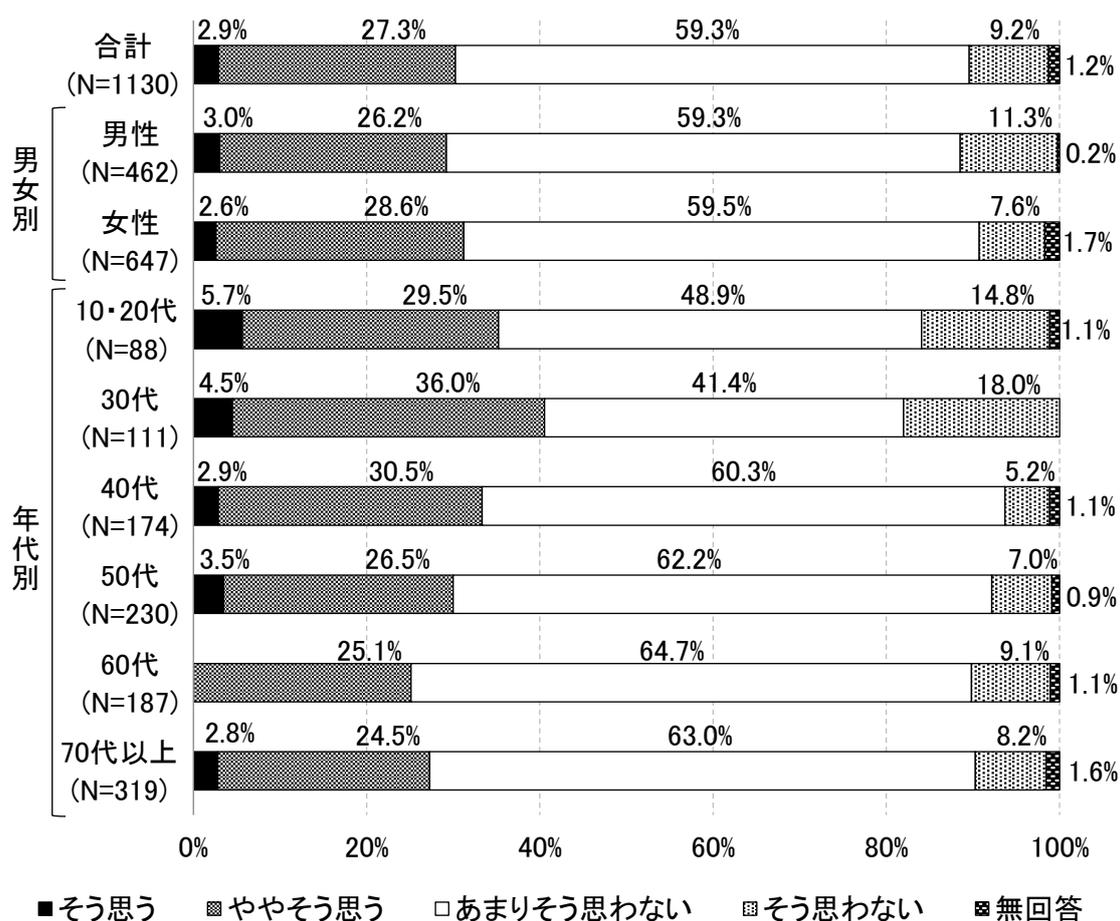
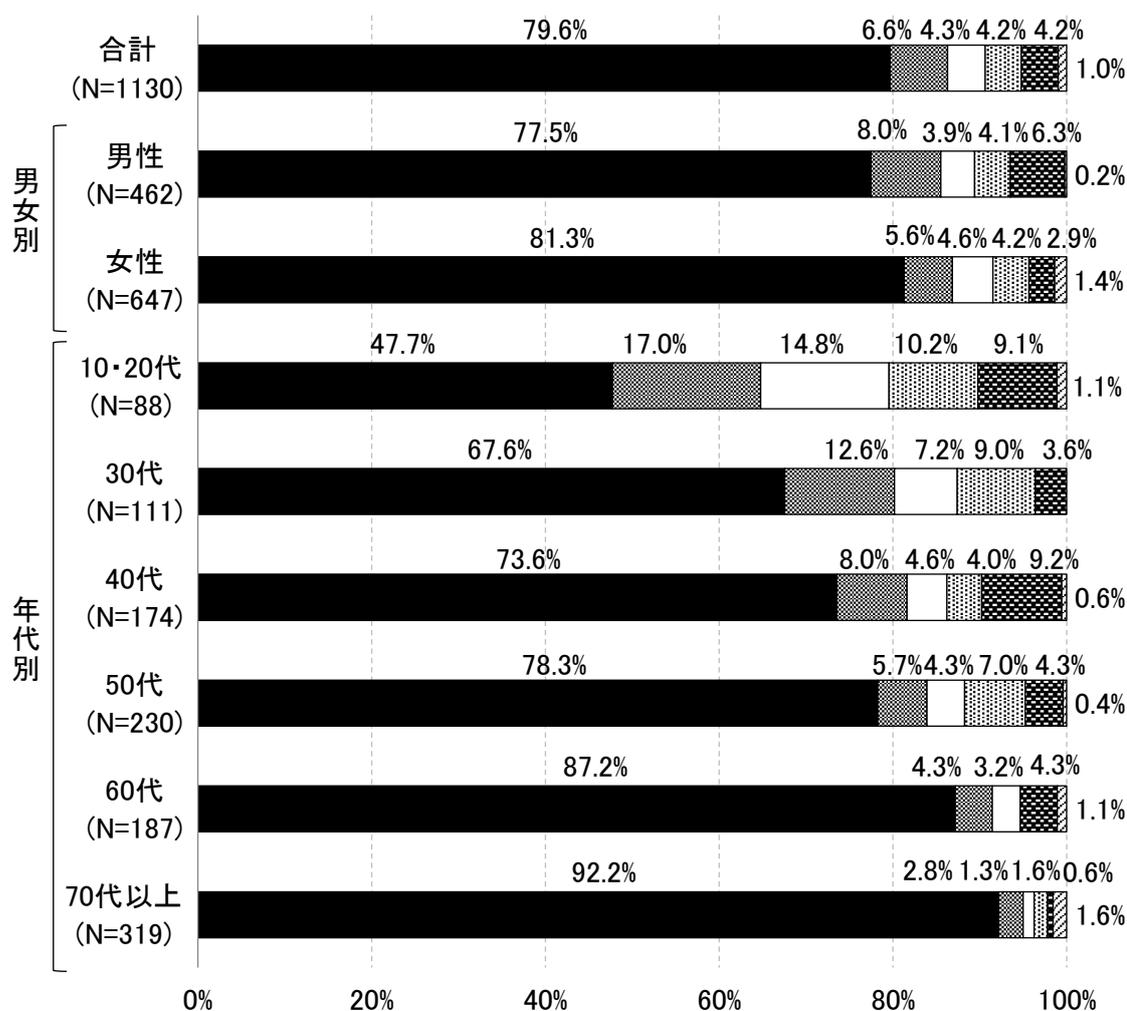


図 54 Q21D 高槻市の環境：環境活動に関する情報や呼びかけが十分か

Q22 の朝食の頻度に関して、男女別・年代別で見ると、10・20代を除いた、すべての層で「毎日」と回答した人が6割以上である。年代別で見ると、「毎日」と回答した人の割合は70代以上が92.2%と最も高く、反対に10・20代が47.7%と最も低い（図55）。



■毎日 ■週に5~6回 □週に3~4回 ■週に1~2回 ■まったく食べない ■無回答

図 55 Q22 朝食の頻度

Q23 の運動の頻度に関して、男女別で見ると、「週に 1 日以上」（「週に 5 日以上」または「週に 3～4 日」または「週に 1～2 日」）と回答した人の割合は、男性では 59.3%、女性では 53.2% である。年代別で見ると、「まったくしない」と回答した人の割合は 30 代が 31.5% と最も高い。反対に、70 代以上は 13.5% と最も低い（図 56）。

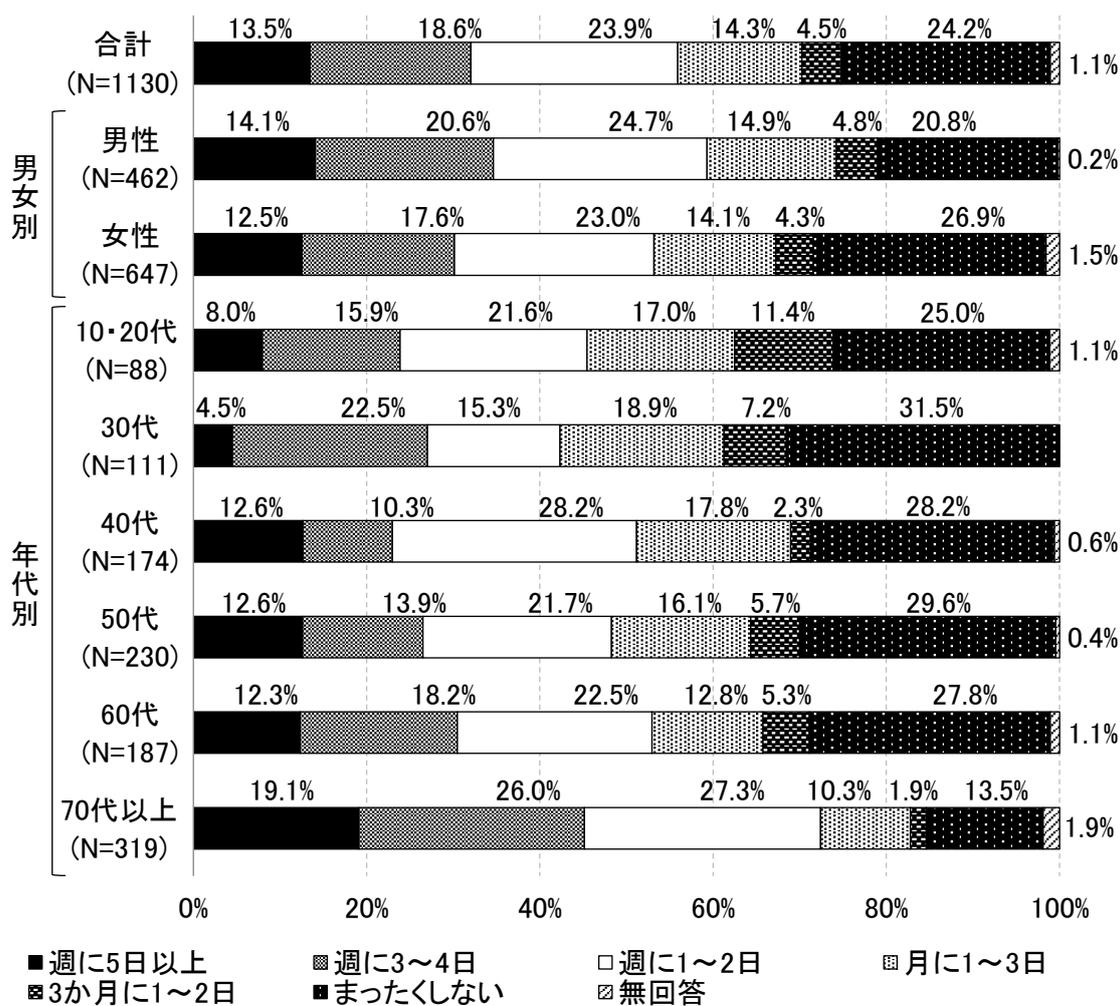


図 56 Q23 運動の頻度

Q24A の演劇を見に行くに関して、男女別・年代別のすべての層で「まったくない」と回答した人が4割以上である。年代別でみると、「まったくない」と回答した人の割合は30代が72.1%と最も高く、反対に70代以上が47.3%と最も低い（図57）。

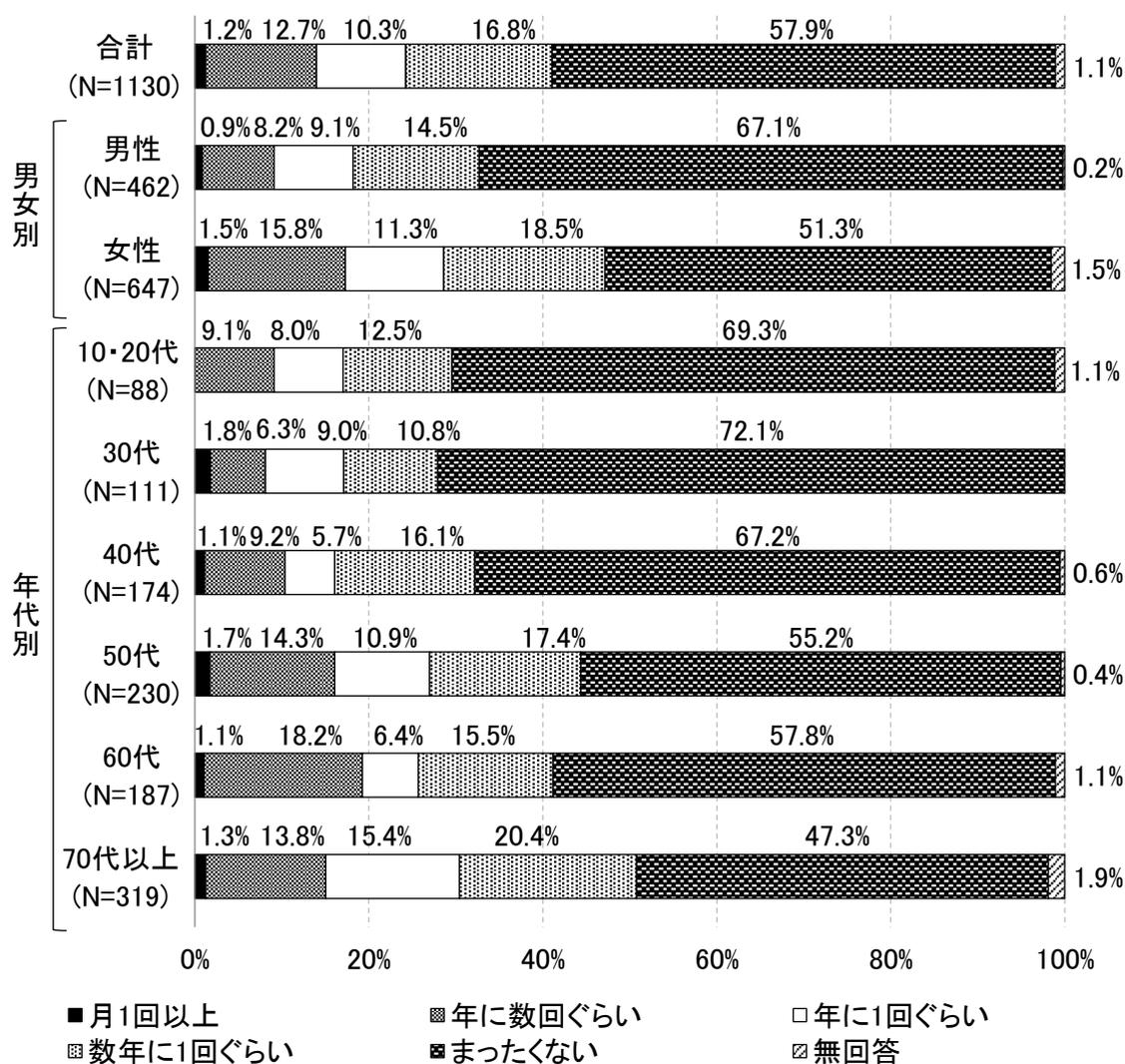


図57 Q24A 次のような活動をどのくらいしているか：演劇を見に行く

Q24B の宿泊をともなう旅行に関して、男女別・年代別でみると、30代を除いた、すべての層で「まったくない」と回答した人が1割以上である。年代別でみると、「まったくない」と回答した人の割合は70代以上が29.5%と最も高く、反対に30代が9.0%と最も低い(図58)。

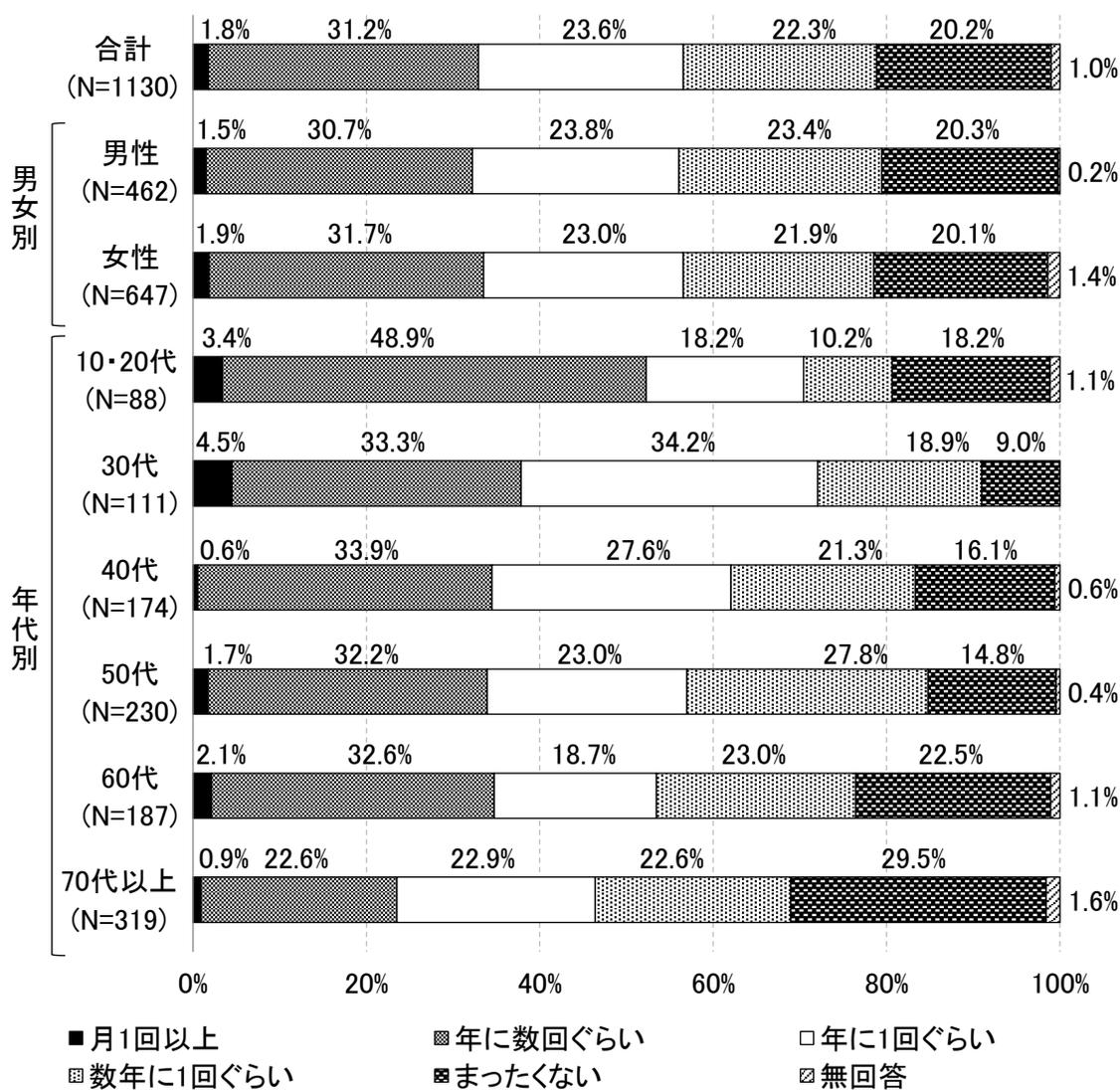


図58 Q24B 次のような活動をどのくらいしているか：宿泊をともなう旅行

Q25 の自宅の近くに、運動ができる公園・緑地・広場はあるかに関して、男女別・年代別のすべての層で「ある」と回答した人が 5 割以上である。年代別でみると、「ある」と回答した人の割合は 10・20 代が 64.8%と最も高く、反対に 30 代が 57.7%と最も低い (図 59)。

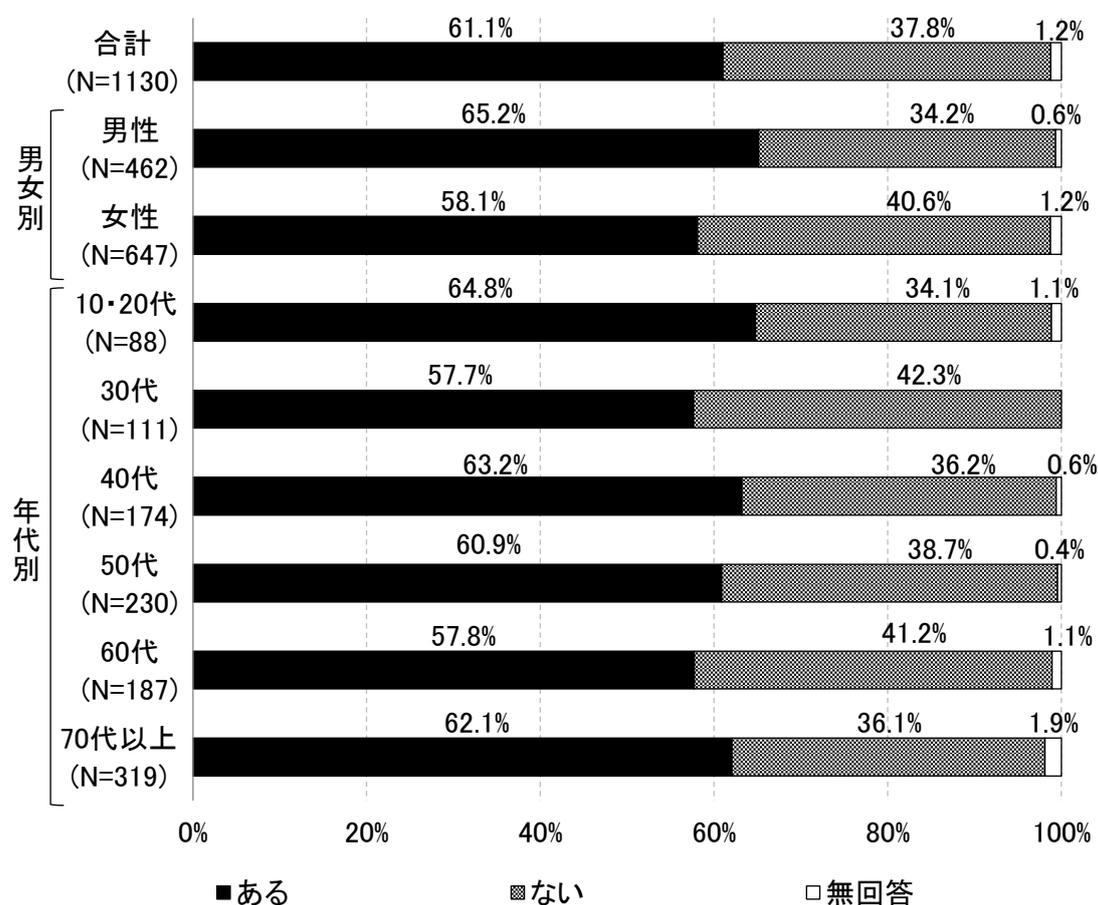


図 59 Q25 自宅の近くに、運動ができる公園・緑地・広場はあるか

Q26 のテレビの一日あたりの視聴時間に関して、男女別でみると、「1 時間未満」（「全く見ない」または「30 分未満」または「30 分以上 1 時間未満」と回答した人の割合は、男性では 26.4%、女性では 19.9%である。また、年代別でみると、「1 時間未満」と回答した人の割合は 40 代が 47.1%と最も高い。反対に 70 代以上が 4.4%と最も低い（図 60）。

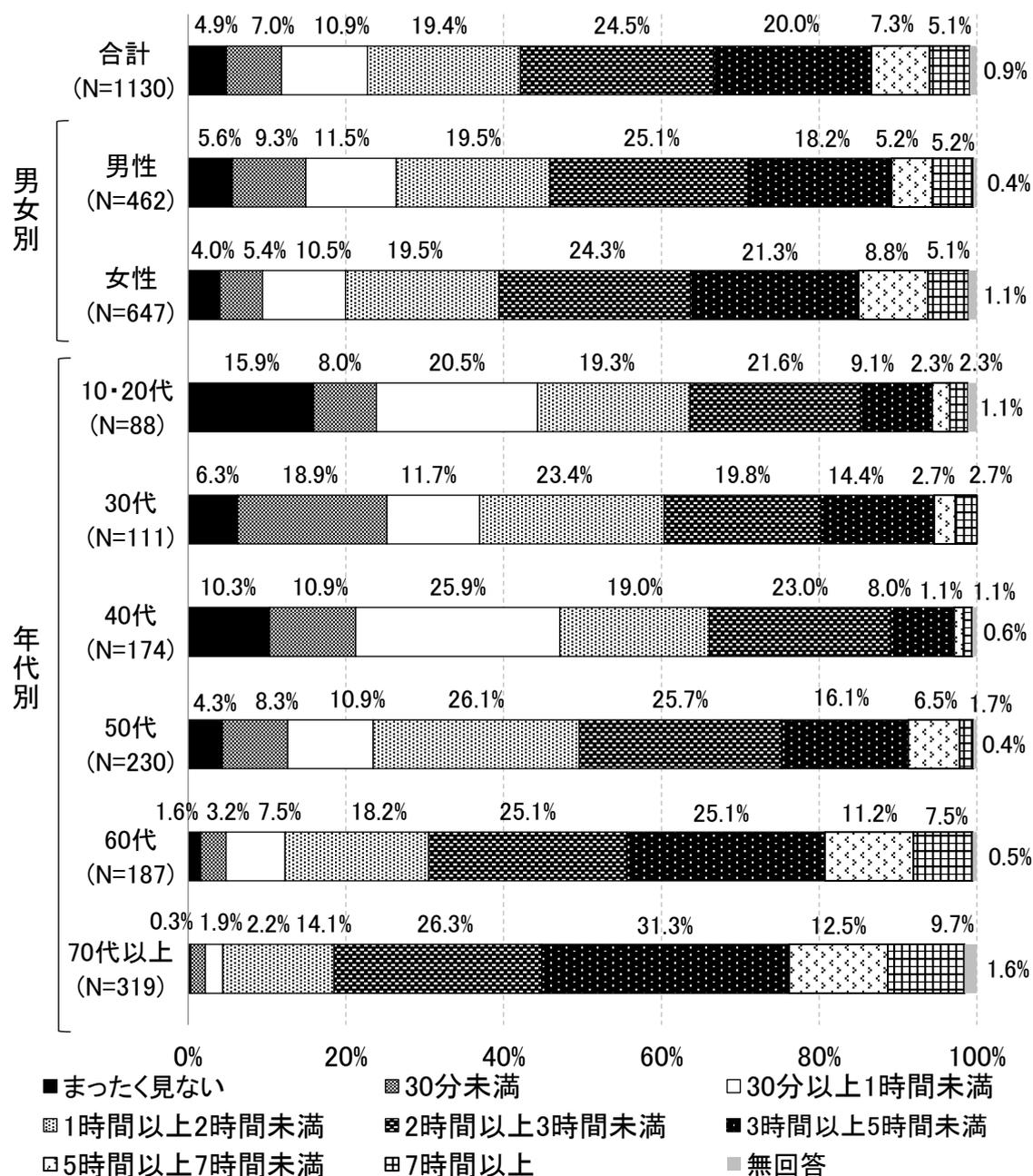


図 60 Q26 テレビの一日あたりの視聴時間

Q27のSNSの一日あたりの利用時間に関して、男女別でみると、「2時間以上」と回答した人の割合は、男性では10.0%、女性では19.5%である。また、年代別でみると、「まったく利用しない」と回答した人の割合は70代以上が54.9%と最も高い。反対に10・20代が3.4%と最も低い（図61）。

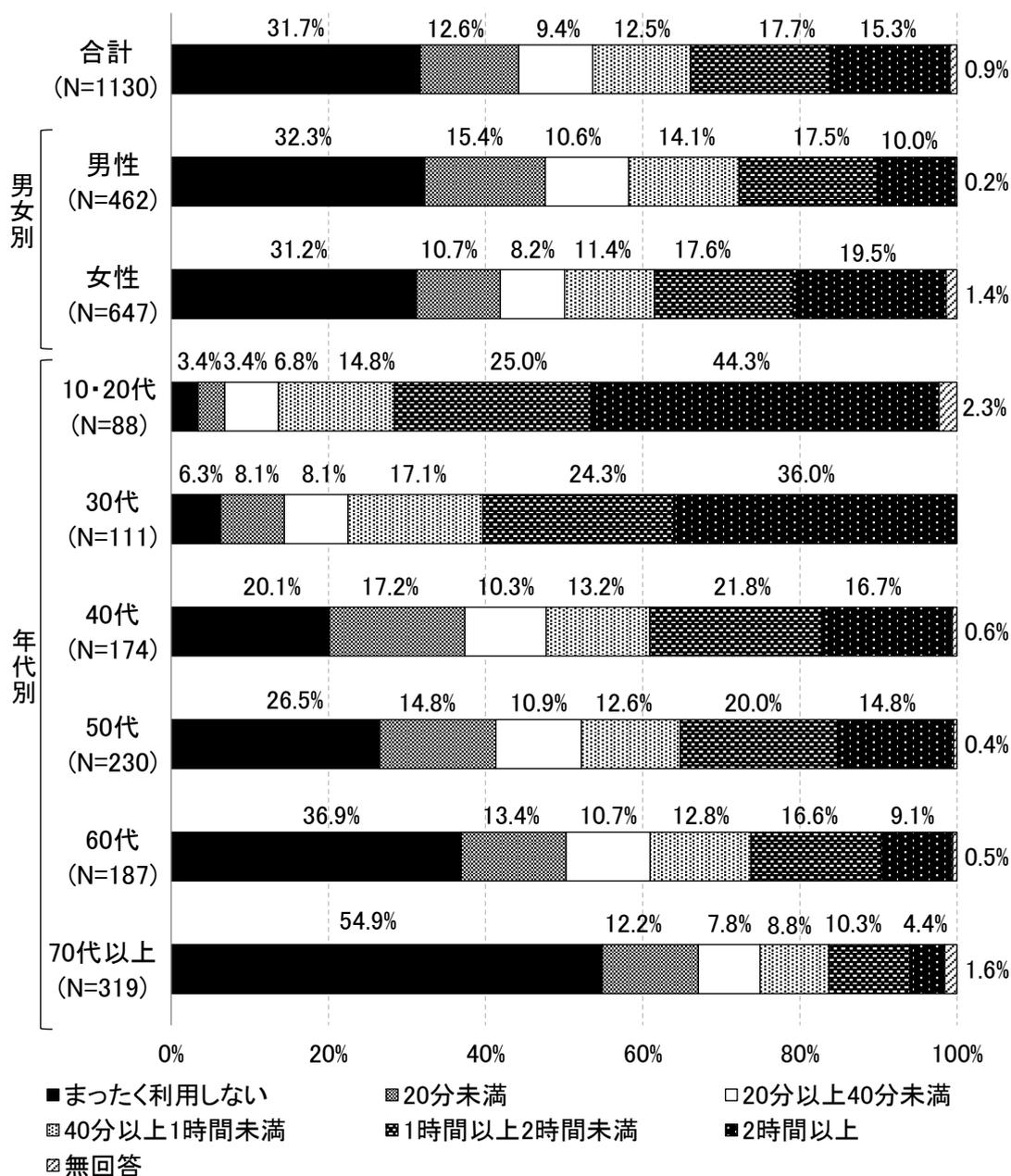


図 61 Q27 SNS の一日あたりの利用時間

Q28 のドラマを見る頻度に関して、男女別・年代別でみると、10・20代とを除いた、すべての層で「ほぼ毎日」と回答した人の割合は2割以上である。年代別でみると、「ほぼ毎日」と回答した人の割合は60代が40.1%と最も高く、反対に40代が17.8%と最も低い(図62)。

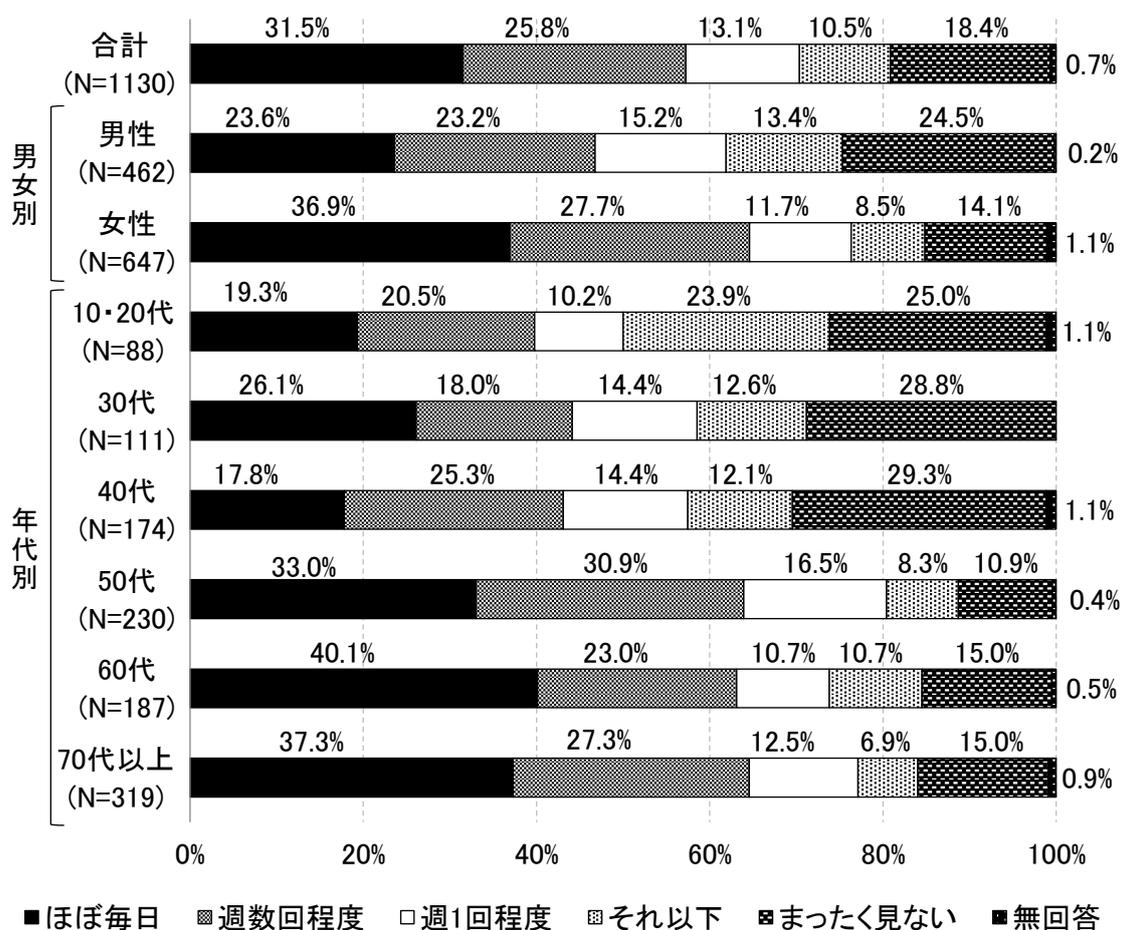


図 62 Q28 ドラマを見る頻度

Q29 の購入の際、インターネット情報を参考にするかに関して、男女別・年代別で見ると、70代以上を除いた、すべての層で「よくする」または「ときどきする」と回答した人が6割以上である。年代別で見ると、「よくする」または「ときどきする」と回答した人の割合は30代が92.8%と最も高く、反対に70代以上が32.9%と最も低い（図63）。

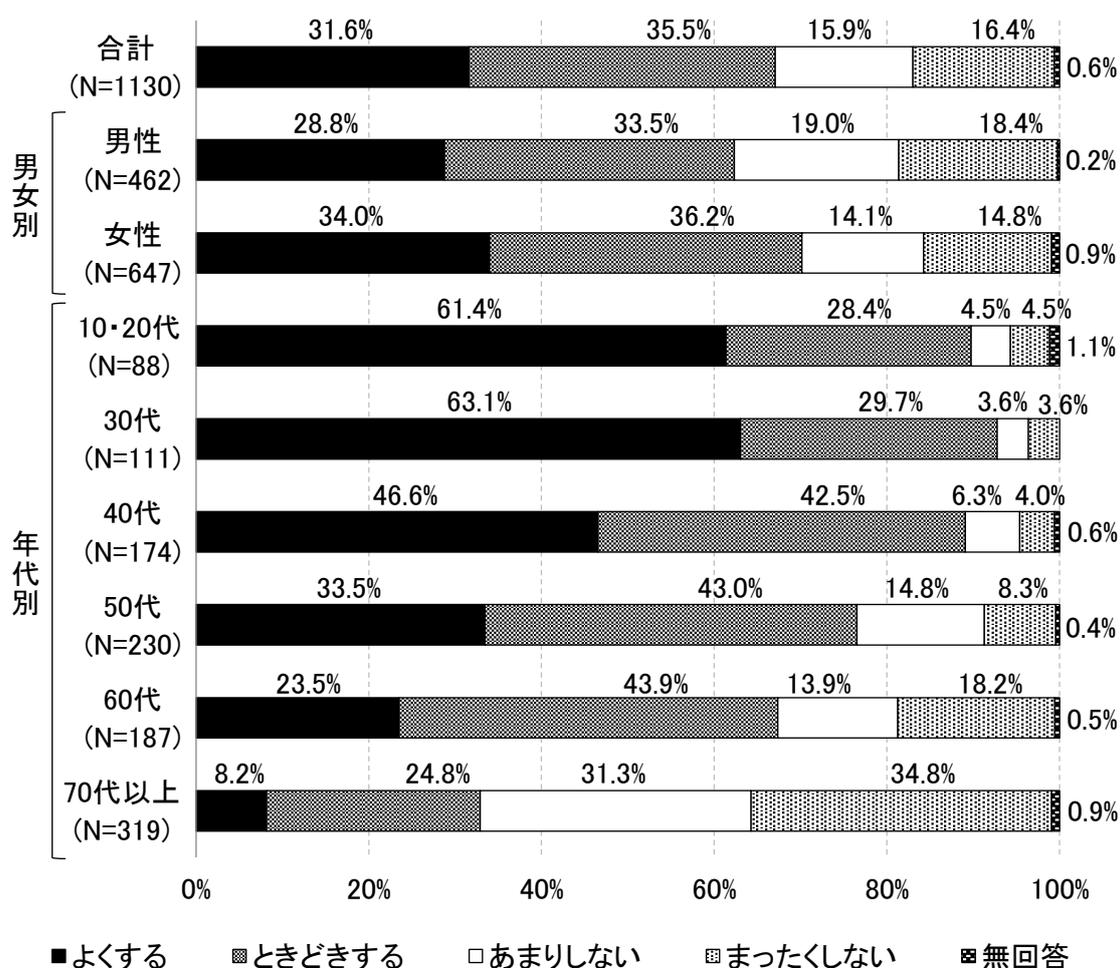


図 63 Q29 購入の際、インターネット情報を参考にするか

Q30 のどんなメディアでニュースを見聞きするかに関して、男女別・年代別でみると、男性、10・20代を除外した層で「テレビ」と回答した人が5割以上である。また、年代別でみると、「インターネット」と回答した人の割合は30代が76.6%と最も高い。反対に70代以上が10.7%と最も低い（図64）。

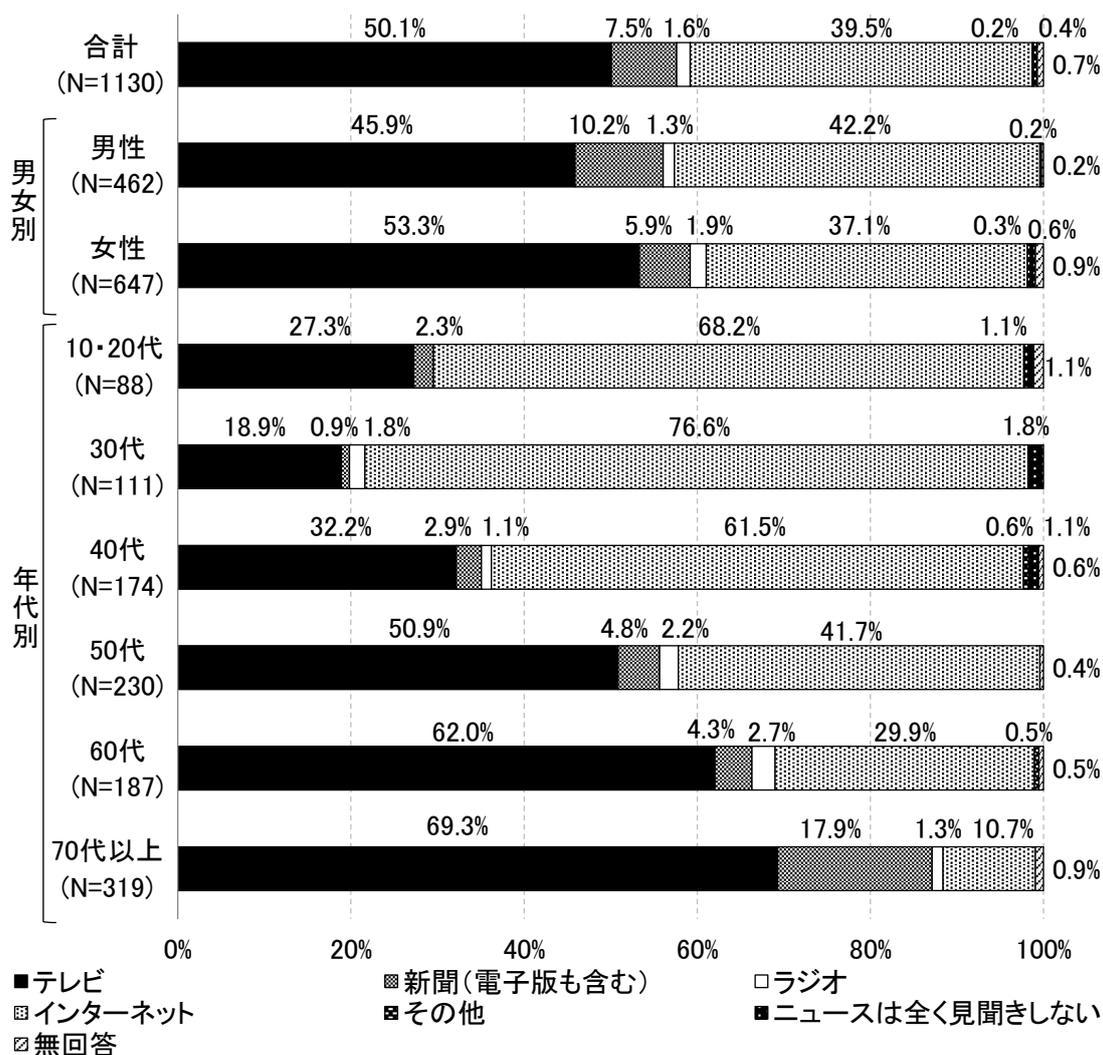


図 64 Q30 どんなメディアでニュースを見聞きするか

Q31の年間の自殺者数の認知度に関して、男女別・年代別のすべての層で「知っている」と回答した人が5割以上である。年代別でみると、「知っている」と回答した人の割合は40代が67.2%と最も高く、反対に30代が57.7%と最も低い(図65)。

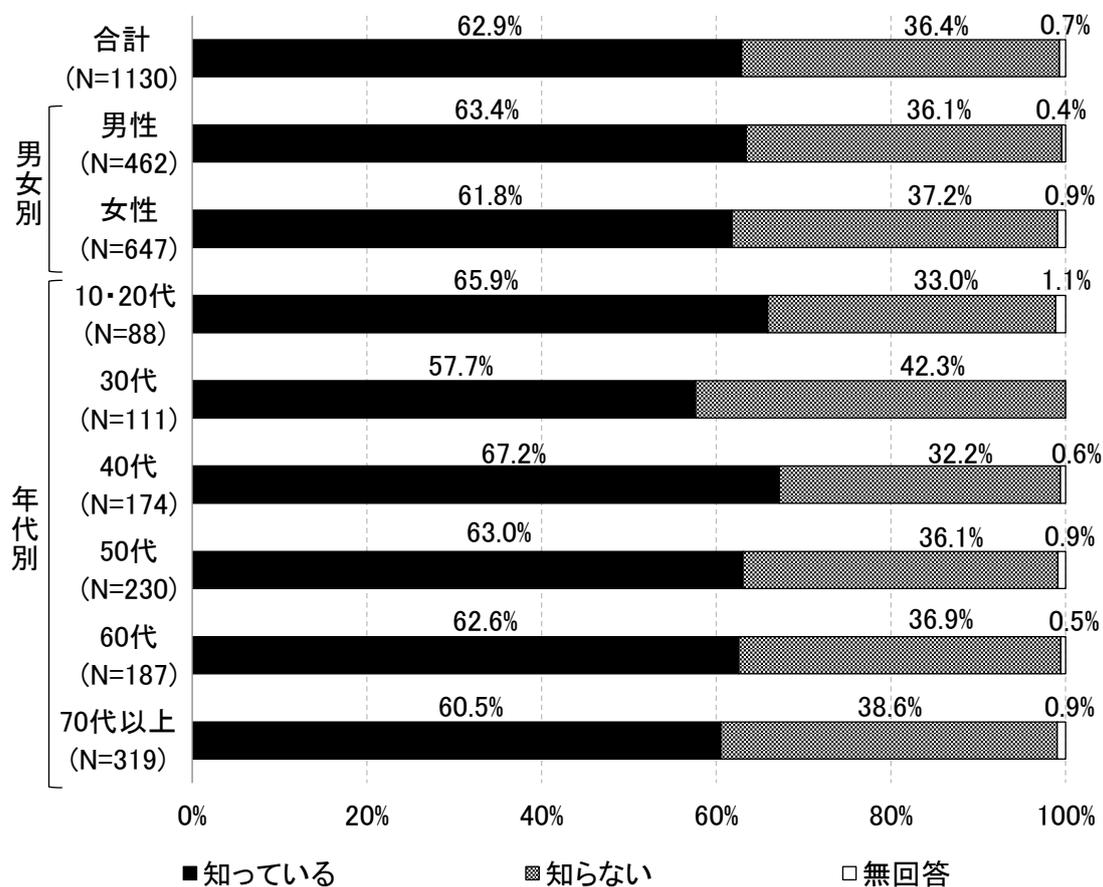


図 65 Q31 年間の自殺者数の認知度

Q32 の自殺に関する相談機関の認知度に関して、男女別・年代別のすべての層で 6 割以上が「知っている」と回答している。年代別でみると、「知っている」と回答した人の割合は 10 代・20 代が 85.2%と最も高く、反対に 70 代以上が 63.6%と最も低い（図 66）。

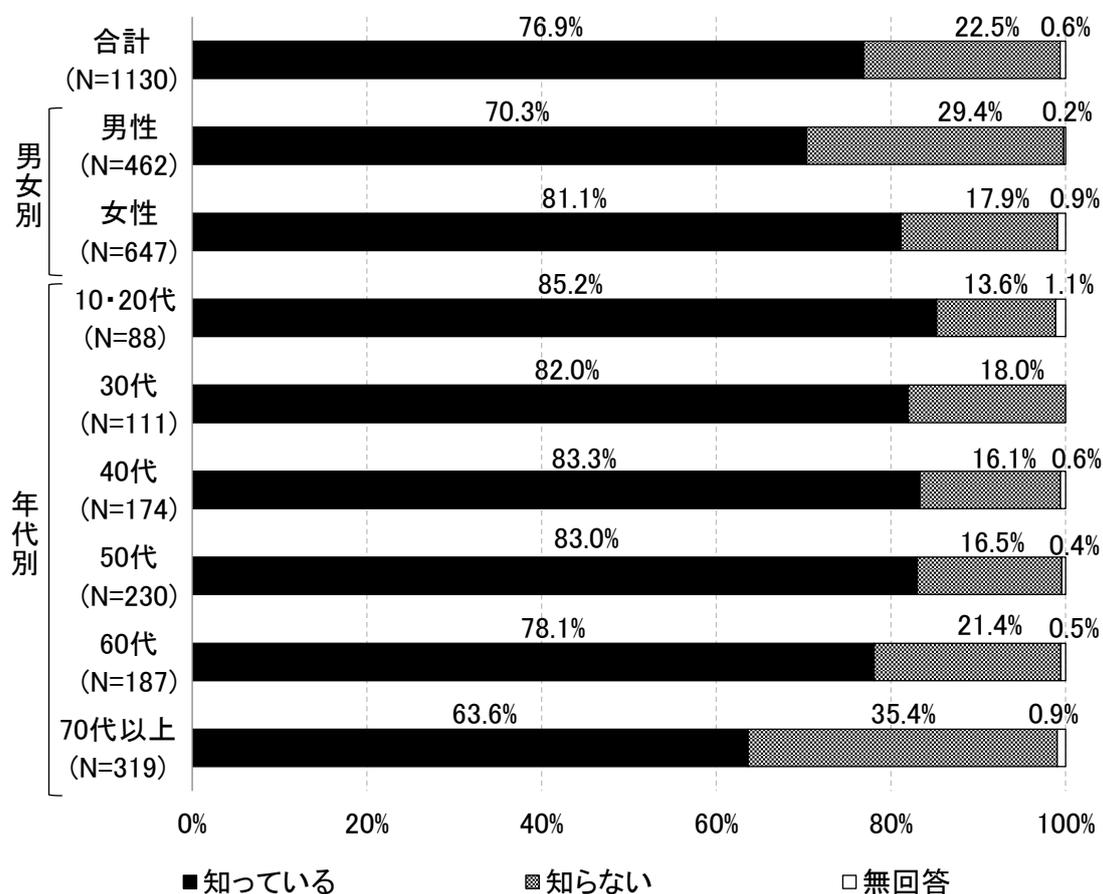


図 66 Q32 自殺に関する相談機関の認知度

Q33 の本気で自殺を考えたことがあるかに関して、男女別・年代別のすべての層で「ない」と回答した人が7割以上である。年代別でみると、「ない」と回答した人の割合は70代以上が89.7%と最も高く、反対に30代が75.7%と最も低い（図67）。

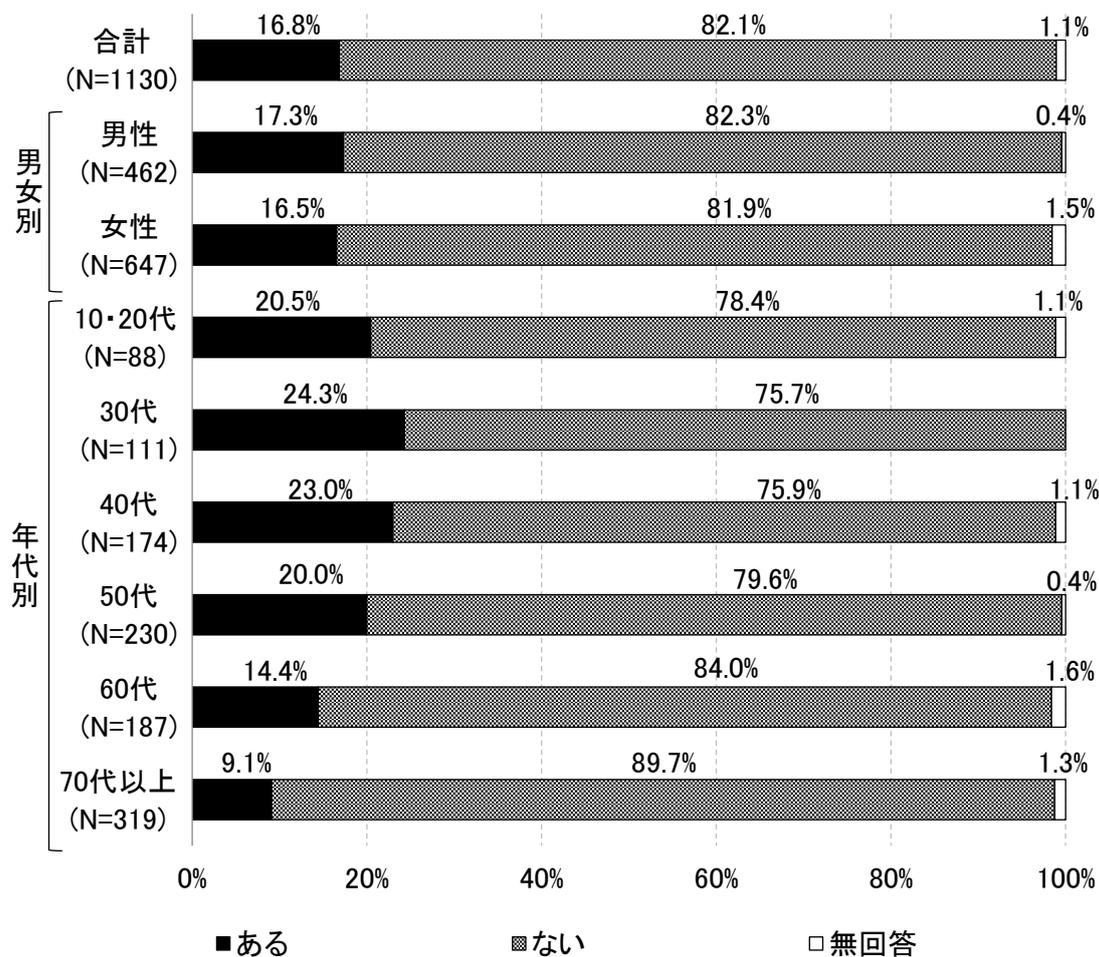


図 67 Q33 本気で自殺を考えたことがあるか

Q34 自殺願望を聞いたときの対応に関して、「耳を傾けて聞く」が 60.0%で最も高く、「共感を示す」が 45.6%と続く（図 68）。

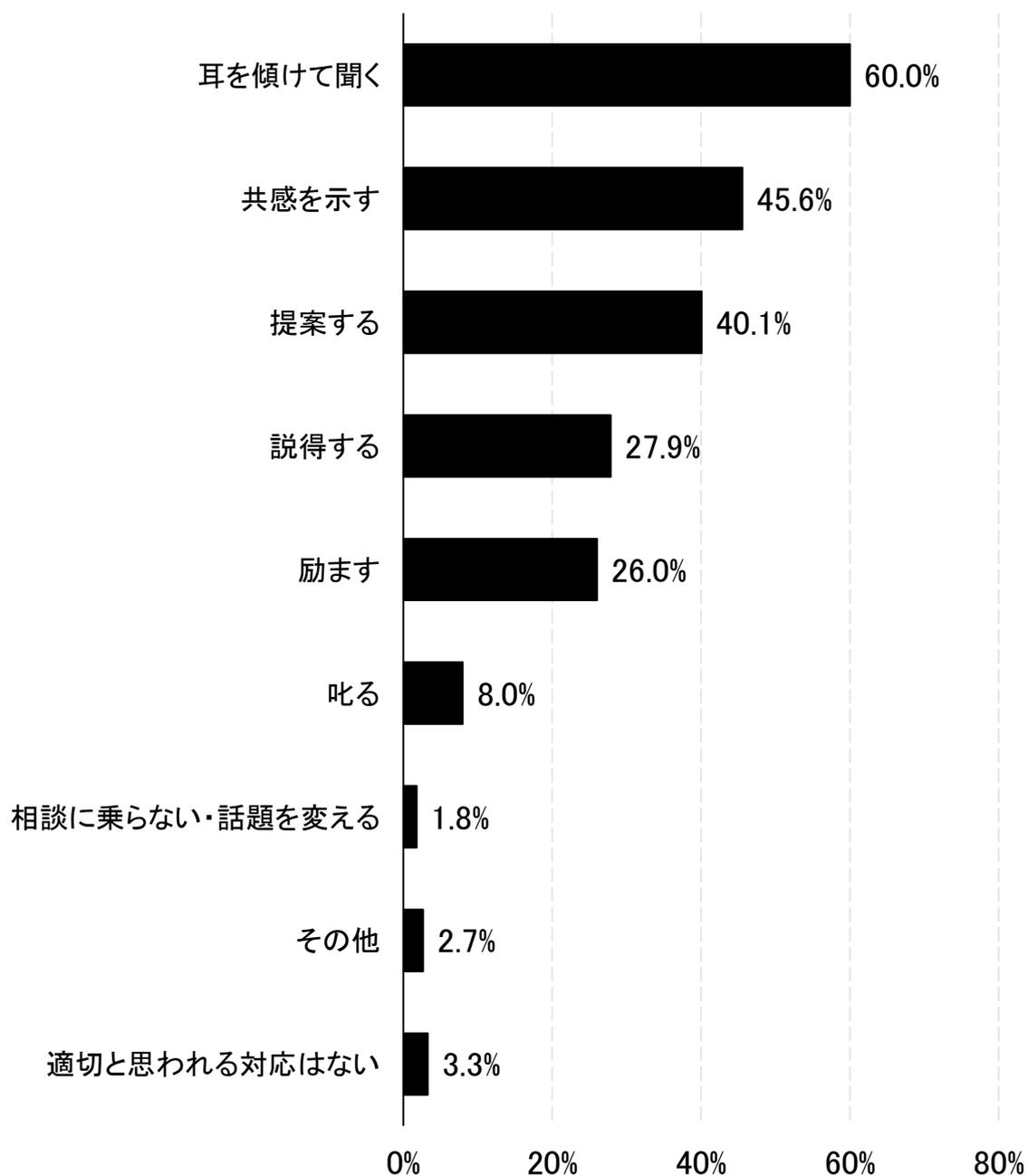


図 68 Q34 自殺願望を聞いたときの対応（複数回答・全体 N=1130）

Q34の自殺願望を聞いたときの対応に関して、男女別でみると、「共感を示す」は男女で差があり、男性よりも女性の方が18.5ポイント高い（図69）。

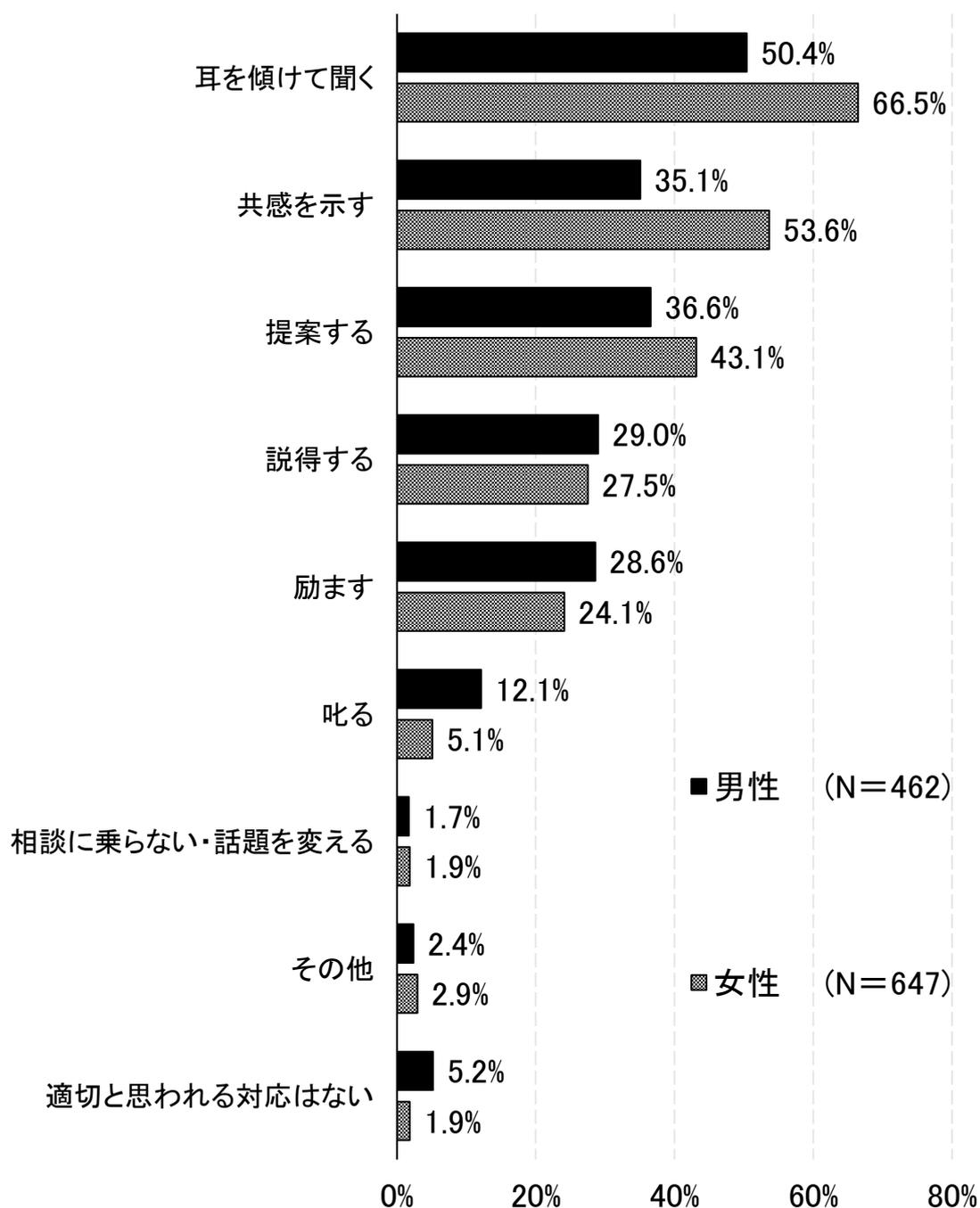


図 69 Q34 自殺願望を聞いたときの対応（複数回答・男女別）

Q34の自殺願望を聞いたときの対応に関して、年代別で見ると、「耳を傾けて聞く」は年代で差があり、40代が73.6%と最も高く、反対に70代以上は43.6%と最も低い(図70)。

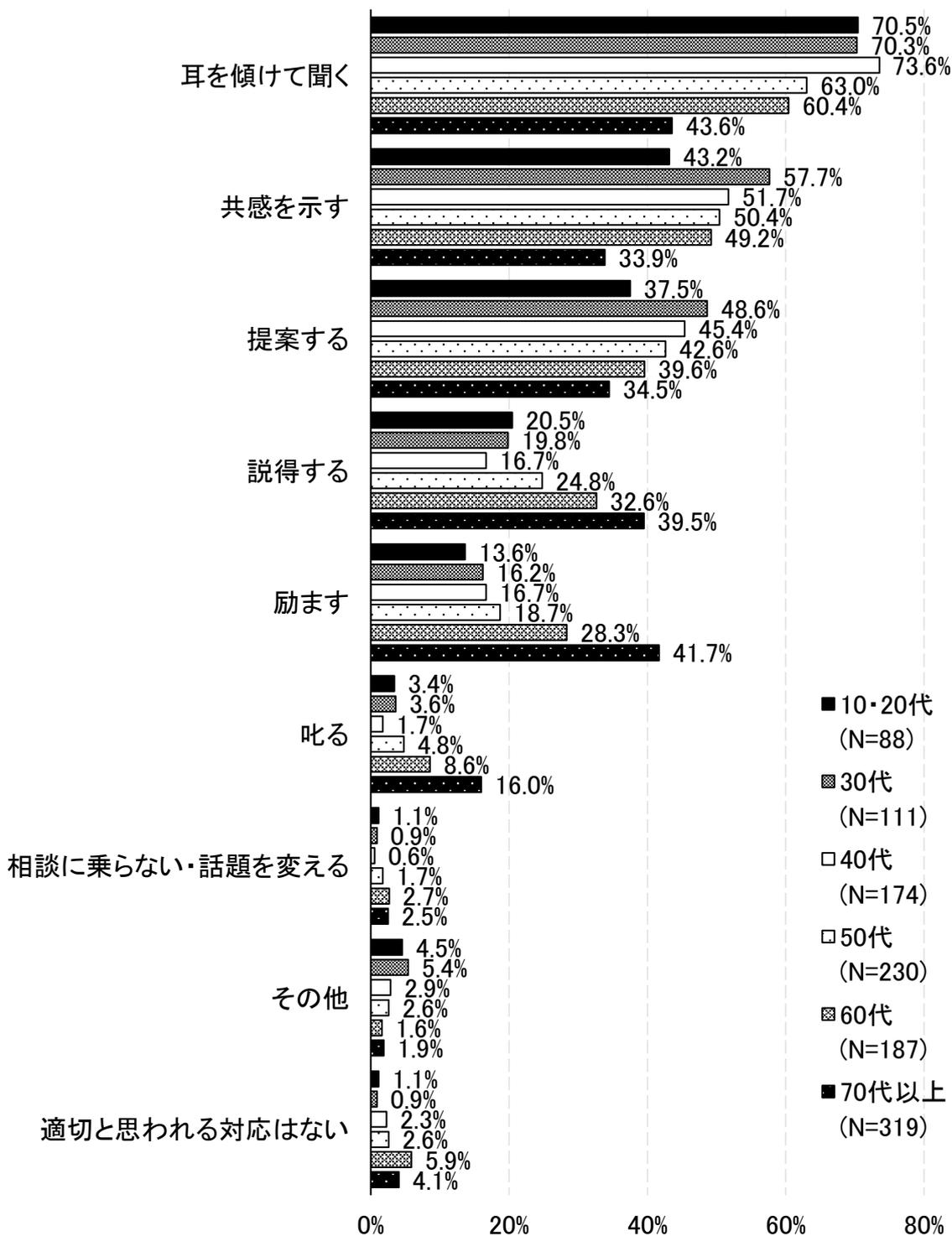


図70 Q34 自殺願望を聞いたときの対応 (複数回答・年代別)

Q35 の今後求められる自殺対策に関して、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が 43.3%で最も高く、「子どもの自殺予防」が 40.6%と続く（図 71）。

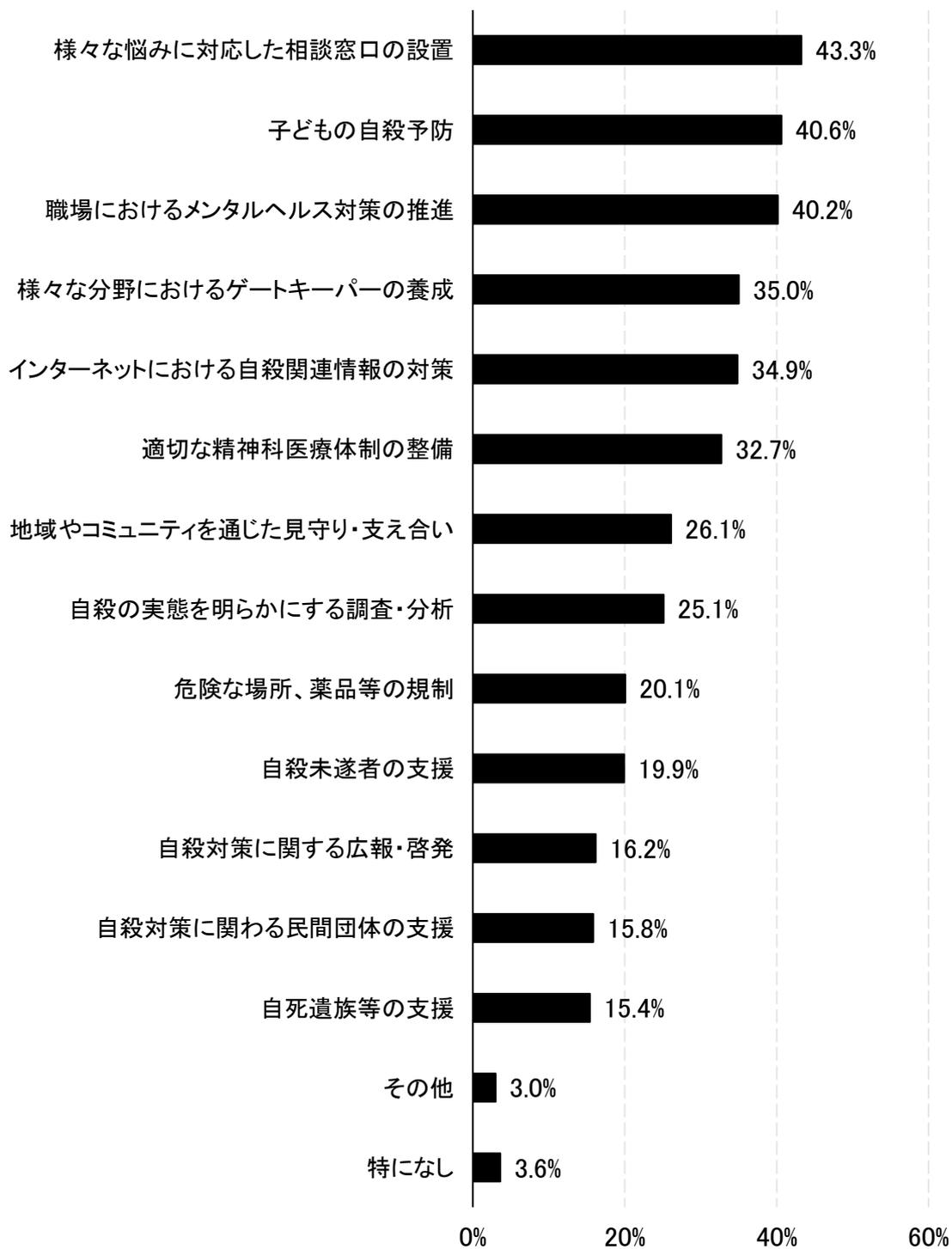


図 71 Q35 今後求められる自殺対策（複数回答・全体 N=1130）

Q35 の今後求められる自殺対策に関して、男女別でみると、「インターネットにおける自殺関連情報の対策」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 15.6 ポイント高い (図 72)。

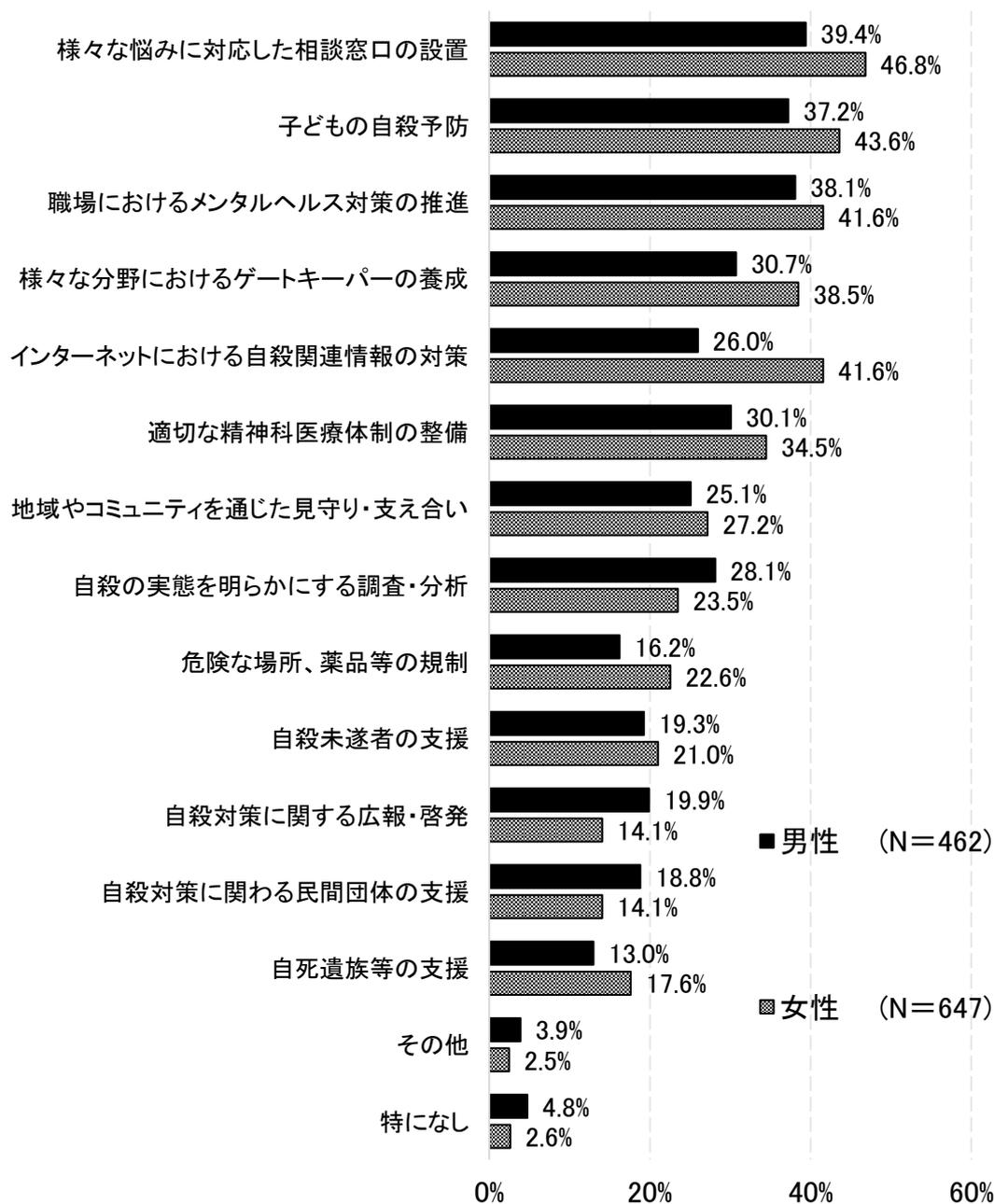


図 72 Q35 今後求められる自殺対策 (複数回答・男女別)

Q35 の今後求められる自殺対策に関して、「子どもの自殺予防」は年代で差があり、30代が 57.7%と最も高く、70代以上は 29.5%と最も低い（図 73）。

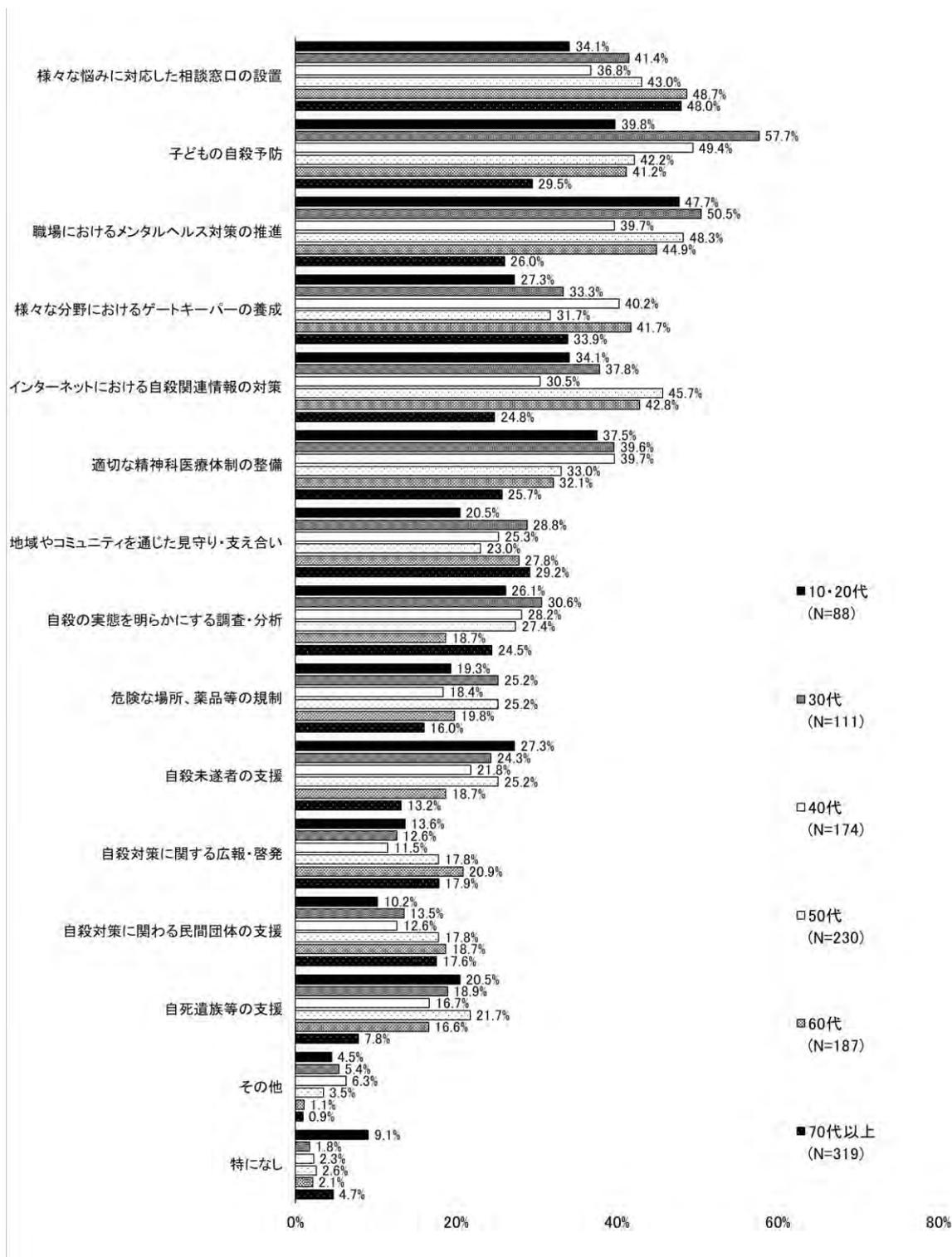


図 73 Q35 今後求められる自殺対策（複数回答・年代別）

Q36 の自殺したい気持ちを乗り越える方法に関して、「身近な人に悩みを聞いてもらう」が 64.1%で最も高く、「心の健康の専門家に相談する」が 55.4%と続く（図 74）。

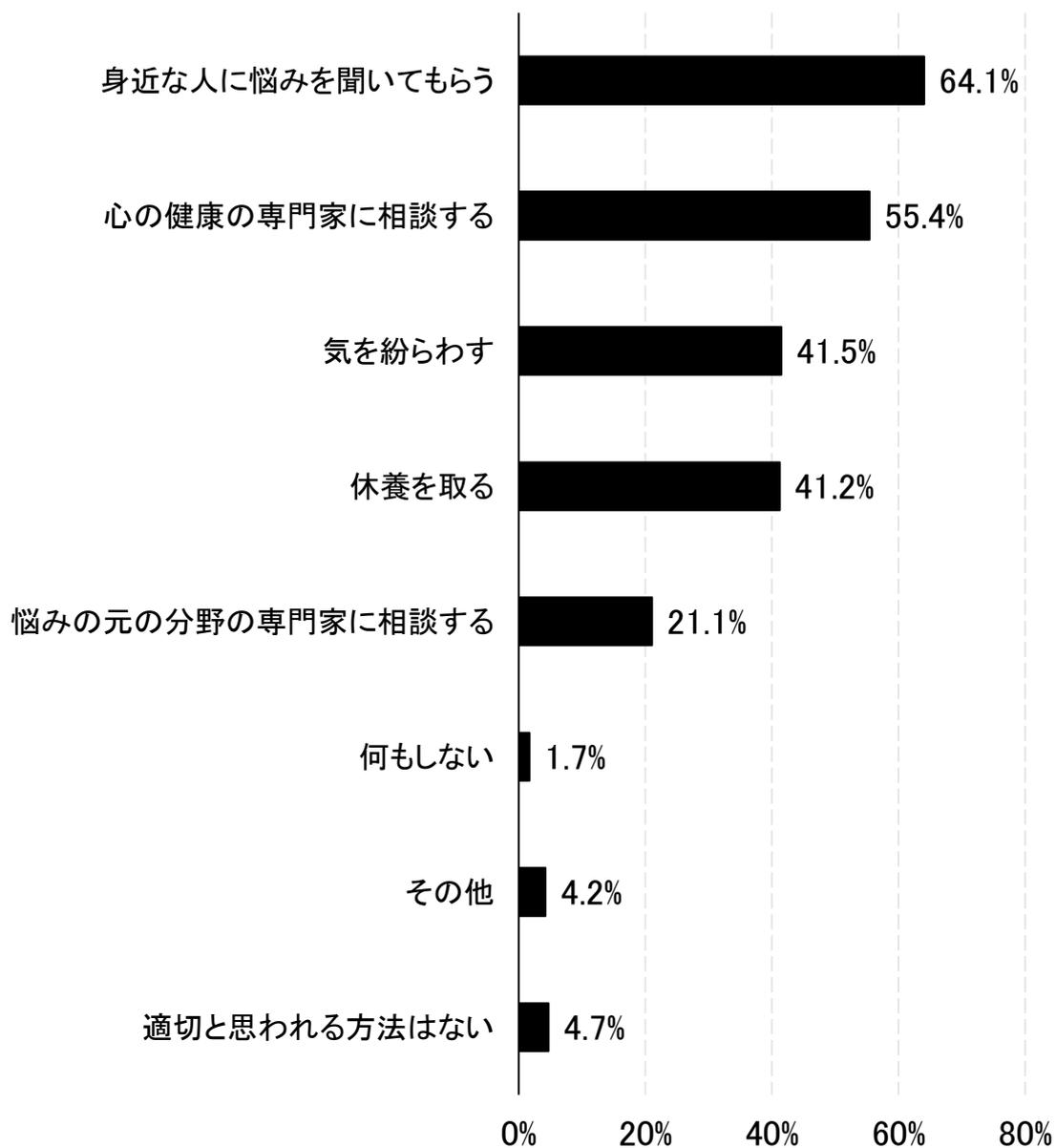


図 74 Q36 自殺したい気持ちを乗り越える方法（複数回答・全体 N=1130）

Q36の自殺したい気持ちを乗り越える方法に関して、男女別でみると、「心の健康の専門家に相談する」は男女で差があり、男性よりも女性の方が9.5ポイント高い（図75）。

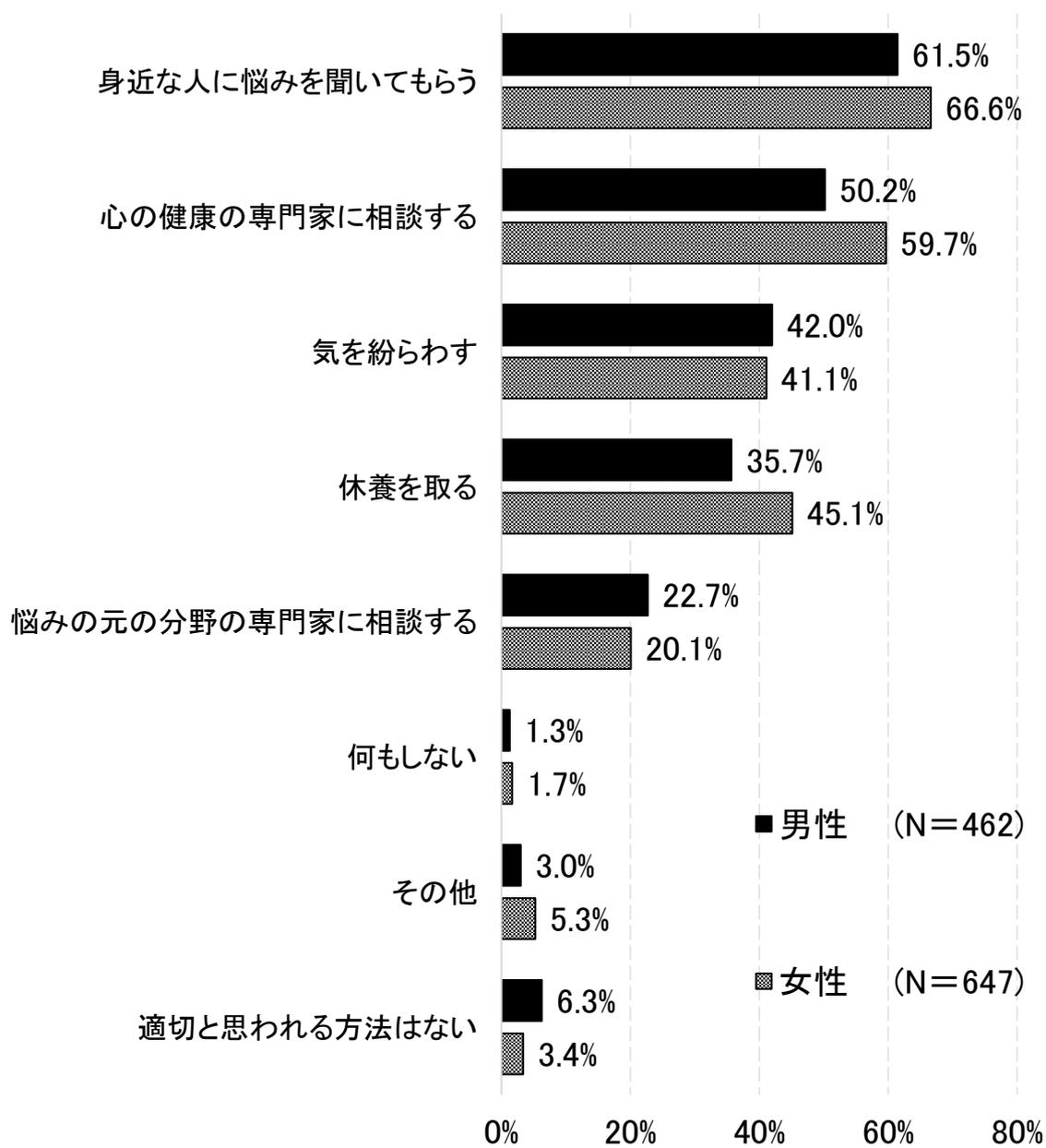


図75 Q36 自殺したい気持ちを乗り越える方法（複数回答・男女別）

Q36の自殺したい気持ちを乗り越える方法に関して、年代別でみると、「休養を取る」は年代で差があり、30代が62.2%と最も高く、反対に70代以上は23.8%と最も低い(図76)。

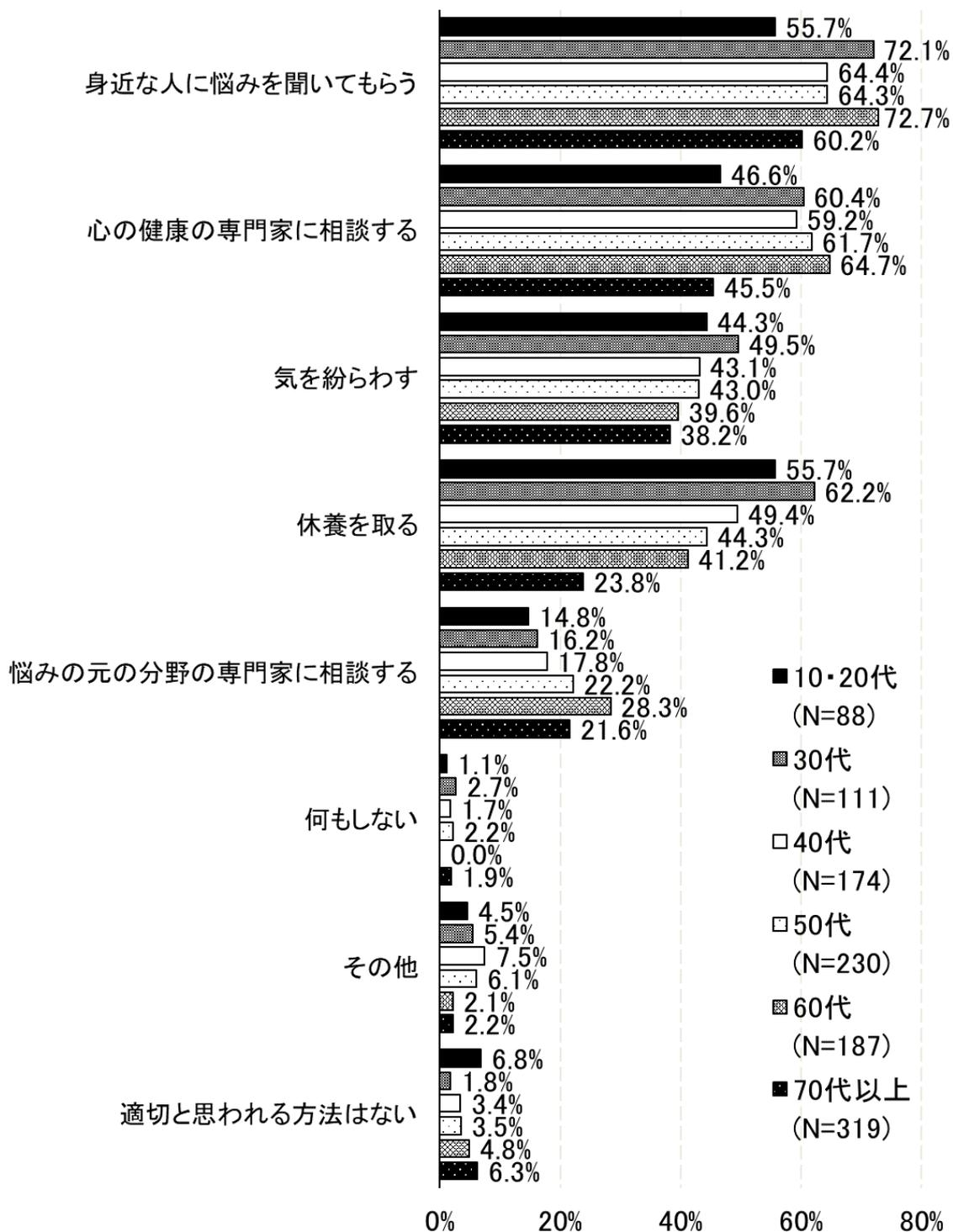


図 76 Q36 自殺したい気持ちを乗り越える方法 (複数回答・年代別)

Q37①の市の仕事のうち最近良くなってきたと思うものに関して、「駅前の整備、駐車・駐輪対策」が26.3%と最も高く、「公園の整備や自然・緑の保全」が26.0%と続く（図77）。

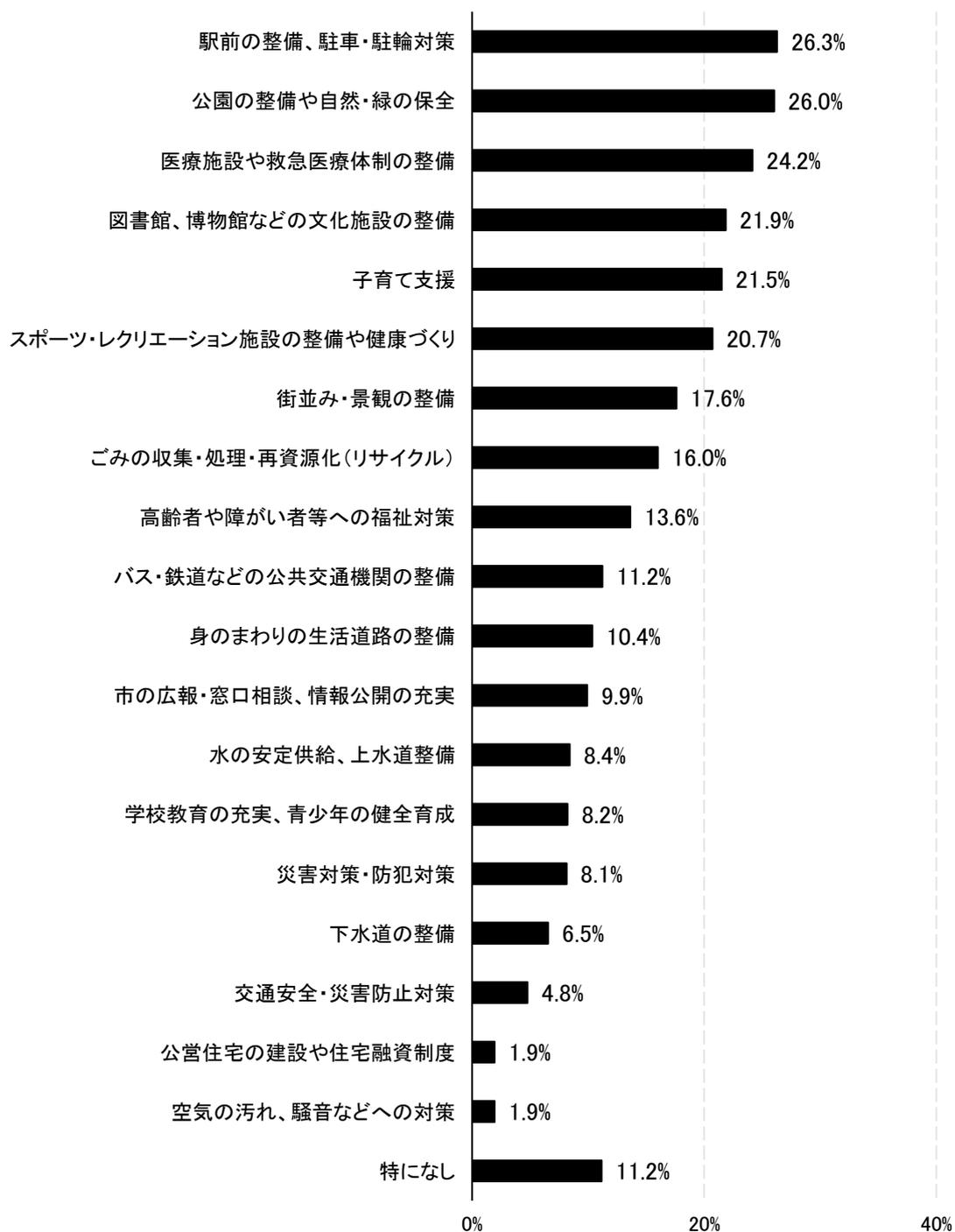


図77 Q37① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの
(複数回答・全体 N=1130)

Q37①の市の仕事のうち最近良くなってきたと思うものに関して、男女別でみると、「子育て支援」では、男性よりも女性の方が13.0ポイント高い（図78）。

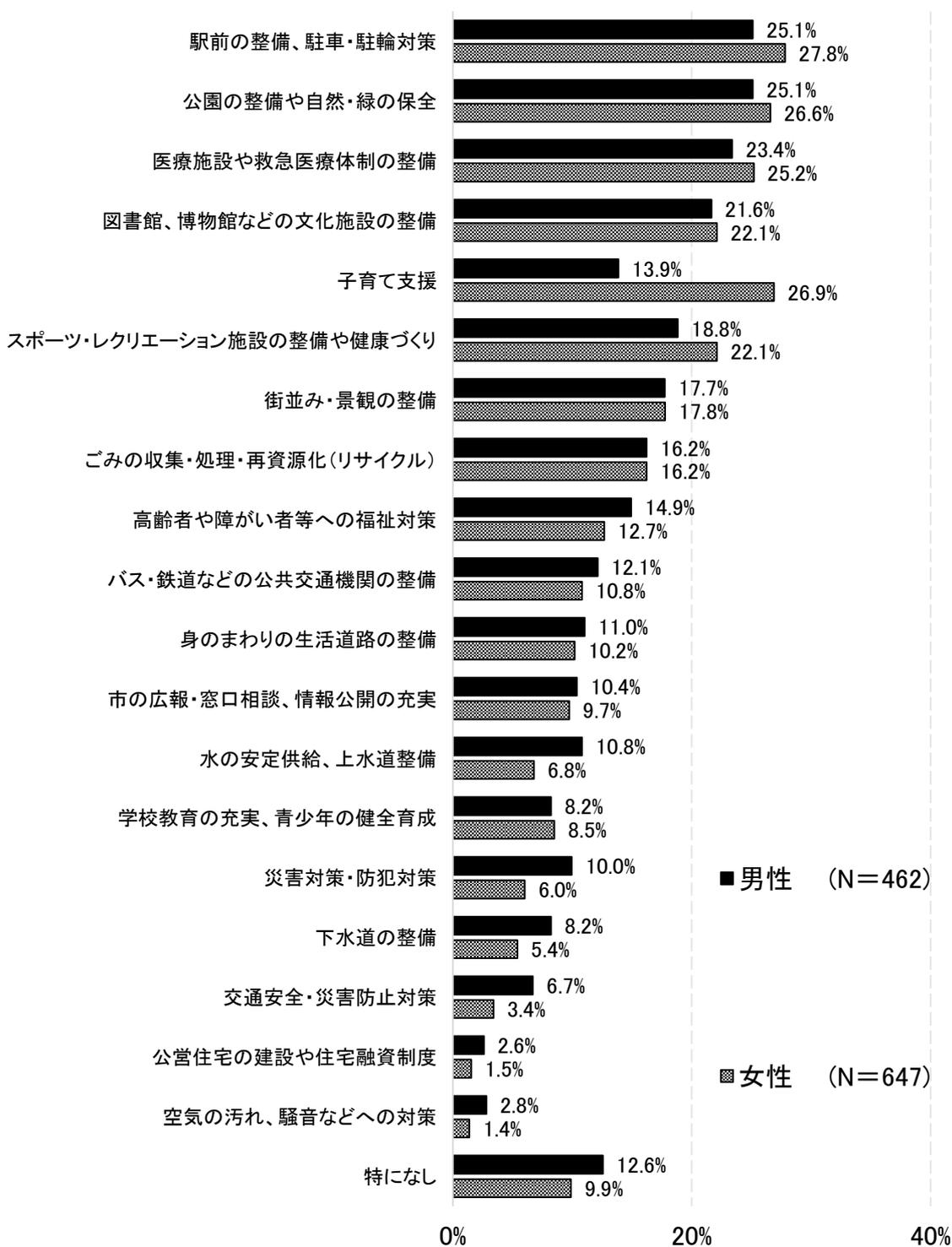


図78 Q37① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの（複数回答・男女別）

Q37①の市の仕事のうち最近良くなってきたと思うものに関して、年代別でみると、「ごみの収集・処理・再資源化（リサイクル）」は、70代以上が27.0%と最も高く、30代が6.3%と最も低い（表5、図79）。

表5 Q37① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの（複数回答・年代別）

	駅前の整備、 駐車・駐輪対策	公園の整備や 自然・緑の保全	医療施設や 救急医療体制の 整備	図書館、 博物館などの 文化施設の整備	子育て支援	スポーツ・ レクリエーション 施設の整備や 健康づくり	街並み・ 景観の整備	(%)
10・20代 (N=88)	23.9	26.1	20.5	18.2	17.0	18.2	21.6	
30代 (N=111)	21.6	27.9	19.8	25.2	25.2	20.7	18.9	
40代 (N=174)	25.9	36.2	24.7	24.7	28.7	22.4	22.4	
50代 (N=230)	25.2	27.8	29.1	20.0	23.5	19.1	20.4	
60代 (N=187)	26.7	18.2	21.4	23.0	19.8	20.9	15.0	
70代以上 (N=319)	30.7	23.5	25.4	21.6	16.6	22.3	13.5	

	ごみの収集・ 処理・再資源化 (リサイクル)	高齢者や 障がい者等への 福祉対策	バス・鉄道などの 公共交通機関の 整備	身のまわりの 生活道路の整備	市の広報・ 窓口相談、 情報公開の充実	水の安定供給、 上下水道整備	学校教育の充実、 青少年の健全育成	(%)
10・20代 (N=88)	11.4	18.2	15.9	15.9	9.1	8.0	6.8	
30代 (N=111)	6.3	9.0	11.7	10.8	5.4	3.6	14.4	
40代 (N=174)	9.8	12.6	10.9	8.6	8.0	6.9	10.9	
50代 (N=230)	14.3	9.1	9.6	10.0	8.3	6.5	9.1	
60代 (N=187)	14.4	11.2	7.5	8.6	9.6	9.1	3.7	
70代以上 (N=319)	27.0	19.7	13.5	11.3	14.1	11.9	7.5	

	災害対策・ 防犯対策	下水道の整備	交通安全・ 災害防止対策	公営住宅の建設や 住宅融資制度	空気の汚れ、 騒音などへの対策	特になし	(%)
10・20代 (N=88)	10.2	5.7	9.1	2.3	2.3	12.5	
30代 (N=111)	3.6	2.7	4.5	2.7	0.9	15.3	
40代 (N=174)	8.6	4.0	5.2	1.7	1.7	10.3	
50代 (N=230)	8.3	3.5	3.0	1.3	1.7	13.0	
60代 (N=187)	5.3	6.4	4.3	2.1	0.0	11.2	
70代以上 (N=319)	9.7	11.9	4.7	2.2	3.8	7.5	

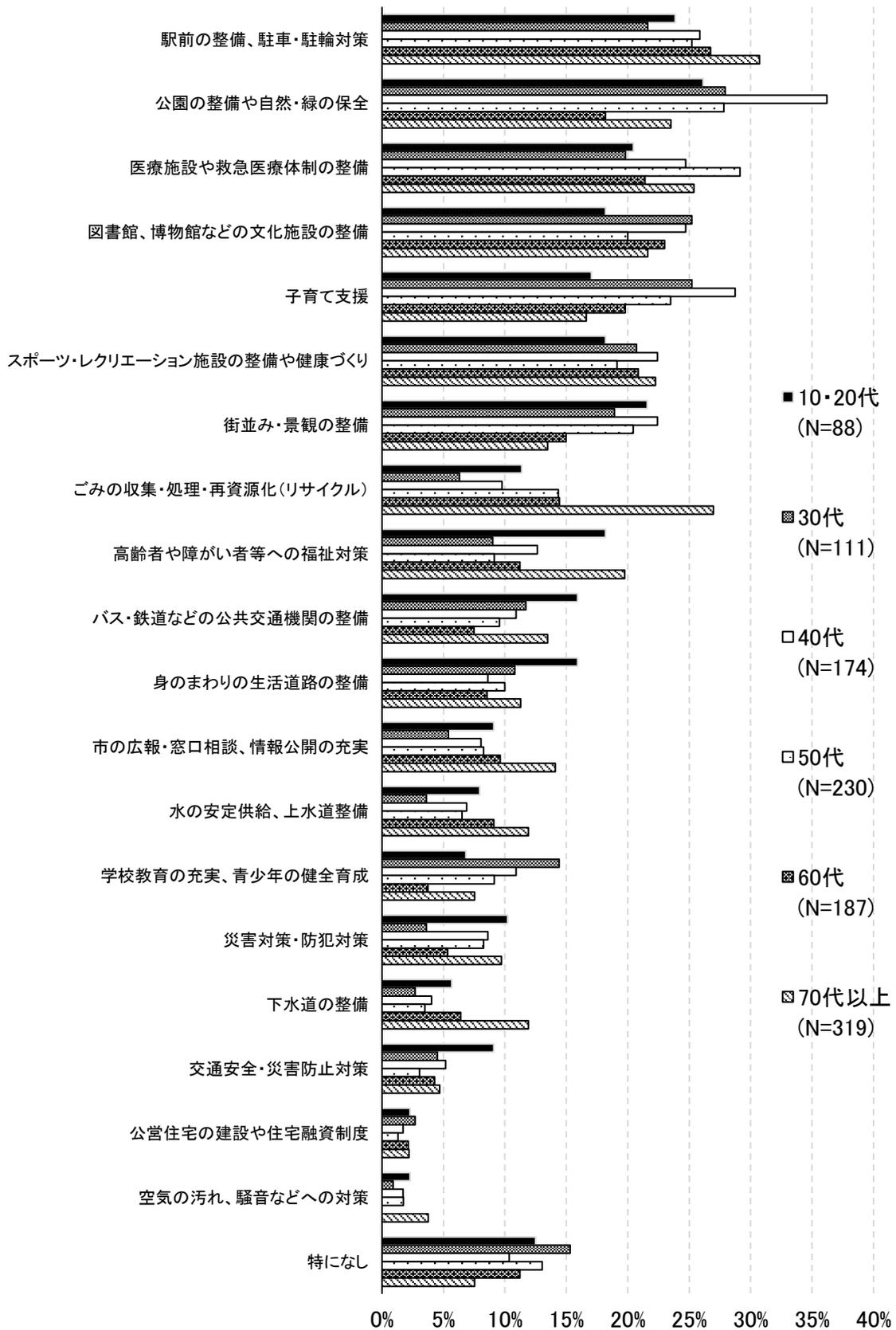


図 79 Q37① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの（複数回答・年代別）

Q37①の市の仕事のうち最近良くなってきたと思うものに関して、居住地域別でみると、「子育て支援」は全地域で20%を超え、三箇牧地域が26.1%と最も高い（表6、図80）。

表6 Q37① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの（複数回答・居住地域別）

	(%)						
	駅前の整備、 駐車・駐輪対策	公園の整備や 自然・緑の保全	医療施設や 救急医療体制の 整備	図書館、 博物館などの 文化施設の整備	子育て支援	スポーツ・ レクリエーション 施設の整備や 健康づくり	街並み・ 景観の整備
高槻北地区 (N=280)	36.1	27.5	25.7	28.6	22.1	22.9	18.2
高槻南地区 (N=294)	31.3	29.3	25.9	25.2	20.1	20.7	17.7
五領地区 (N=43)	18.6	27.9	25.6	18.6	20.9	9.3	14.0
高槻西地区 (N=181)	26.0	32.0	26.5	20.4	20.4	22.7	22.7
如是・富田地区 (N=241)	15.4	19.1	19.1	14.1	23.2	21.6	15.4
三箇牧地区 (N=23)	17.4	17.4	30.4	21.7	26.1	21.7	4.3

	ごみの収集・ 処理・再資源化 (リサイクル)	高齢者や 障がい者等への 福祉対策	バス・鉄道などの 公共交通機関の 整備	身のまわりの 生活道路の整備	市の広報・ 窓口相談、 情報公開の充実	水の安定供給、 上水道整備	学校教育の充実、 青少年の健全育成
高槻北地区 (N=280)	13.9	9.6	13.6	11.4	6.4	5.0	7.9
高槻南地区 (N=294)	15.6	14.6	15.0	11.6	11.9	7.1	7.5
五領地区 (N=43)	25.6	11.6	2.3	14.0	18.6	7.0	7.0
高槻西地区 (N=181)	17.1	19.9	10.5	11.0	9.4	11.0	8.3
如是・富田地区 (N=241)	17.4	14.5	7.1	7.5	11.6	11.6	10.8
三箇牧地区 (N=23)	21.7	21.7	13.0	4.3	8.7	17.4	13.0

	災害対策・ 防犯対策	下水道の整備	交通安全・ 災害防止対策	公営住宅の建設や 住宅融資制度	空気の汚れ、 騒音などへの対策	特になし
高槻北地区 (N=280)	6.1	6.1	2.9	1.1	2.1	12.1
高槻南地区 (N=294)	8.5	6.5	4.1	2.7	2.0	6.8
五領地区 (N=43)	4.7	7.0	0.0	0.0	2.3	14.0
高槻西地区 (N=181)	11.6	7.2	8.3	2.2	2.2	9.9
如是・富田地区 (N=241)	7.9	5.8	5.4	2.9	1.7	10.8
三箇牧地区 (N=23)	13.0	13.0	8.7	0.0	4.3	26.1

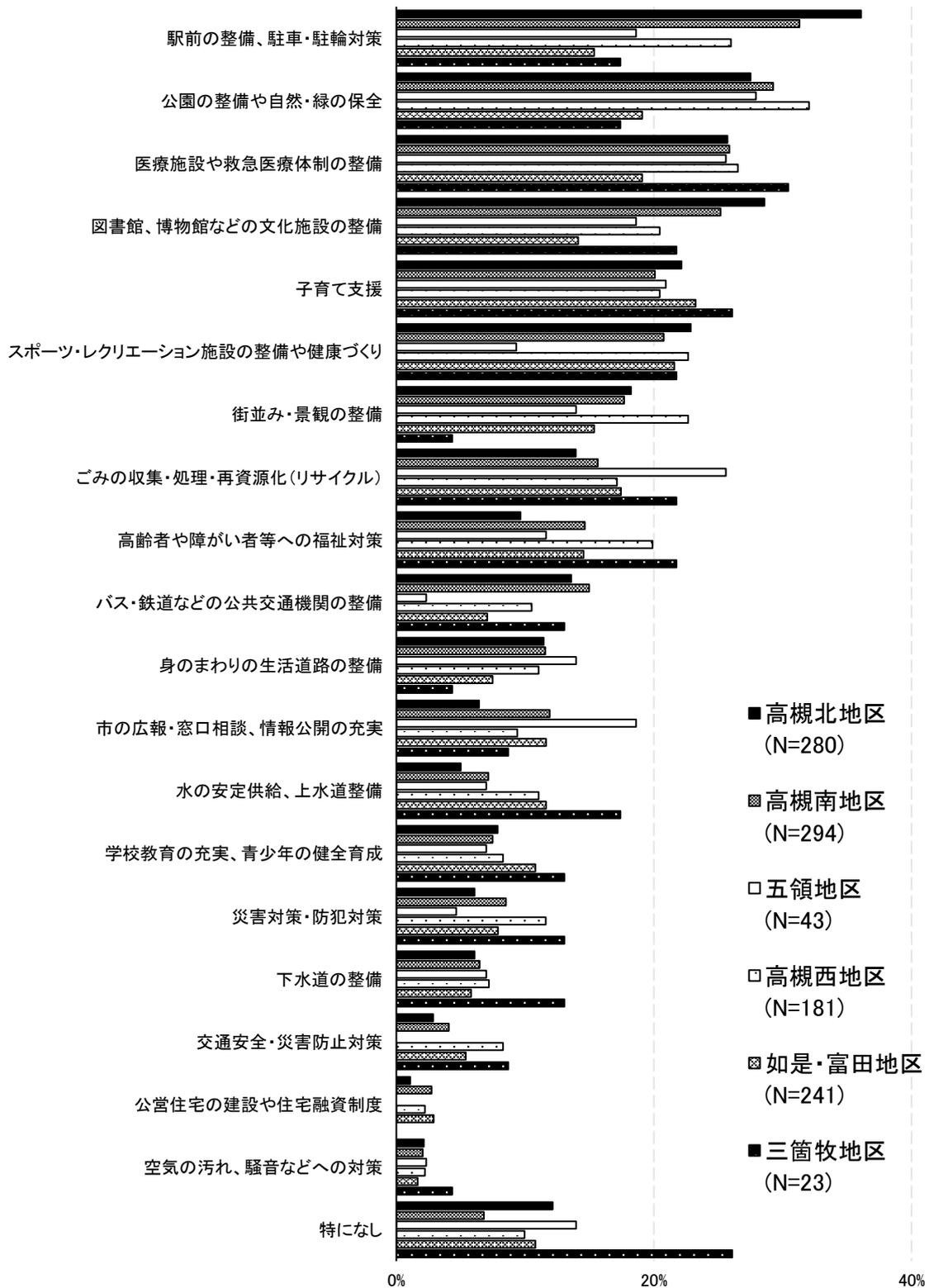


図 80 Q37① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの
(複数回答・居住地域別)

Q37①の市の仕事のうち最近良くなってきたと思うものに関して、居住年数別でみると、「公園の整備や自然・緑の保全」は1年未満を除き20%以上であり、5年以上10年未満が33.9%と最も高い（表7、図81）。

表7 Q37①市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの（複数回答・居住年数別）

	駅前の整備、 駐車・駐輪対策	公園の整備や 自然・緑の保全	医療施設や 救急医療体制の 整備	図書館、 博物館などの 文化施設の整備	子育て支援	スポーツ・ レクリエーション 施設の整備や 健康づくり	街並み・ 景観の整備	(%)
1年未満 (N=24)	16.7	16.7	8.3	20.8	8.3	12.5	12.5	
1年以上3年未満 (N=41)	9.8	26.8	14.6	14.6	12.2	17.1	14.6	
3年以上5年未満 (N=40)	15.0	27.5	10.0	25.0	25.0	27.5	20.0	
5年以上10年未満 (N=62)	22.6	33.9	22.6	16.1	25.8	17.7	14.5	
10年以上20年未満 (N=156)	23.1	29.5	26.3	22.4	28.2	17.9	17.9	
20年以上30年未満 (N=182)	28.6	28.0	24.2	25.3	21.4	19.2	25.3	
30年以上40年未満 (N=156)	28.2	23.1	21.2	23.1	23.1	22.4	20.5	
40年以上50年未満 (N=207)	30.4	24.2	28.0	20.3	18.8	22.2	14.5	
50年以上 (N=241)	29.5	26.1	27.8	22.4	19.5	23.7	14.1	

	ごみの収集・ 処理・資源還元（リ サイクル）	高齢者や 障がい者等への 福祉対策	バス・鉄道などの公 共交通機関の 整備	身のまわりの 生活道路の整備	市の広報・ 窓口相談、 情報公開の充実	水の安定供給、 上水道整備	学校教育の充実、 青少年の健全育成	(%)
1年未満 (N=24)	8.3	8.3	4.2	4.2	8.3	8.3	8.3	
1年以上3年未満 (N=41)	9.8	7.3	4.9	0.0	2.4	4.9	12.2	
3年以上5年未満 (N=40)	0.0	7.5	7.5	7.5	7.5	2.5	10.0	
5年以上10年未満 (N=62)	14.5	8.1	9.7	11.3	6.5	3.2	8.1	
10年以上20年未満 (N=156)	10.9	12.8	12.8	14.1	7.1	6.4	12.8	
20年以上30年未満 (N=182)	7.7	14.3	9.3	13.2	7.1	4.9	6.6	
30年以上40年未満 (N=156)	15.4	13.5	13.5	7.7	7.7	10.3	7.7	
40年以上50年未満 (N=207)	21.7	16.4	14.0	7.2	14.0	10.1	7.7	
50年以上 (N=241)	25.3	16.2	10.4	12.0	14.9	12.0	7.1	

	災害対策・ 防犯対策	下水道の整備	交通安全・ 災害防止対策	公営住宅の建設や住 宅融資制度	空気の汚れ、 騒音などへの対策	特になし	(%)
1年未満 (N=24)	8.3	4.2	4.2	4.2	12.5	37.5	
1年以上3年未満 (N=41)	7.3	4.9	7.3	2.4	0.0	31.7	
3年以上5年未満 (N=40)	7.5	0.0	2.5	0.0	2.5	12.5	
5年以上10年未満 (N=62)	6.5	4.8	3.2	0.0	0.0	6.5	
10年以上20年未満 (N=156)	5.1	2.6	3.2	1.9	1.3	7.1	
20年以上30年未満 (N=182)	9.9	5.5	6.6	3.3	1.6	12.6	
30年以上40年未満 (N=156)	8.3	7.1	5.1	2.6	1.9	10.3	
40年以上50年未満 (N=207)	8.7	7.7	2.4	1.4	1.0	10.1	
50年以上 (N=241)	8.7	10.4	5.8	1.7	3.3	8.3	

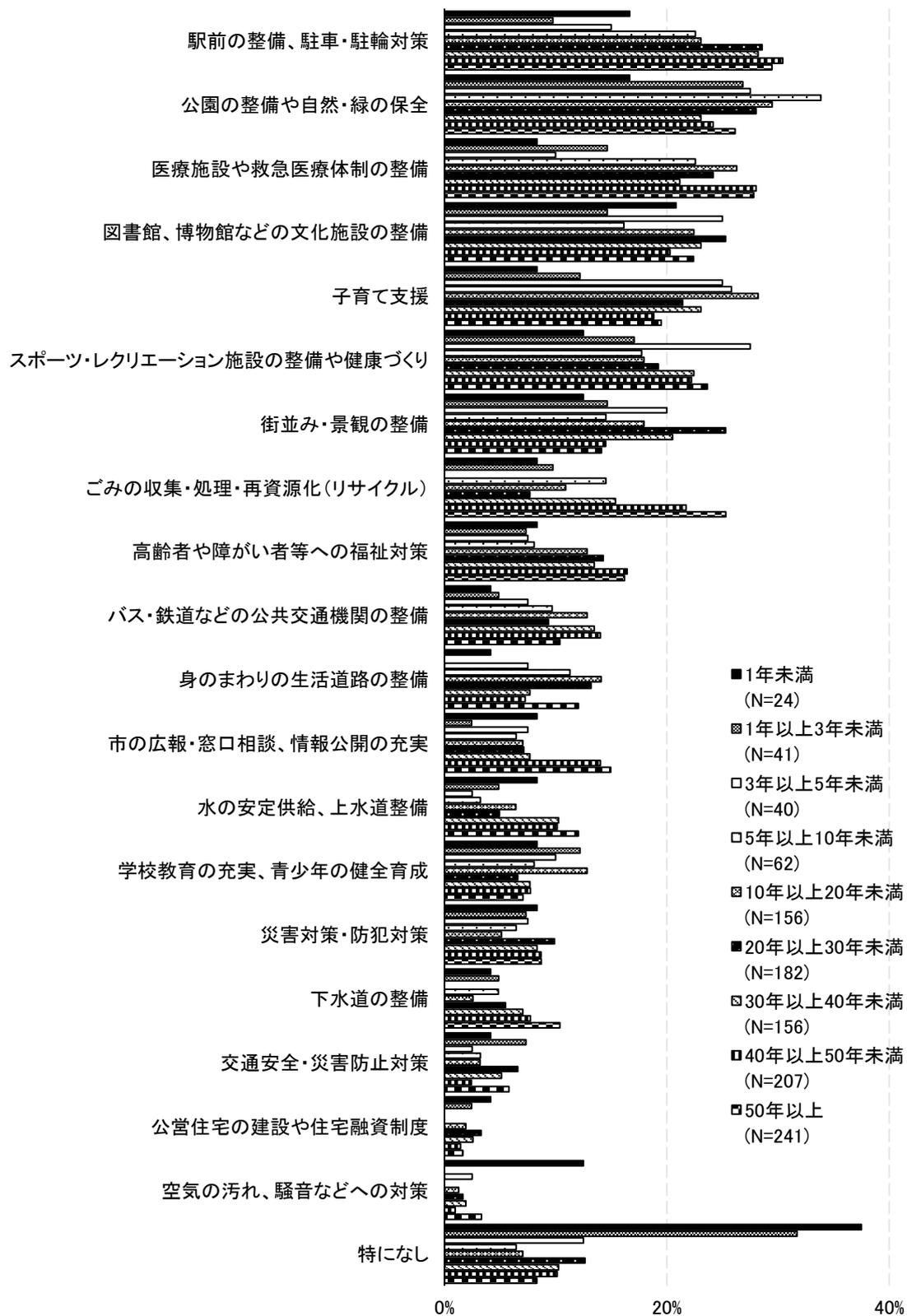


図 81 Q37① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの
(複数回答・居住年数別)

Q37②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、「高齢者や障がい者等への福祉対策」が28.0%と最も高く、「災害対策・防犯対策」が23.2%と続く（図82）。

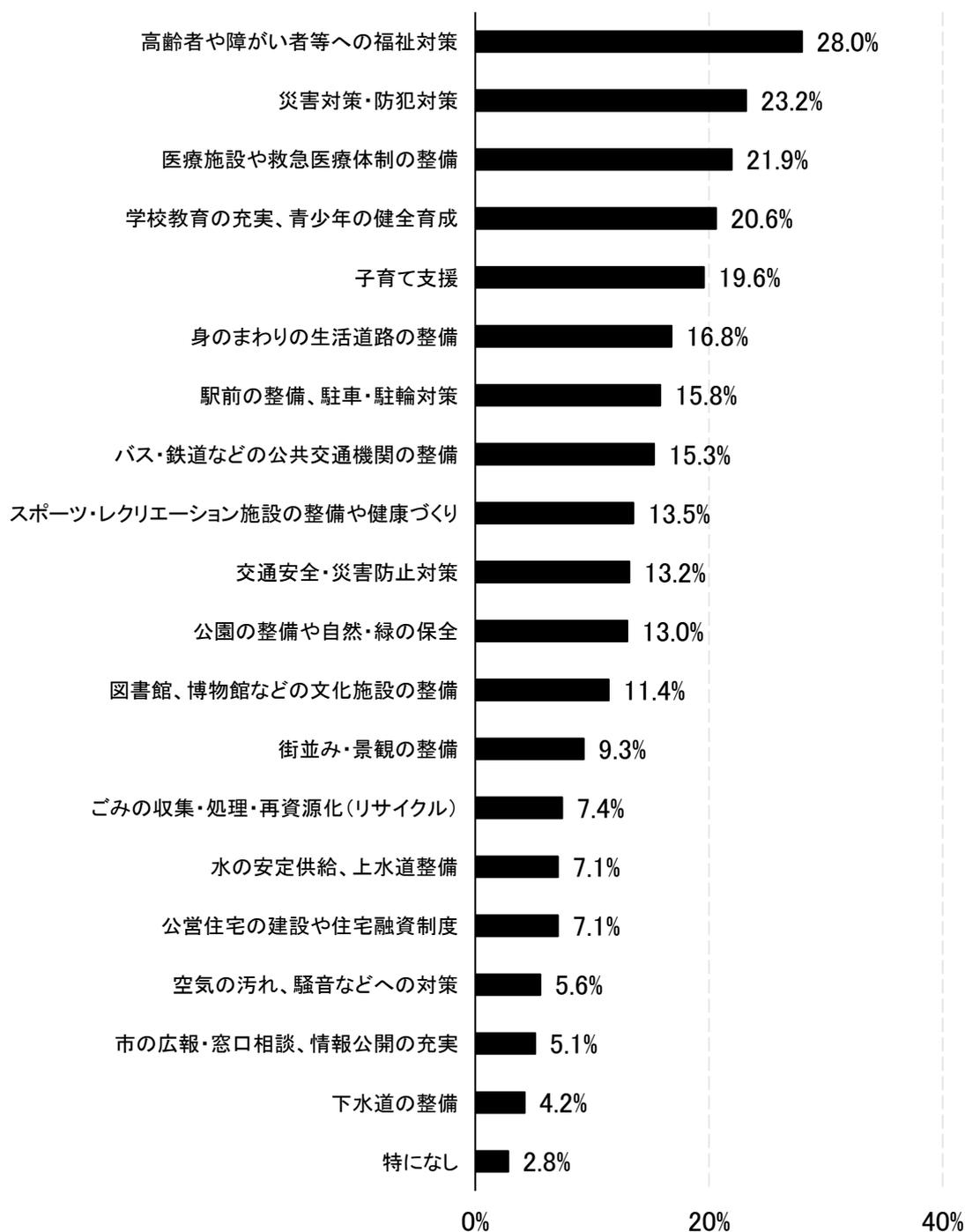


図82 Q37② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・全体 N=1130）

Q37②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、男女別で見ると、「高齢者や障がい者等への福祉対策」では、男性よりも女性の方が6.6ポイント高い（図 83）。

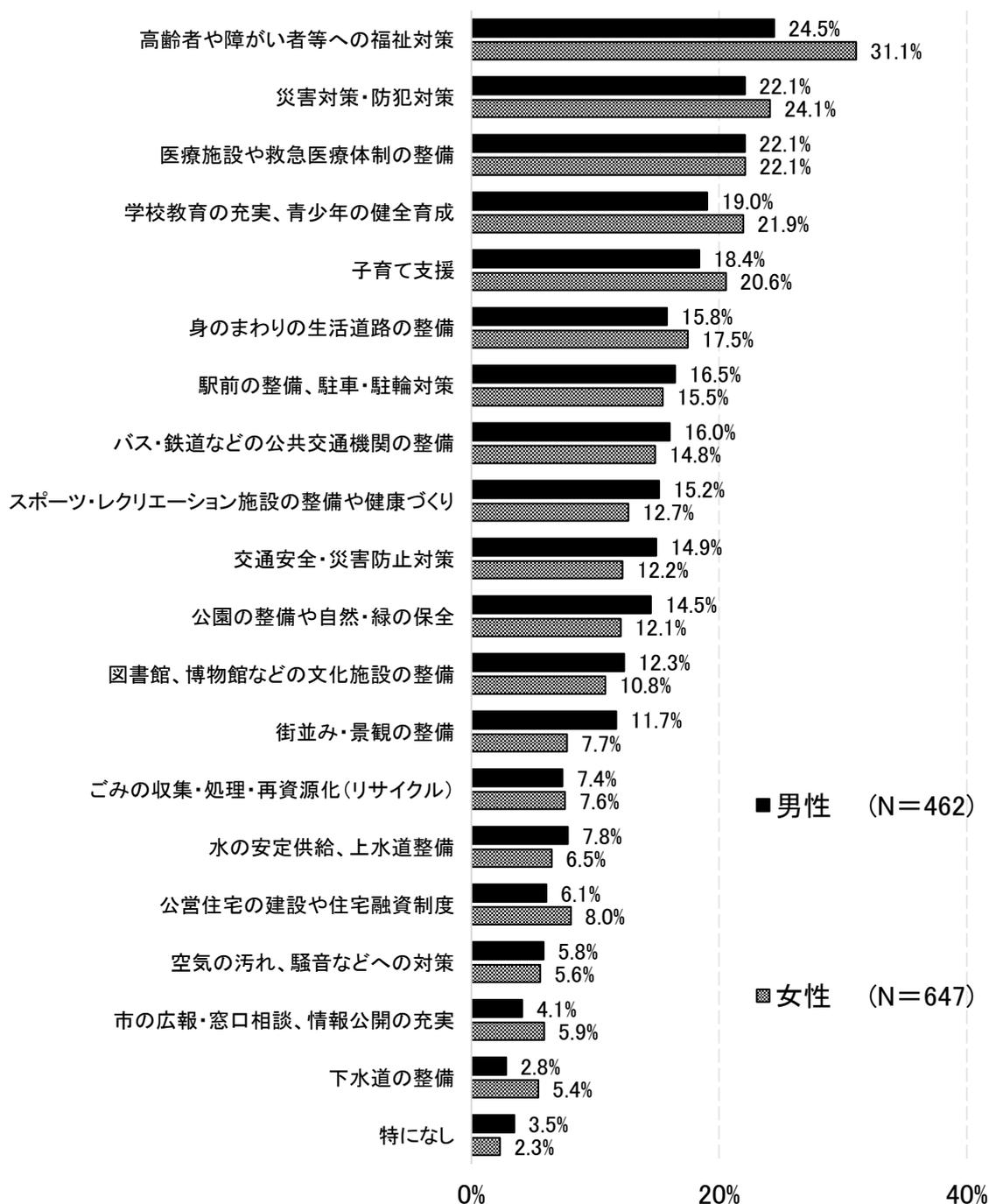


図 83 Q37② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・男女別）

Q37②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、年代別で見ると、「子育て支援」は若い世代で高く、30代が49.5%と最も高い（表8、図84）。

表8 Q37② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・年代別）

(%)							
	高齢者や 障がい者等への 福祉対策	災害対策・ 防犯対策	医療施設や 救急医療体制の 整備	学校教育の充実、 青少年の健全育成	子育て支援	身のまわりの 生活道路の整備	駅前の整備、 駐車・駐輪対策
10・20代 (N=88)	8.0	14.8	15.9	20.5	40.9	14.8	12.5
30代 (N=111)	9.9	15.3	14.4	43.2	49.5	15.3	10.8
40代 (N=174)	19.0	18.4	14.4	28.2	30.5	16.7	20.1
50代 (N=230)	25.7	30.4	27.0	12.6	11.3	20.9	21.3
60代 (N=187)	32.6	27.3	30.5	13.4	9.1	16.0	17.6
70代以上 (N=319)	44.5	23.5	21.9	19.4	10.3	15.4	11.3

	バス・鉄道などの 公共交通機関の 整備	スポーツ・ レクリエーション 施設の整備や 健康づくり	交通安全・ 災害防止対策	公園の整備や 自然・緑の保全	図書館、 博物館などの 文化施設の整備	街並み・ 景観の整備	ごみの収集・ 処理・再資源化 (リサイクル)
10・20代 (N=88)	23.9	14.8	9.1	15.9	17.0	12.5	3.4
30代 (N=111)	8.1	14.4	9.0	17.1	14.4	3.6	9.0
40代 (N=174)	16.7	14.9	12.6	12.1	13.8	10.3	9.2
50代 (N=230)	18.7	14.3	16.1	10.4	12.2	7.8	6.1
60代 (N=187)	17.6	10.7	17.1	14.4	8.0	9.1	9.1
70代以上 (N=319)	11.3	12.9	12.2	12.9	8.8	11.0	7.5

	水の安定供給、 上水道整備	公営住宅の建設や 住宅融資制度	空気の汚れ、 騒音などへの対策	市の広報・ 窓口相談、 情報公開の充実	下水道の整備	特になし
10・20代 (N=88)	4.5	5.7	4.5	3.4	4.5	2.3
30代 (N=111)	4.5	5.4	9.0	0.9	1.8	0.9
40代 (N=174)	8.0	8.6	6.3	3.4	2.9	1.7
50代 (N=230)	5.7	7.4	7.4	6.1	4.8	3.0
60代 (N=187)	8.0	8.6	4.3	5.9	4.8	4.3
70代以上 (N=319)	9.1	6.0	4.1	7.2	5.3	3.1

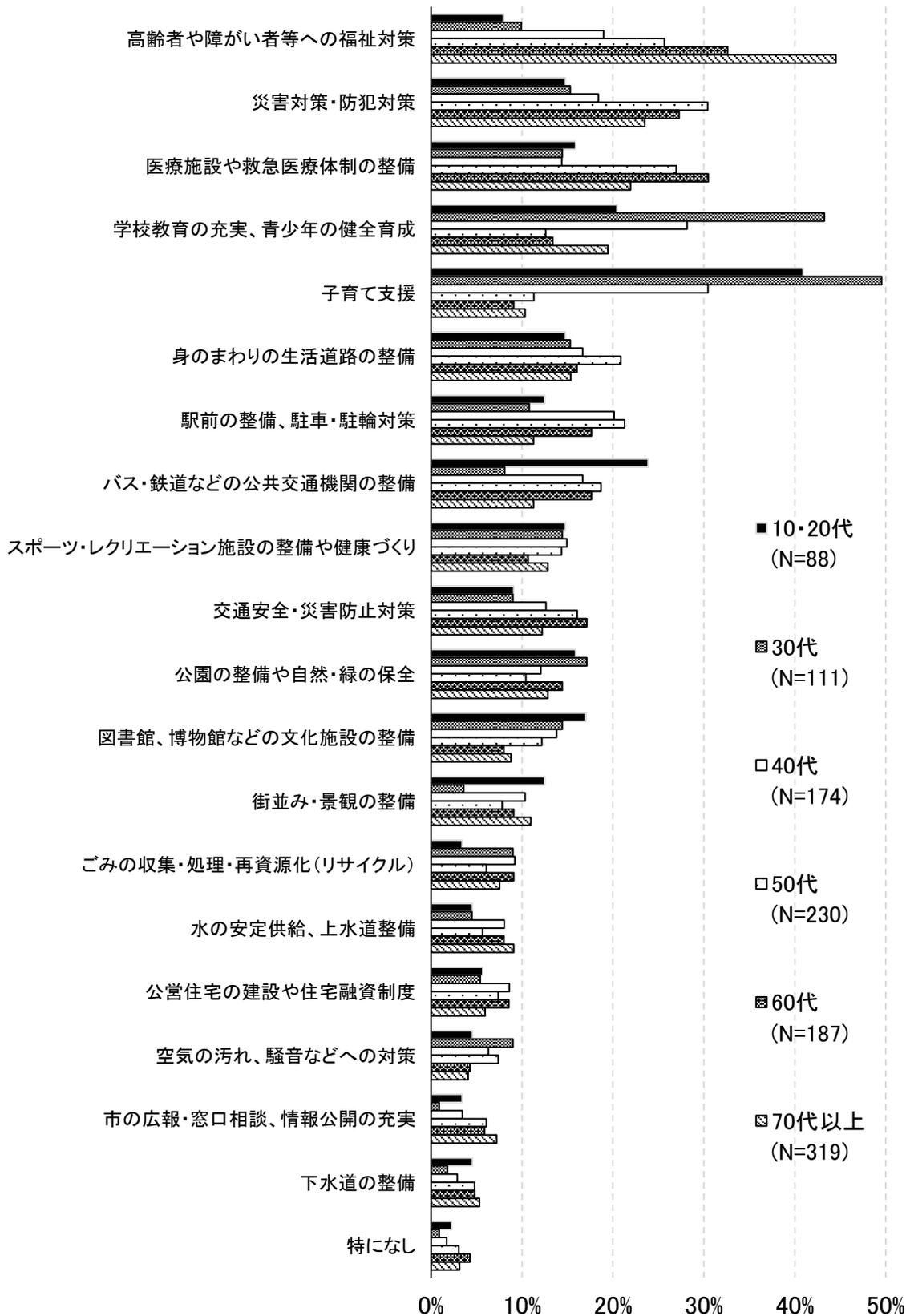


図 84 Q37② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・年代別）

Q37②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、居住地域別でみると、「災害対策・防犯対策」は全地域で20%を超える（表9、図85）。

表9 Q37② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住地域別）

	高齢者や 障がい者等への 福祉対策	災害対策・ 防犯対策	医療施設や 救急医療体制の 整備	学校教育の充実、 青少年の健全育成	子育て支援	身のまわりの 生活道路の整備	駅前の整備、 駐車・駐輪対策	(%)
高槻北地区 (N=280)	22.9	22.5	25.4	25.4	21.4	17.9	13.9	
高槻南地区 (N=294)	25.2	24.1	19.4	17.7	18.7	13.3	22.8	
五領地区 (N=43)	34.9	27.9	27.9	11.6	23.3	4.7	11.6	
高槻西地区 (N=181)	28.7	24.3	16.6	22.7	19.9	18.8	13.3	
如是・富田地区 (N=241)	37.3	21.6	23.7	21.6	20.3	20.3	14.9	
三箇牧地区 (N=23)	34.8	21.7	21.7	17.4	21.7	21.7	13.0	
	バス・鉄道などの 公共交通機関の 整備	スポーツ・ レクリエーション 施設の整備や 健康づくり	交通安全・ 災害防止対策	公園の整備や 自然・緑の保全	図書館、 博物館などの 文化施設の整備	街並み・ 景観の整備	ごみの収集・ 処理・再資源化 (リサイクル)	
高槻北地区 (N=280)	16.8	11.8	11.4	15.0	11.1	13.2	7.1	
高槻南地区 (N=294)	10.9	14.3	14.3	13.3	12.6	8.2	9.9	
五領地区 (N=43)	25.6	11.6	16.3	4.7	20.9	7.0	4.7	
高槻西地区 (N=181)	15.5	17.7	16.0	12.7	11.6	7.2	5.0	
如是・富田地区 (N=241)	14.5	11.6	13.3	12.4	9.5	7.9	5.8	
三箇牧地区 (N=23)	34.8	17.4	8.7	13.0	4.3	13.0	8.7	
	水の安定供給、 上水道整備	公営住宅の建設や 住宅融資制度	空気の汚れ、 騒音などへの対策	市の広報・ 窓口相談、 情報公開の充実	下水道の整備	特になし		
高槻北地区 (N=280)	6.4	2.9	5.4	2.1	2.5	3.2		
高槻南地区 (N=294)	8.2	9.2	7.8	4.1	6.8	2.0		
五領地区 (N=43)	7.0	4.7	4.7	4.7	0.0	2.3		
高槻西地区 (N=181)	7.7	8.3	4.4	6.1	3.9	3.9		
如是・富田地区 (N=241)	7.5	10.0	4.6	9.5	5.0	3.3		
三箇牧地区 (N=23)	0.0	4.3	8.7	4.3	4.3	0.0		

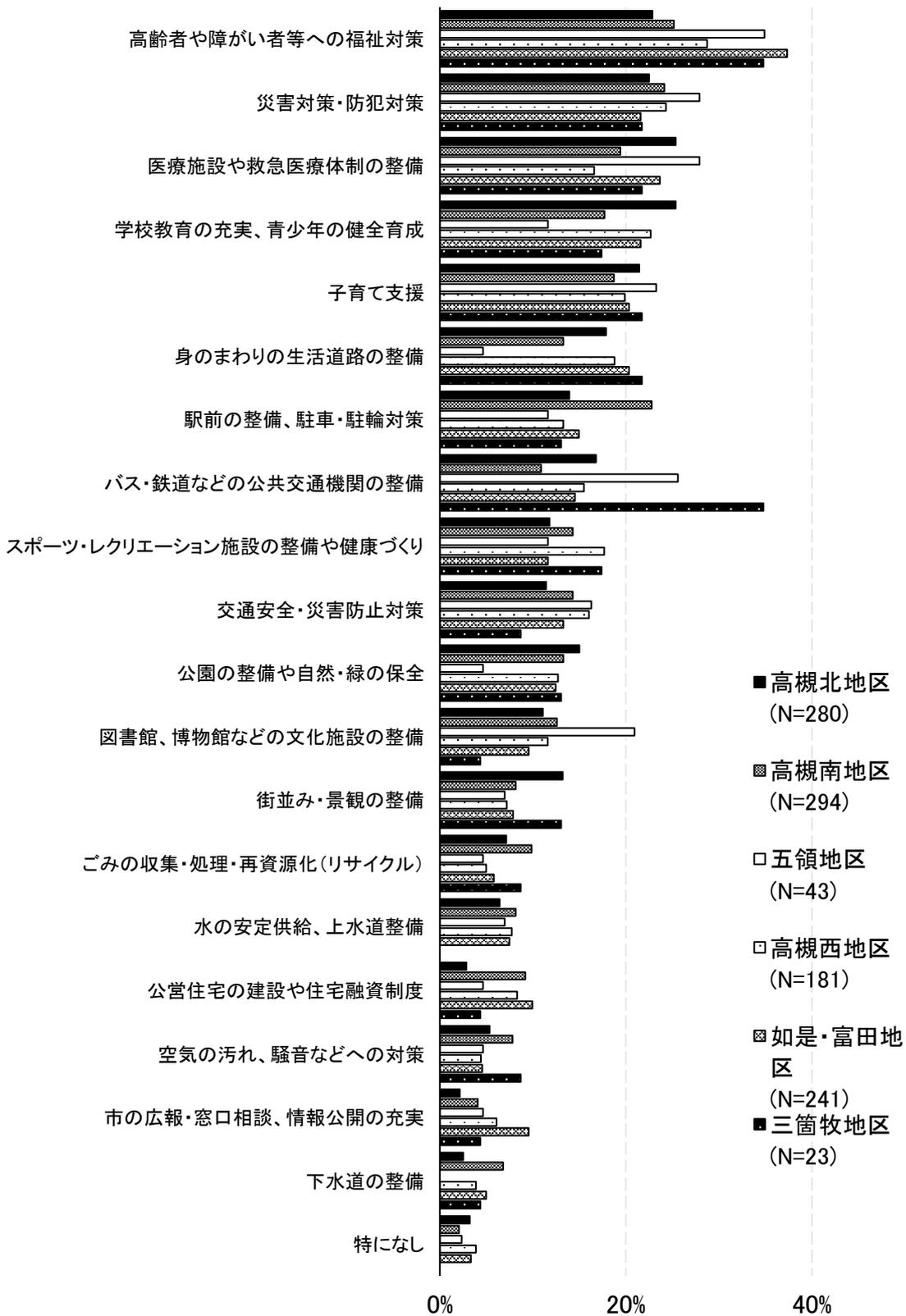


図 85 Q37② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住地域別）

Q37②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、居住年数別でみると、「子育て支援」は1年以上3年未満では46.3%と最も高く、40年以上50年未満では10.1%と最も低い（表10、図86）。

表10 Q37② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住年数別）

	高齢者や 障がい者等への 福祉対策	災害対策・ 防犯対策	医療施設や 救急医療体制の 整備	学校教育の充実、 青少年の健全育成	子育て支援	身のまわりの 生活道路の整備	駅前の整備、 駐車・駐輪対策
1年未満 (N=24)	8.3	20.8	12.5	29.2	29.2	25.0	16.7
1年以上3年未満 (N=41)	14.6	24.4	9.8	22.0	46.3	14.6	19.5
3年以上5年未満 (N=40)	10.0	7.5	17.5	42.5	40.0	25.0	10.0
5年以上10年未満 (N=62)	22.6	8.1	19.4	21.0	43.5	14.5	12.9
10年以上20年未満 (N=156)	21.2	21.8	20.5	21.8	21.2	19.9	22.4
20年以上30年未満 (N=182)	22.0	24.7	24.7	18.1	20.3	15.4	18.1
30年以上40年未満 (N=156)	32.1	22.4	19.9	25.0	21.2	19.2	12.8
40年以上50年未満 (N=207)	33.8	25.1	22.2	22.2	10.1	13.5	12.1
50年以上 (N=241)	38.6	29.0	26.6	13.7	11.2	16.2	16.6

	バス・鉄道などの公共 交通機関の 整備	スポーツ・ レクリエーション 施設の整備や 健康づくり	交通安全・ 災害防止対策	公園の整備や 自然・緑の保全	図書館、 博物館などの 文化施設の整備	街並み・ 景観の整備	ごみの収集・ 処理・再資源化 (リサイクル)
1年未満 (N=24)	25.0	8.3	29.2	4.2	20.8	16.7	12.5
1年以上3年未満 (N=41)	14.6	19.5	2.4	12.2	17.1	9.8	12.2
3年以上5年未満 (N=40)	12.5	7.5	7.5	15.0	10.0	2.5	5.0
5年以上10年未満 (N=62)	11.3	16.1	11.3	14.5	11.3	9.7	3.2
10年以上20年未満 (N=156)	17.9	15.4	13.5	13.5	13.5	11.5	4.5
20年以上30年未満 (N=182)	16.5	16.5	14.8	18.1	13.7	9.9	9.3
30年以上40年未満 (N=156)	15.4	7.7	7.1	12.2	10.9	10.3	5.8
40年以上50年未満 (N=207)	17.4	17.9	16.4	14.0	9.2	7.7	10.6
50年以上 (N=241)	12.0	10.4	15.4	9.1	9.1	8.7	5.8

	水の安定供給、 上下水道整備	公営住宅の建設や 住宅融資制度	空気の汚れ、 騒音などへの対策	市の広報・ 窓口相談、 情報公開の充実	下水道の整備	特になし
1年未満 (N=24)	8.3	0.0	16.7	4.2	0.0	4.2
1年以上3年未満 (N=41)	4.9	12.2	2.4	2.4	0.0	2.4
3年以上5年未満 (N=40)	0.0	5.0	7.5	0.0	0.0	0.0
5年以上10年未満 (N=62)	8.1	16.1	6.5	4.8	6.5	4.8
10年以上20年未満 (N=156)	5.8	3.2	3.2	2.6	3.8	1.3
20年以上30年未満 (N=182)	7.1	7.7	7.7	3.8	4.9	2.7
30年以上40年未満 (N=156)	6.4	9.6	4.5	10.9	3.8	2.6
40年以上50年未満 (N=207)	8.2	7.2	4.3	5.8	3.9	2.9
50年以上 (N=241)	8.3	5.4	6.6	5.4	6.2	3.7

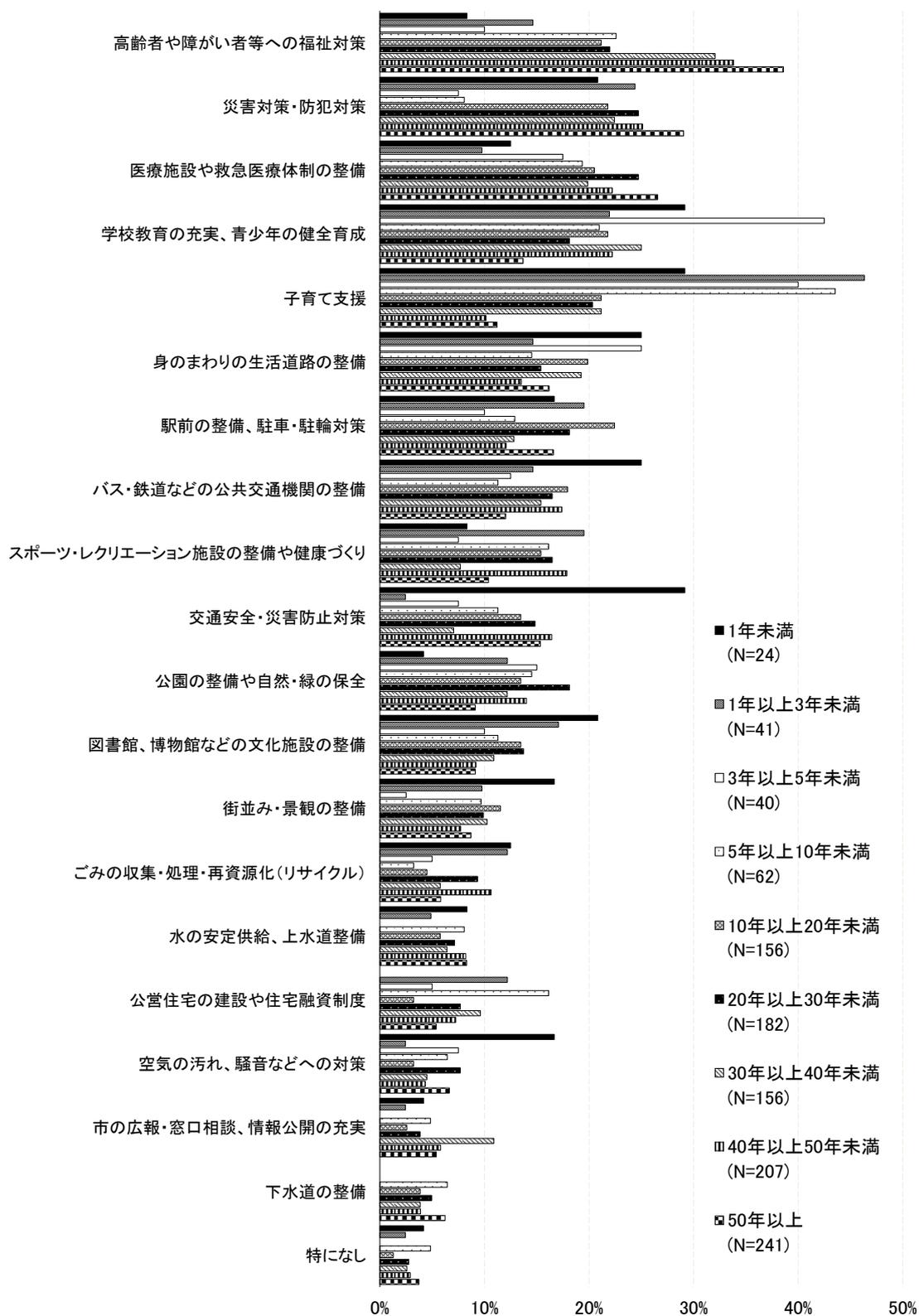


図 86 Q37② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住年数別）

Q38の『高槻市みらいのための経営革新』に向けた改革方針の認知に関して、男女別・年代別のすべての層で「知らない」と回答した人が7割以上である。年代別でみると、「名前も内容も知っている」または「名前だけ知っている」と回答した人の割合は70代以上が18.8%と最も高く、30代が9.9%と最も低い(図87)。

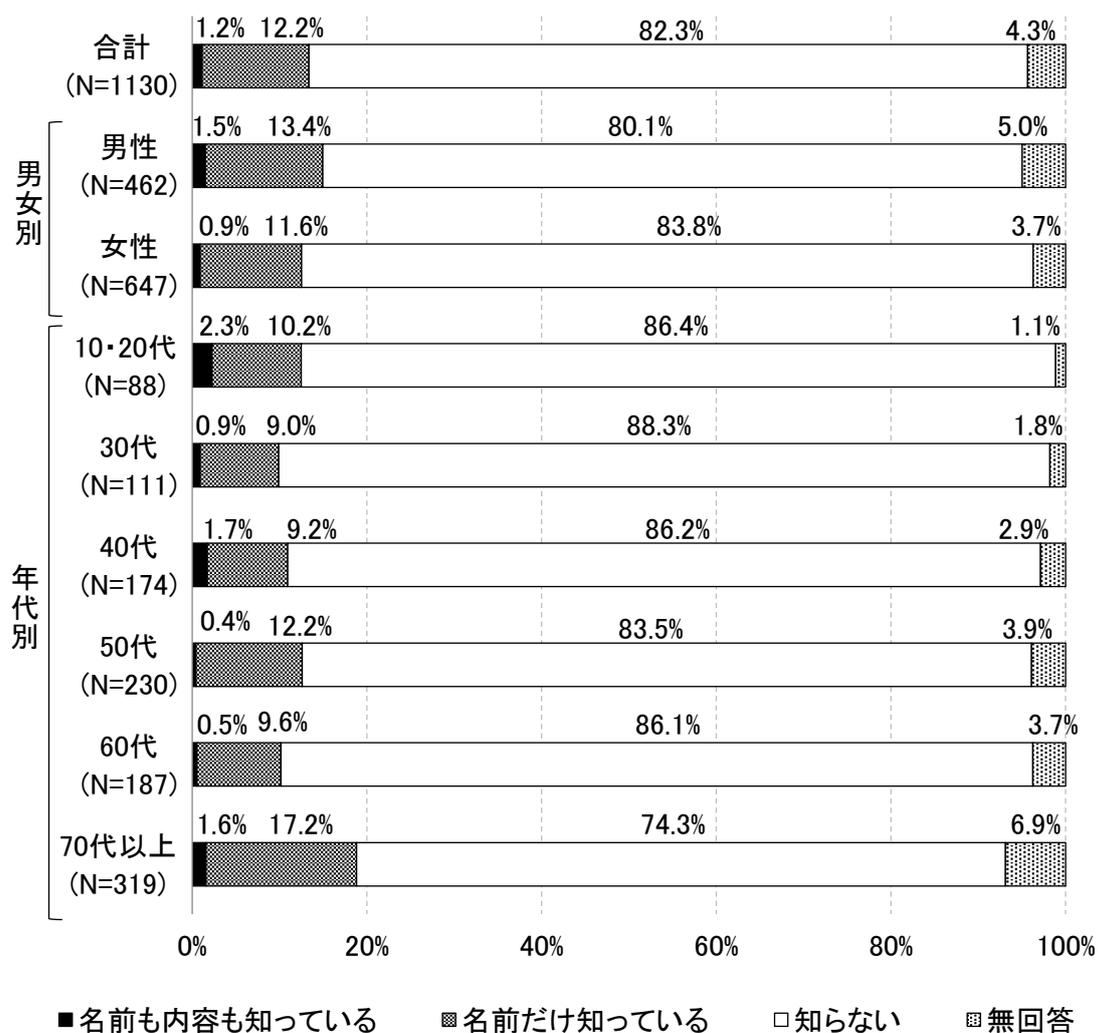


図 87 Q38 「『高槻市みらいのための経営革新』に向けた改革方針」の認知

Q39 の高槻市の 20 年後・30 年後を見据えて行財政改革に取り組むべきかに関して、男女別・年代別のすべての層で「感じる」または「やや感じる」と回答した人が 7 割以上である。年代別でみると、「感じる」または「やや感じる」と回答した人の割合は 30 代が 85.6% と最も高く、70 代以上が 74.0% と最も低い（図 88）。

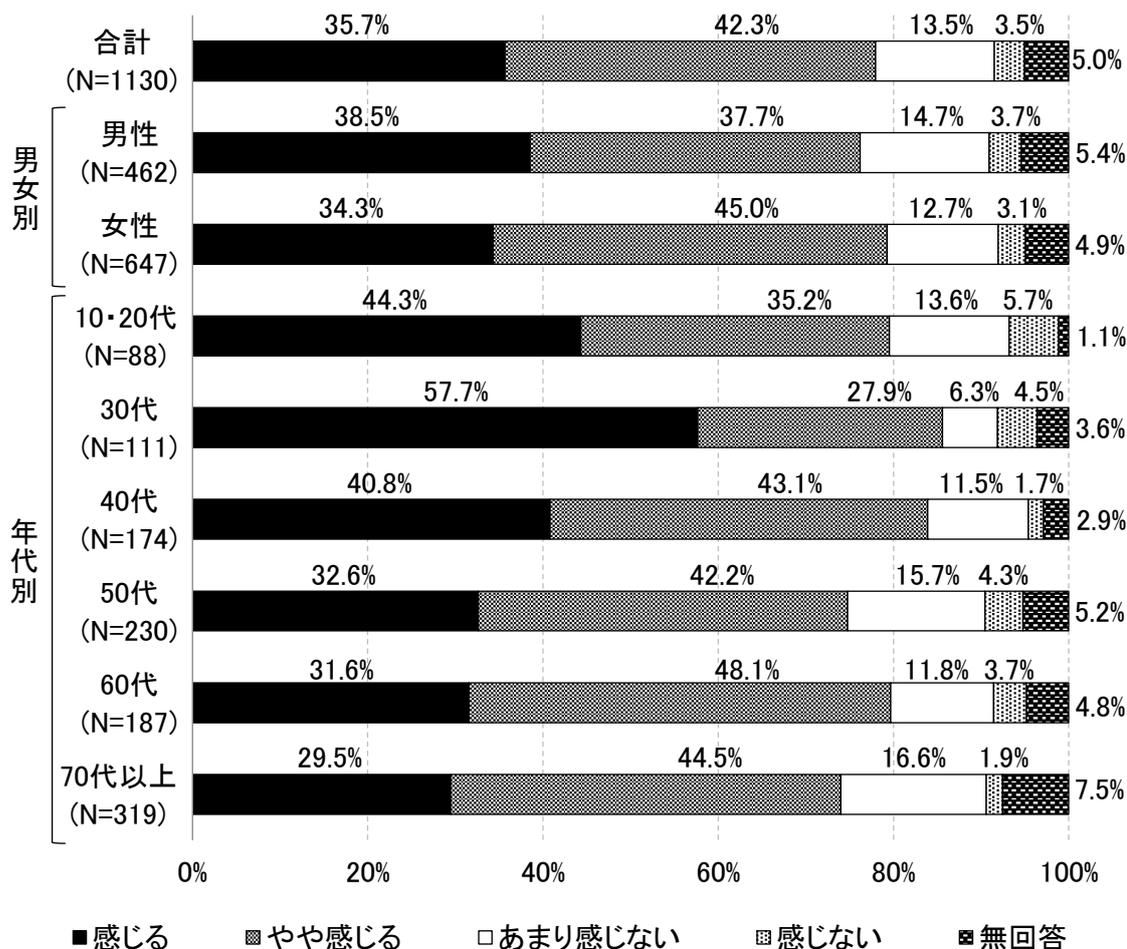


図 88 Q39 高槻市の 20 年後・30 年後を見据えて行財政改革に取り組むべきか

Q40 の居住地で親しくしている人の数に関して、男女別・年代別のすべての層で「少ない」または「やや少ない」と回答した人が4割以上である。年代別でみると、「少ない」または「やや少ない」と回答した人の割合は10・20代が58.0%と最も高く、反対に70代以上が45.5%と最も低い（図89）。

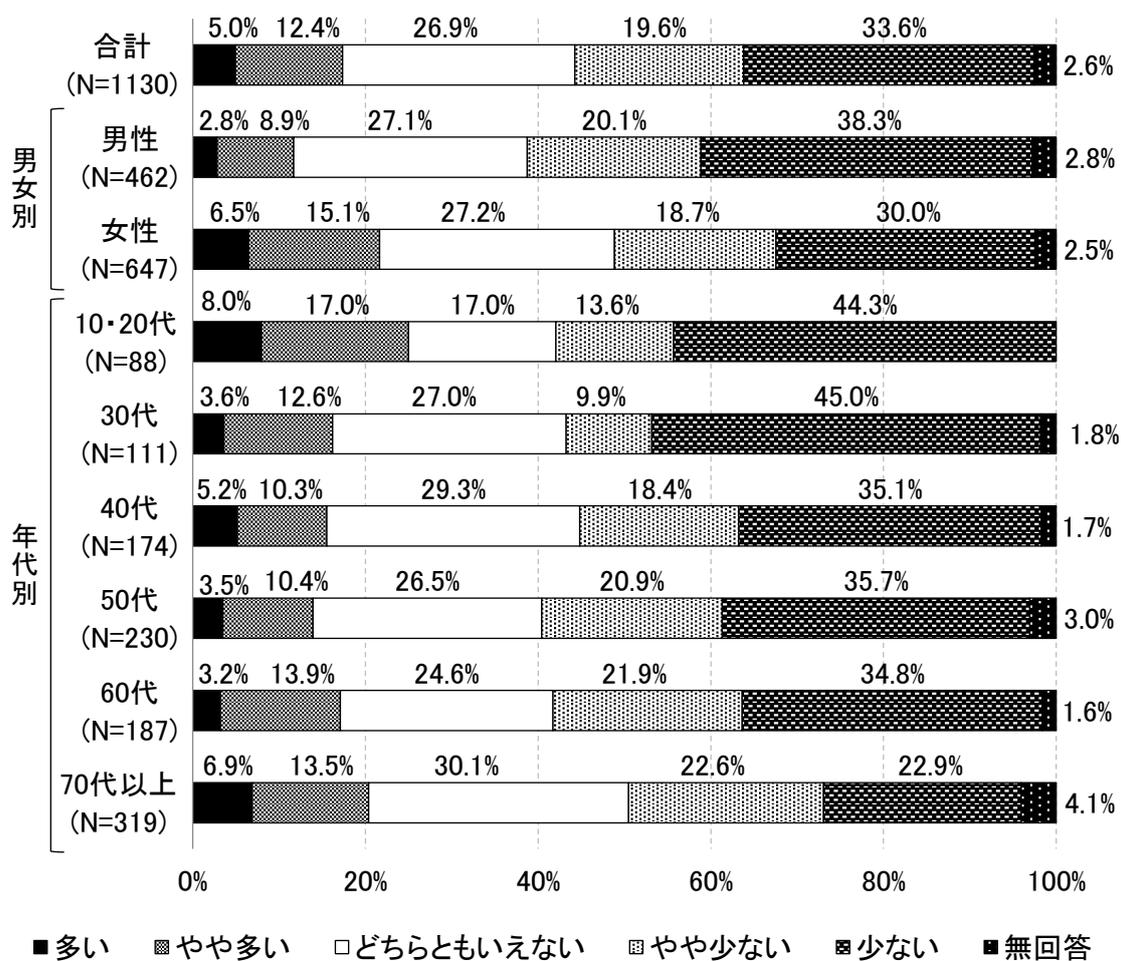


図89 Q40 居住地で親しくしている人の数

Q41 の今まで以上に近所づきあいを増やしたいかに関して、男女別・年代別のすべての層で「どちらともいえない」と回答した人の割合が6割以上である。年代別でみると、「増やしたい」または「少し増やしたい」と回答した人の割合は60代が21.4%と最も高く、反対に70代以上が14.1%と最も低い（図90）。

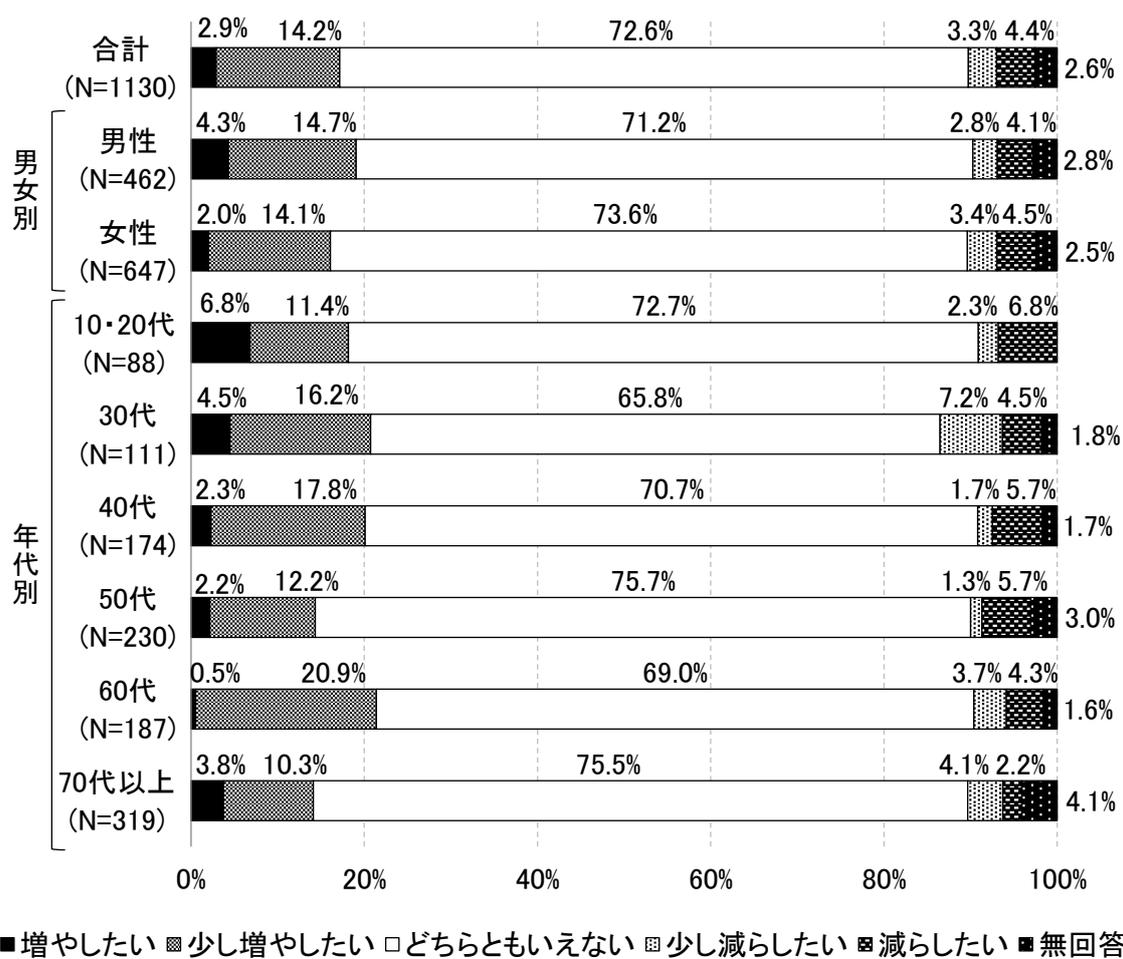
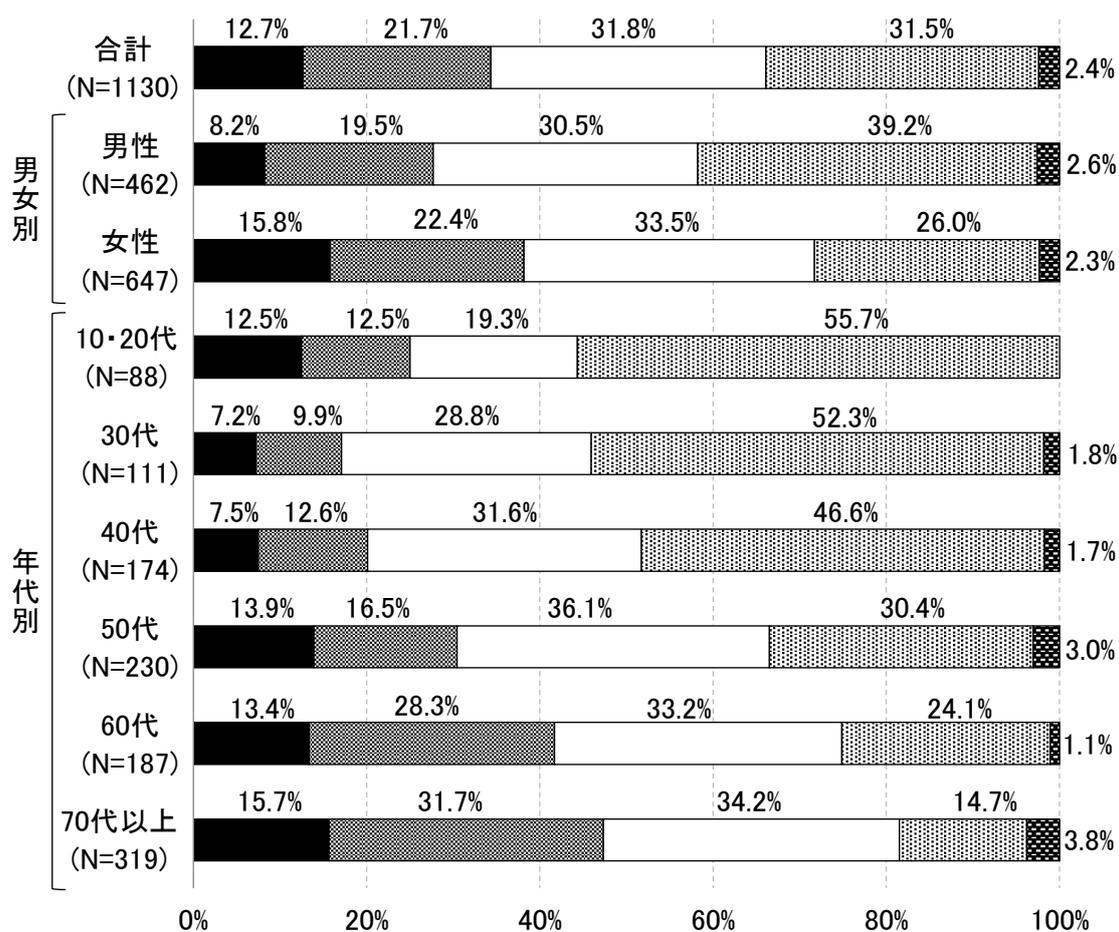


図90 Q41 今まで以上に近所づきあいを増やしたいか

Q42 の屋外にいて人がまばらな時、マスクを着用するかに関して、男女別・年代別のすべての層で「常に着用する」または「たいてい着用する」と回答した人の割合は2割以上である。年代別でみると、「常に着用する」または「たいてい着用する」と回答した人の割合は70代以上が47.3%と最も高く、反対に30代が17.1%と最も低い（図91）。



■常に着用する ■たいてい着用する □あまり着用しない ■まったく着用しない ■無回答

図91 Q42 屋外にいて人がまばらな時、マスクを着用するか

Q43 の新型コロナウイルス感染に対する不安感に関して、男女別・年代別のすべての層で「非常に感じる」または「ある程度感じる」と回答した人の割合は3割以上である。年代別でみると、「非常に感じる」または「ある程度感じる」と回答した人の割合は60代が63.1%と最も高く、反対に10・20代が33.0%と最も低い(図92)。

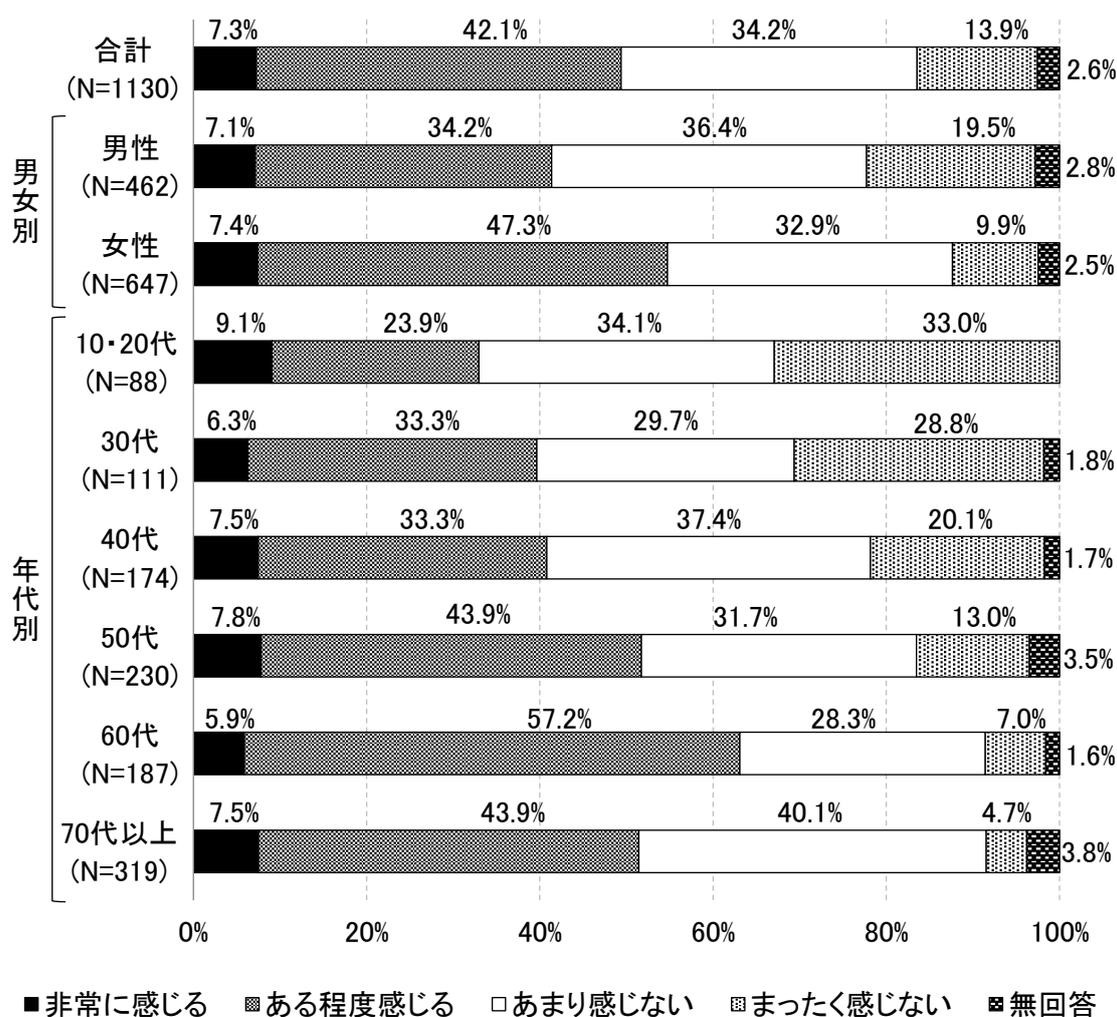


図92 Q43 新型コロナウイルス感染に対する不安感

Q44 の集団行動が好きかに関して、男女別・年代別のすべての層で「好き」または「やや好き」と回答した人の割合は 2 割以上である。年代別でみると、「好き」または「やや好き」と回答した人の割合は 10・20 代が 37.5%と最も高く、反対に 50 代が 22.6%と最も低い (図 93)。

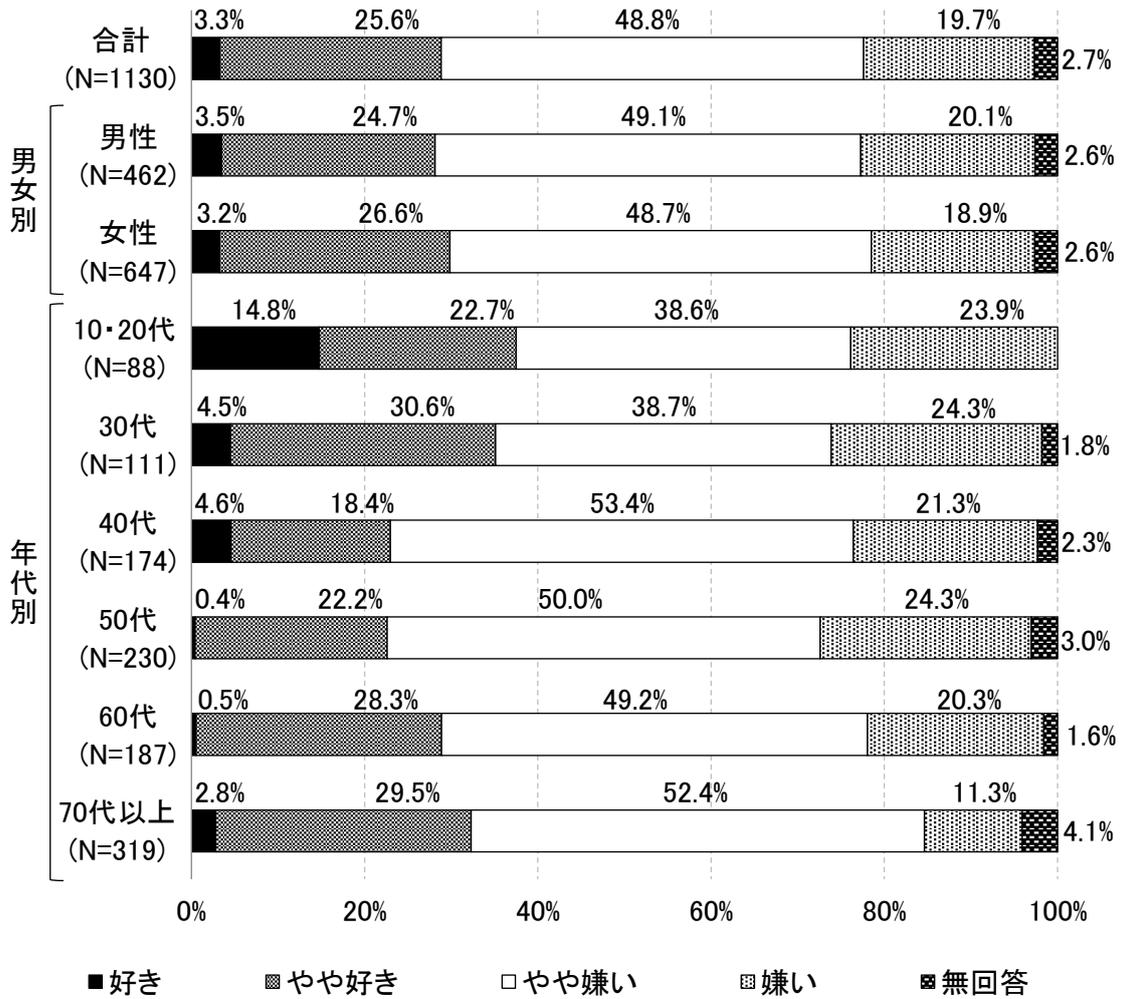


図 93 Q44 集団行動が好きか

Q45 の自分の判断が不安になり、人に合わせて自分の意見を変えることがあるかに関して、男女別・年代別のすべての層で「よくある」または「ときどきある」と回答した人の割合は4割以上である。年代別でみると、「よくある」または「ときどきある」と回答した人の割合は10・20代が67.0%と最も高く、反対に70代以上が40.4%と最も低い（図94）。

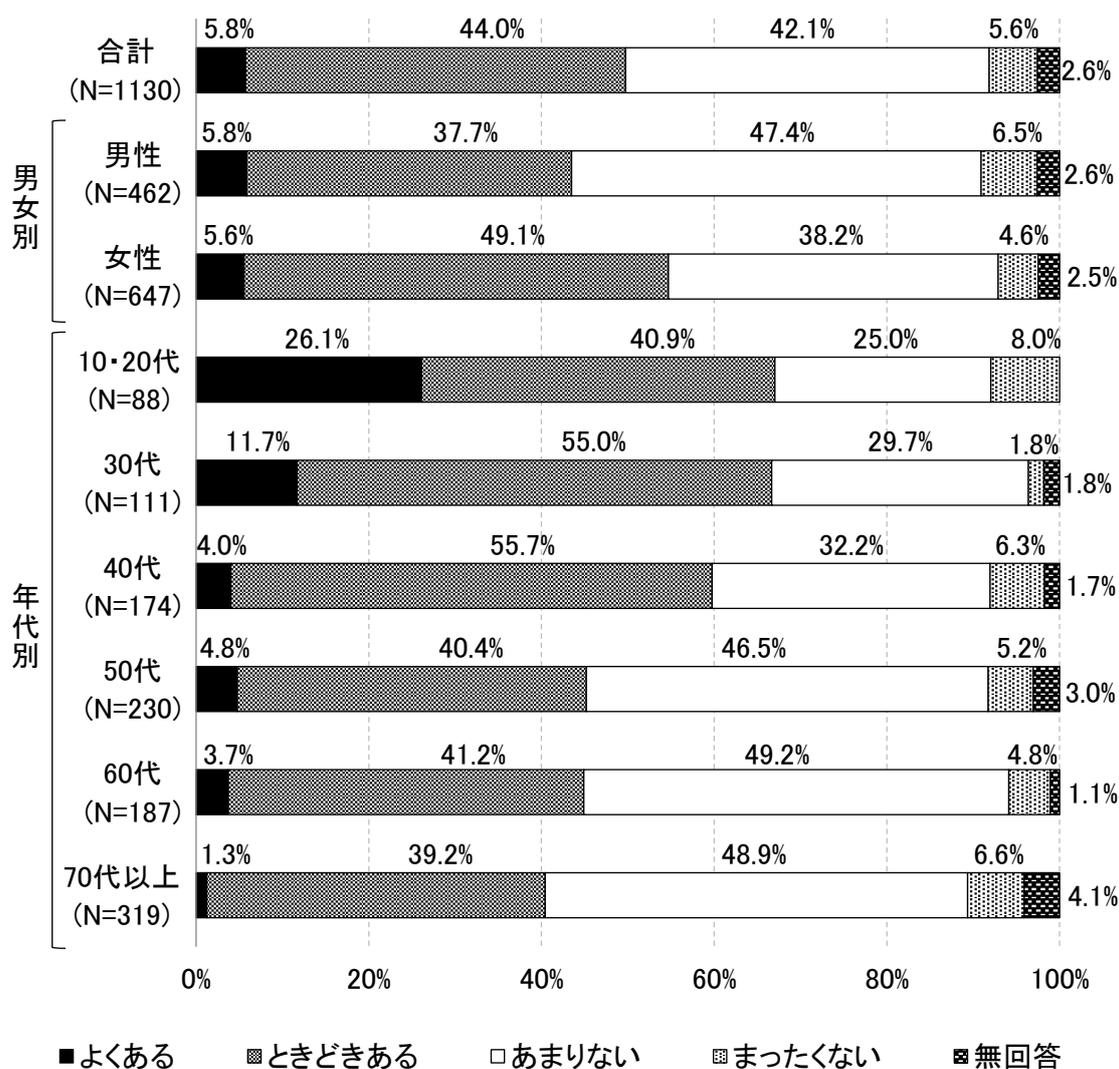


図94 Q45 自分の判断が不安になり、人に合わせて自分の意見を変えることがあるか

Q46 の知り合いから聞いた情報に影響されやすい方だに関して、男女別・年代別でみると、70代以上を除く、すべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は3割以上である。年代別でみると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は30代が64.9%と最も高く、反対に70代以上が25.7%と最も低い(図95)。

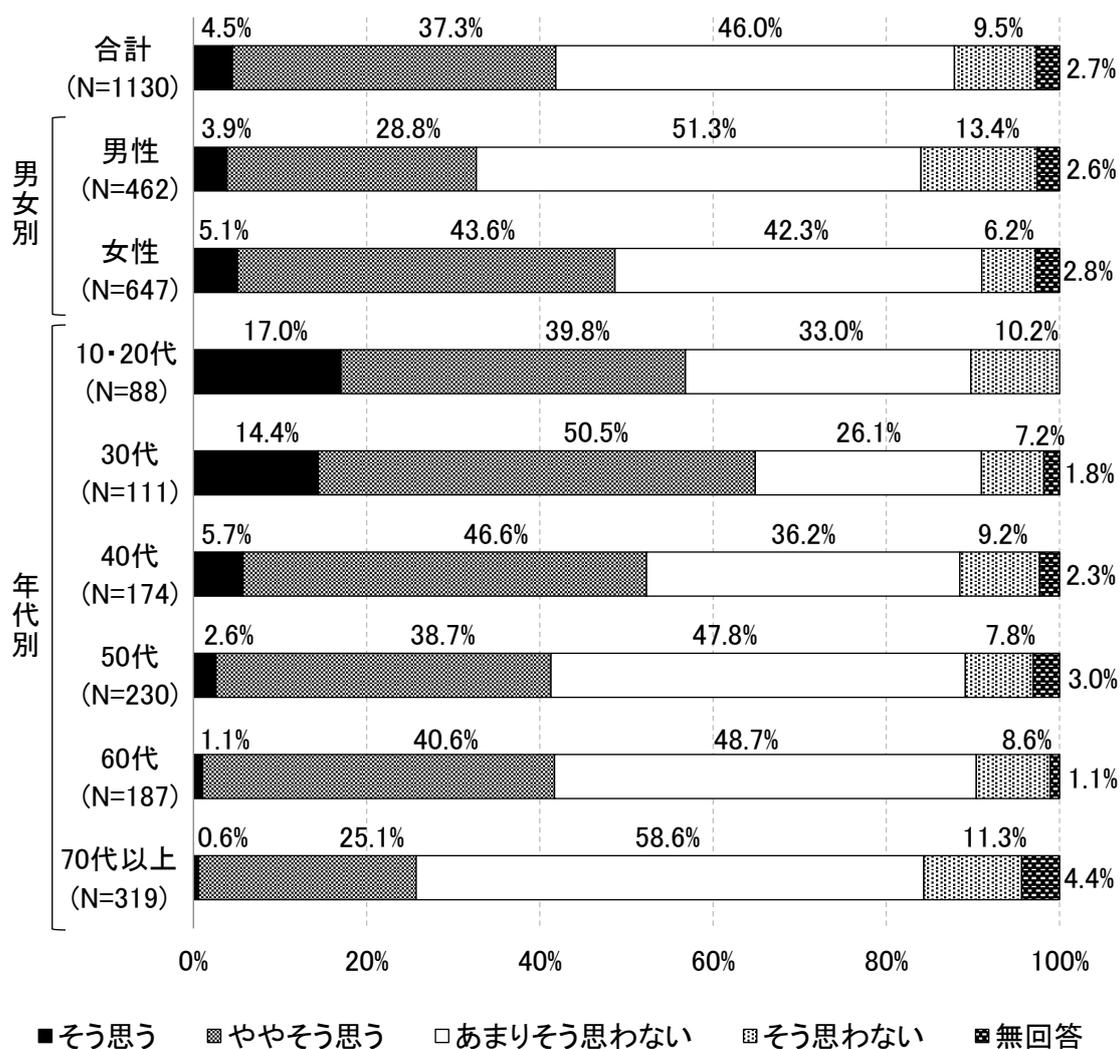


図 95 Q46 知り合いから聞いた情報に影響されやすい方だ

Q47のご自身が詐欺の被害に遭うことはないと思うに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は4割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は10・20代が59.1%と最も高く、反対に30代が46.8%と最も低い(図96)。

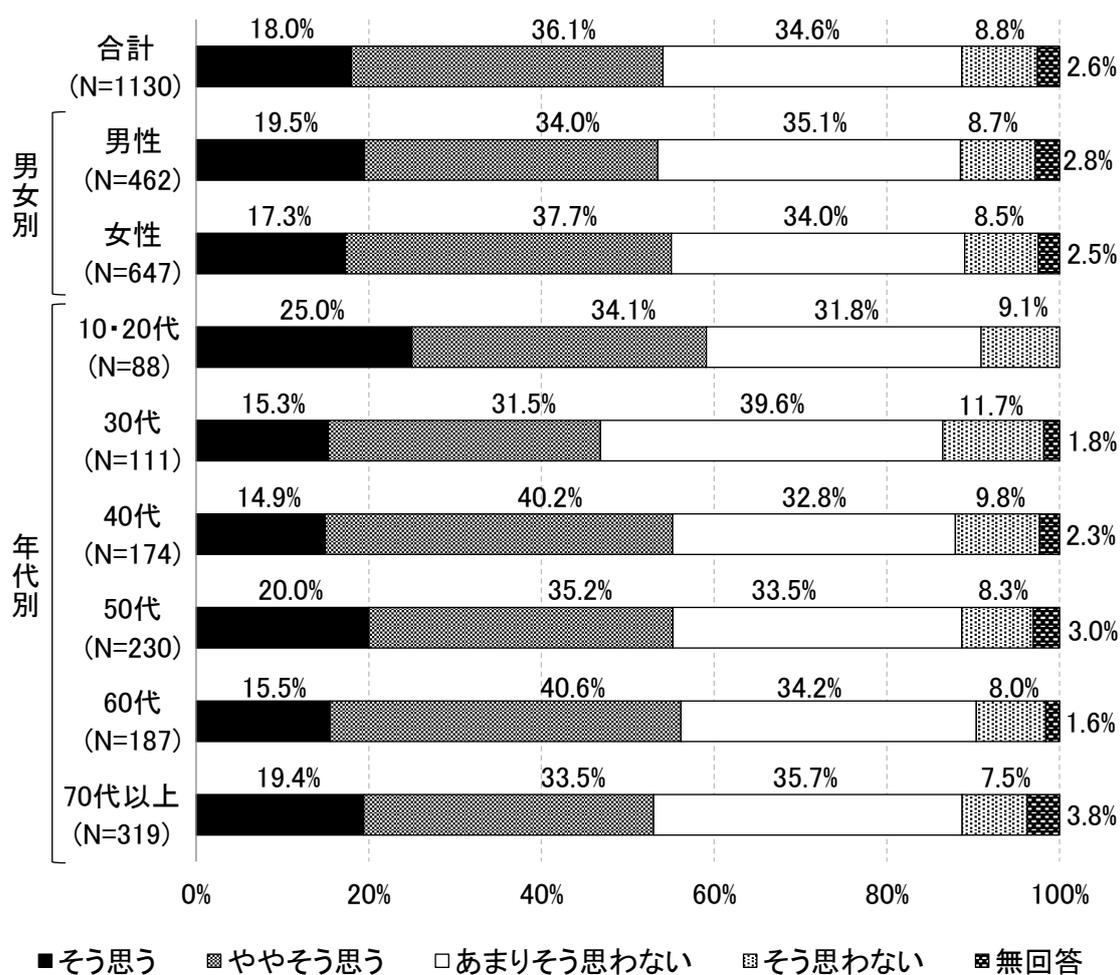


図96 Q47 ご自身が詐欺の被害に遭うことはないと思う

Q48 の「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という意見についてどう思うかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人の割合は7割以上である。年代別でみると、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人の割合は60代が86.6%と最も高く、反対に70代以上が76.5%と最も低い（図97）。

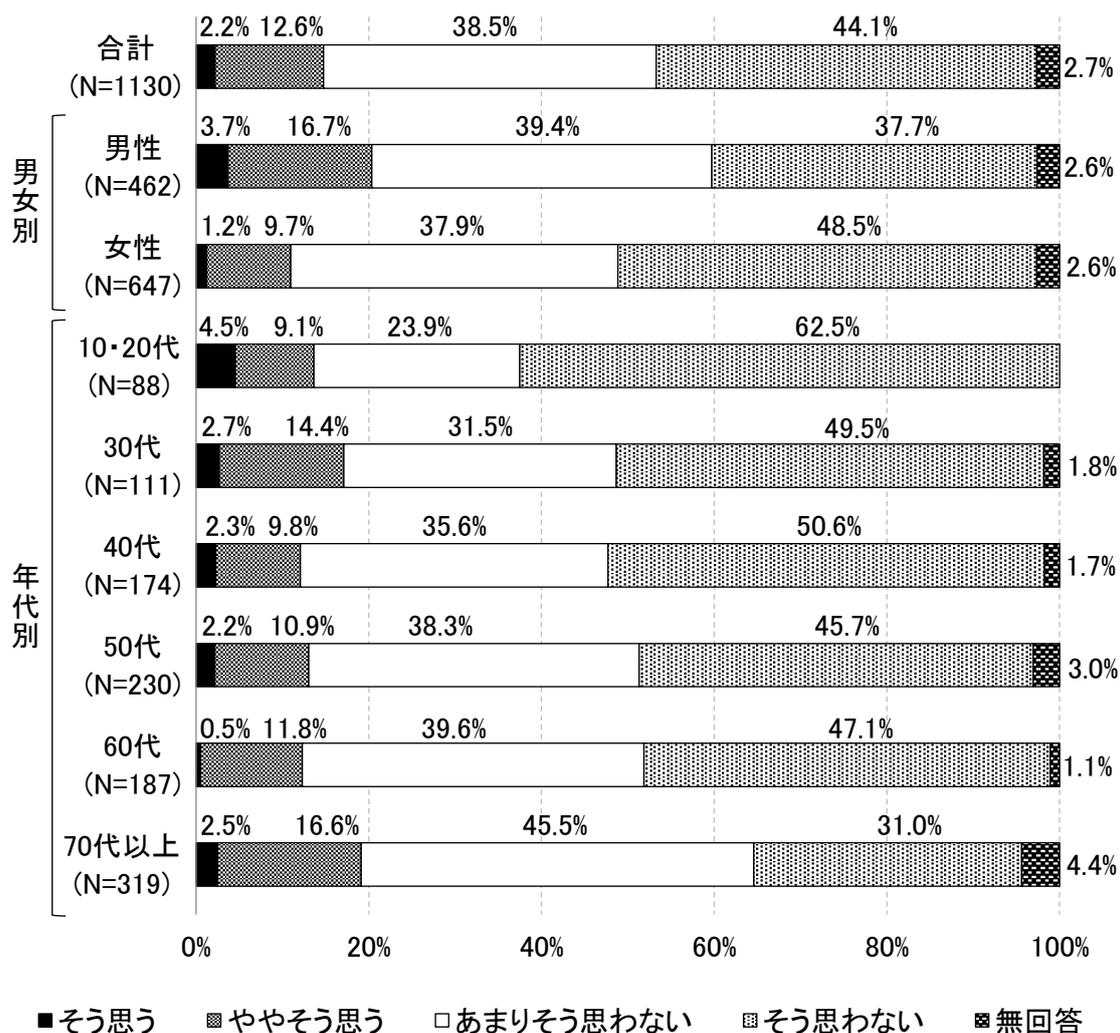


図97 Q48 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という意見についてどう思うか

Q49 の子どもの頃、家族の誰かが本を読んでもらったかに関して、男女別・年代別でみると、10・20代～40代を除く、すべての層で「あまりなかった」または「まったくなかった」と回答した人の割合が5割以上である。年代別でみると、「よくあった」または「ときどきあった」と回答した人の割合は10・20代が86.4%と最も高く、反対に70代以上が22.3%と最も低い（図98）。

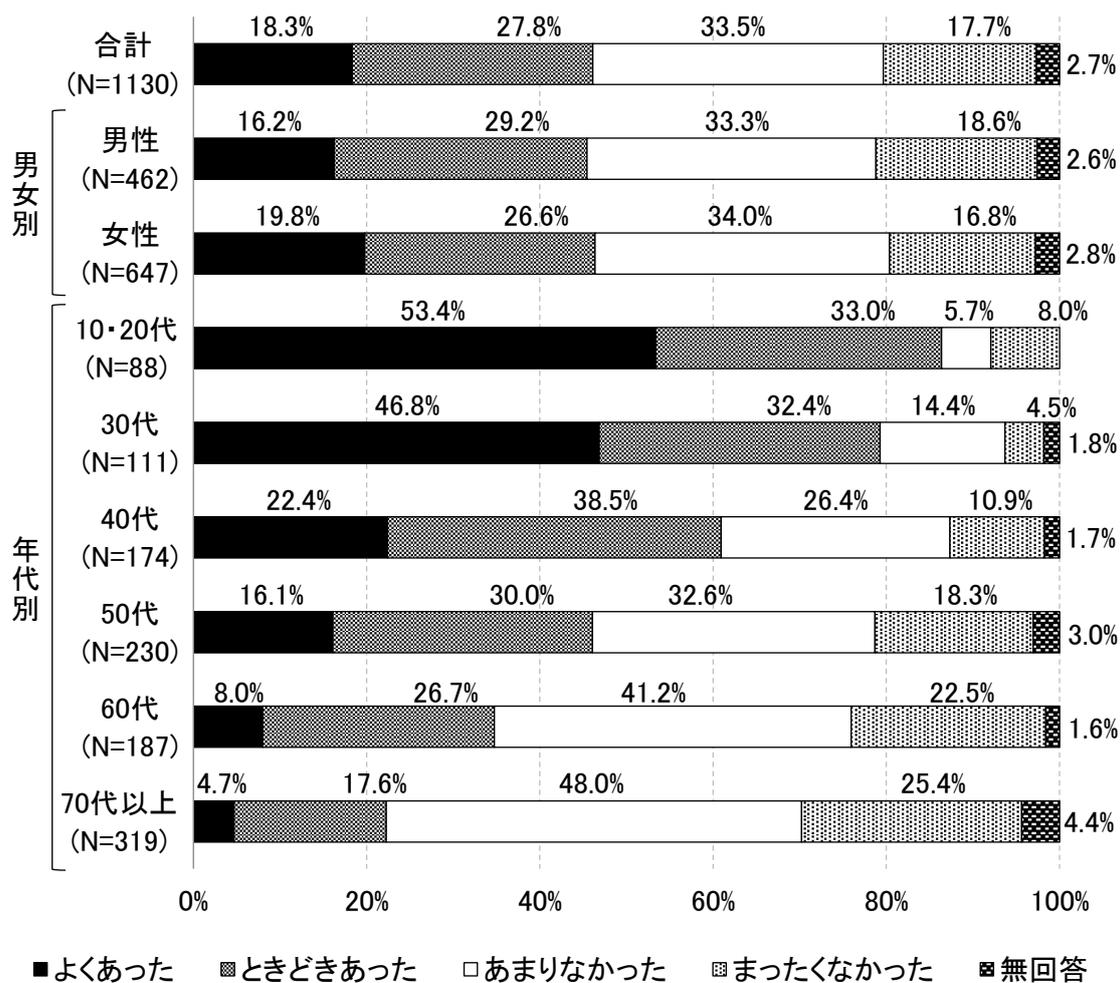


図98 Q49 子どもの頃、家族の誰かが本を読んでもらったか

Q50 の世帯の収入の満足度に関して、男女別で見ると、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は、男性では 25.1%、女性では 32.8%である。また、年代別で見ると、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は 30 代が 36.0%と最も高い。反対に 60 代が 23.5%と最も低い（図 99）。

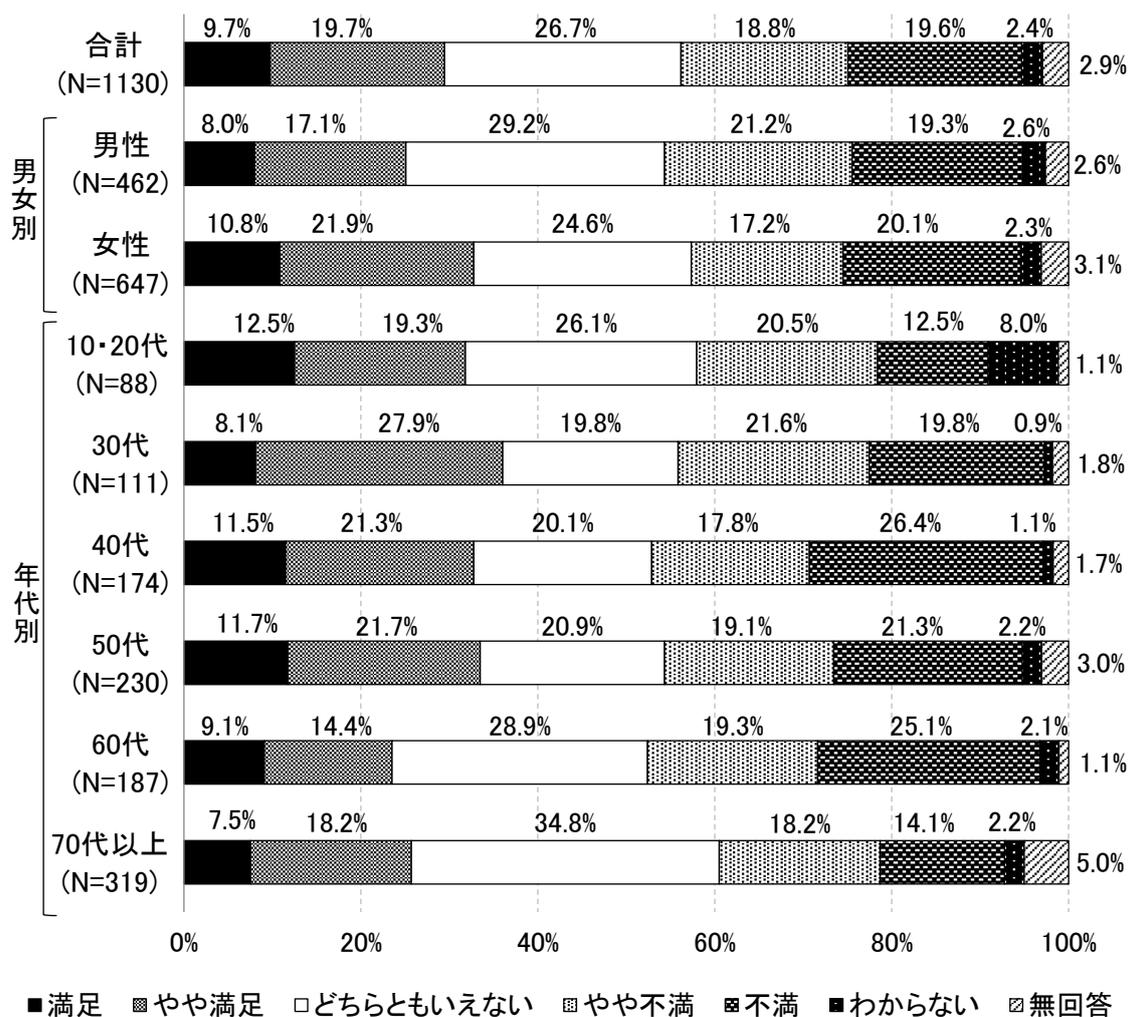


図 99 Q50 世帯の収入の満足度

最後に、質問項目ごとの設問提案者と例年の質問項目との対応関係の一覧を以下に示す。

No.	質問項目	高槻市	関西大学	R05	R04	R03	R02	R01	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23
Q1	生活満足度		○	Q1	Q1	Q1	Q1	Q1	Q1	Q1	Q1	Q1	Q1	Q1	Q1	
Q2	幸福度		○	Q2	Q2	Q2	Q2	Q2	Q33							
Q3	居住地域は暮らしやすいか		○	Q3	Q3	Q3	Q3	Q4	Q2	Q2	*Q2	*Q2	*Q3	*Q2	*Q3	
Q4	地域に住み続けたいか		○	Q4	Q4	Q4	Q4	Q5	Q2	Q2	*Q2	*Q3	*Q4	*Q3	*Q3	*Q3
Q5	高槻市に地域ブランドがあると思うか	○		Q5	Q5	Q5	Q5	Q9				Q23				
Q6	中心市街地に行く頻度が7年前と比べて増加したか	○		Q6	Q6	Q6	Q6	Q10				Q16				
Q7A	中心市街地の向上:防災面での安全性や快適性	○		Q7A	Q7A	Q7A	Q7A	Q11A	Q10A			Q17A				
Q7B	中心市街地の向上:防犯面での安全性や快適性	○		Q7B	Q7B	Q7B	Q7B	Q11B	Q10B			Q17B				
Q7C	中心市街地の向上:居住環境	○		Q7C	Q7C	Q7C	Q7C	Q11C	Q10C			Q17C				
Q7D	中心市街地の向上:公共交通機関の利便性	○		Q7D	Q7D	Q7D	Q7D	Q11D	Q10D			Q17D				
Q7E	中心市街地の向上:歩行者にとっての歩きやすさ	○		Q7E	Q7E	Q7E	Q7E	Q11E	Q10E			Q17E				
Q7F	中心市街地の向上:風紀や治安	○		Q7F	Q7F	Q7F	Q7F	Q11F	Q10F			Q17F				
Q8A	中心市街地で7年前と比べて増加したか 文化活動	○		Q8A	Q8A	Q8A	Q8A	Q12A				Q18A				
Q8B	中心市街地で7年前と比べて増加したか コミュニティ活動	○		Q8B	Q8B	Q8B	Q8B	Q12B				Q18B				
Q8C	中心市街地で7年前と比べて増加したか 商店街の魅力	○		Q8C	Q8C	Q8C	Q8C	Q12C				Q18C				
Q8D	中心市街地で7年前と比べて増加したか 百貨店などの大型店の魅力	○		Q8D	Q8D	Q8D	Q8D	Q12D				Q18D				
Q8E	中心市街地で7年前と比べて増加したか 買い物やイベントでのにぎわい	○		Q8E	Q8E	Q8E	Q8E	Q12E				Q18E				
Q8F	中心市街地で7年前と比べて増加したか 魅力的な飲食店	○		Q8F	Q8F	Q8F	Q8F	Q12F				Q18F				
Q8G	中心市街地で7年前と比べて増加したか オフィスなど業務施設	○		Q8G	Q8G	Q8G	Q8G	Q12G				Q18G				
Q8H	中心市街地で7年前と比べて増加したか 病院などの医療機関	○		Q8H	Q8H	Q8H	Q8H	Q12H				Q18H				
Q8I	中心市街地で7年前と比べて増加したか 道路の渋滞	○		Q8I	Q8I	Q8I	Q8I	Q12I				Q18I				
Q8J	中心市街地で7年前と比べて増加したか 駐輪場	○		Q8J	Q8J	Q8J	Q8J	Q12J				Q18J				
Q8K	中心市街地で7年前と比べて増加したか 駐車場	○		Q8K	Q8K	Q8K	Q8K									
Q8L	中心市街地で7年前と比べて増加したか 街なかの緑や潤い	○		Q8L	Q8L	Q8L	Q8K	Q12K				Q18K				
Q10	JR高槻駅の利用	○		Q10												
Q11	JR高槻駅周辺が高槻の玄関口にふさわしい風格と魅力がある都市空間だと感じるか	○		Q11												
Q12	阪急高槻市駅の利用	○		Q12												
Q13	阪急高槻市駅周辺が高槻の玄関口にふさわしい風格と魅力ある都市空間だと感じるか	○		Q13												
Q14	高槻市のイメージ	○		Q14												
Q15	高槻市に愛着を感じるか	○		Q15												
Q16	「はにたん」に愛着を感じるか	○		Q16												
Q17	高槻市営バスへの満足度	○		Q17		Q8		***Q8 A-R	***Q6	***Q5 A-E	***Q8 I-L	***Q1 0	***Q1 2B	***Q9 B	***Q4 B	
Q18	高槻市営バスの利用頻度	○		Q18		Q9				Q6		***Q1 2	***Q2 5	***Q1 1	***Q1 3	
Q19_A	高槻市営バス: 運行本数が少ない	○		Q19_A		Q7E										
Q19_B	高槻市営バス: 近くに路線やバス停がない	○		Q19_B		Q7F		***Q8 K		***Q5 C	***Q8 K					
Q20	環境に関する問題への関心度	○		Q20		Q11			Q12	Q33		***Q26				

注) *印は、質問文の表現・形式が異なるため、比較する際に注意が必要である。変更の程度は、*の数に応じて、下記の通りである。

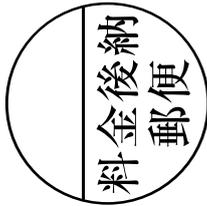
* : 分析にそのまま使用できる（「てにをは」、濁点の位置、末尾などの変更）

** : 分析には注意が必要である（選択肢の数が異なるなどの変更）

*** : 同一の変数として分析に使用するの難しい（概念範囲が異なる）

資料：
予告はがき・調査票

郵便はがき



「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」 ご協力のお願い

高槻市と関西大学は、高槻市民の生活ともの見方についての調査を共同で実施することになりました。調査の対象は、無作為に選ばれた18歳以上の市民の方です。

近日中に調査票の入った大きな茶封筒（ボールペン入り）が届きます。ご多忙中、誠に恐縮ですが、届き次第、調査票に回答をご記入の上、ご返送頂きますようお願い申し上げます。

令和6年8月



高槻市 Takatsuki City
 市民生活環境部 市民生活相談課 〒569-0067 高槻市桃園町2-1
 TEL 072-674-7130
 関西大学 総合情報学部 〒569-1095 高槻市霊仙寺町2-1-1
 TEL 072-690-2151

※あて所に尋ねあたらぬ場合は、高槻市へ返戻して下さい。

郵便はがき

高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査

(調査実施) 高槻市・関西大学総合情報学部

高槻市と関西大学は共同で、市政と市民生活に関する調査を行っています。市は、今後の施策を検討するうえでの基礎資料とすることを目的に、大学は、高槻市民の生活ともの見方に関する研究と教育を行うことを目的に実施するもので、調査の対象は、住民基本台帳から無作為に選ばれた18歳以上の市民の方です。**封筒宛名のご本人様ご自身の回答を**、この調査票にご記入いただきますようお願いいたします。調査の回答は、調査の目的以外には、一切利用いたしませんので安心してお答えください。

調査結果につきましては、本年12月頃に速報版を、翌年3月中に最終報告書を発行し、高槻市と関西大学で閲覧できるようにいたします。できるだけ多くの方のご意見を反映した調査を目指しておりますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

*ボールペンを同封しております。回答の際にご利用ください(返却の必要はありません)。

*ご回答は、とくに断りがなければ、選択肢番号を1つだけ選んでマルをつけてください。マルをつける個数が決められていたり、回答していただく方が限られていたりするものは、指示に従ってお答えください。

*お忙しいところ誠に恐縮ですが、**9月6日(金)**までに、同封の封筒(切手貼付済み)でご返送いただきますようお願いいたします。

*この調査票と封筒には、ご住所やお名前を記入されないようお願いいたします。

(どなたがどのような回答をされたかわからないようにするためです。)

<調査に関するお問い合わせ> 高槻市 市民生活環境部 市民生活相談課 tel : 072-674-7130
関西大学 総合情報学部 tel : 072-690-2151

Q1. あなたは、現在の生活全体にどのくらい満足していますか。

1	2	3	4	5
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満

Q2. あなたは、現在どのくらい幸せですか。

1	2	3	4	5
幸せ	やや幸せ	どちらともいえない	やや不幸せ	不幸せ

Q3. あなたのお住まいの地域は、全体的に暮らしやすいと思いますか。

1	2	3	4	5
そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない

Q4. あなたは、現在お住まいの地域にどのくらい「住み続けたい」と思いますか。

1	2	3	4	5
ずっと住み続けたい	住み続けたい	まあ住み続けたい	どちらともいえない	機会があれば引っ越したい

Q5. あなたは、高槻市には地域ブランドと呼べるような特産品や観光地があると思いますか。

1	2	3	4	5
そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない

Q6. あなたが買い物・食事・娯楽などで中心市街地(JR高槻駅・阪急高槻市駅周辺)に行く頻度は、7年前と比べて増加しましたか。それとも減少しましたか。

1	2	3	4	5	6
増加した	少し増加した	変わらない	少し減少した	減少した	7年前を知らない

Q7. あなたは、中心市街地（JR高槻駅・阪急高槻市駅周辺）に関する以下の点について、7年前と比べて向上したと思いますか。それとも低下したと思いますか。

A. 防災面での安全性や快適性

1	2	3	4
向上した	変わらない	低下した	7年前を知らない

B. 防犯面での安全性や快適性

1	2	3	4
向上した	変わらない	低下した	7年前を知らない

C. 居住環境

1	2	3	4
向上した	変わらない	低下した	7年前を知らない

D. 公共交通機関の利便性

1	2	3	4
向上した	変わらない	低下した	7年前を知らない

E. 歩行者にとっての歩きやすさ

1	2	3	4
向上した	変わらない	低下した	7年前を知らない

F. 風紀や治安

1	2	3	4
向上した	変わらない	低下した	7年前を知らない

Q8. あなたは、中心市街地（JR高槻駅・阪急高槻市駅周辺）に関する以下の点について、7年前と比べて増加したと思いますか。それとも減少したと思いますか。

A. 文化活動

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	7年前を知らない

B. コミュニティ活動

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	7年前を知らない

C. 商店街の魅力

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	7年前を知らない

D. 百貨店などの大型店の魅力

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	7年前を知らない

E. 買い物やイベントでのにぎわい

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	7年前を知らない

F. 魅力的な飲食店

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	7年前を知らない

G. オフィスなど業務施設

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	7年前を知らない

H. 病院などの医療機関

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	7年前を知らない

I. 道路の渋滞

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	7年前を知らない

J. 駐輪場

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	7年前を知らない

K. 駐車場

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	7年前を知らない

L. 街なかの緑や潤い

1	2	3	4
増加した	変わらない	減少した	7年前を知らない

Q9. 中心市街地（JR高槻駅・阪急高槻市駅周辺）を住み良い街にするために、あなたはどのような取り組みが必要だと思えますか。3つ以内にマルをつけてください。

1. 街路樹や植栽、公園の整備など、緑豊かな住居環境の向上を図る
2. 日常生活に困らないよう、スーパーマーケットや食料品店などの充実を図る
3. 休日や夜間の突然の病気やケガで困らないよう、病院など医療機能の充実を図る
4. 安心・安全に生活できるよう、治安・防犯の向上を図る
5. 高齢者等も安全・快適に外出できるよう、歩行者空間の整備や街のバリアフリー化を図る
6. 民間のマンションや公的住宅など、中心市街地での住宅の供給を促進する
7. その他（ ）
8. 今以上の取り組みは必要ない

Q10. あなたは、普段、JR高槻駅を利用しますか。

1. 利用する
2. 利用しない

Q11. JR高槻駅周辺について、高槻の玄関口にふさわしい風格と魅力ある都市空間であると感じますか。

- | | | | |
|-----|-------|---------|------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 感じる | やや感じる | あまり感じない | 感じない |

Q12. あなたは、普段、阪急高槻市駅を利用しますか。

1. 利用する
2. 利用しない

Q13. 阪急高槻市駅周辺について、高槻の玄関口にふさわしい風格と魅力ある都市空間であると感じますか。

- | | | | |
|-----|-------|---------|------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 感じる | やや感じる | あまり感じない | 感じない |

Q14. あなたは、高槻市という地域についてどのようなイメージを持っていますか。

- | | | | | |
|----|------|-----------|------|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 良い | やや良い | どちらともいえない | やや悪い | 悪い |

Q15. あなたは、高槻市に愛着を感じますか。それとも感じませんか。

- | | | | | |
|-----|-------|-----------|---------|------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 感じる | やや感じる | どちらともいえない | あまり感じない | 感じない |

Q16. あなたは、高槻市のご当地キャラクター「はにたん」に愛着を感じますか。

- | | | | | |
|-----|-------|---------|------|-----------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 感じる | やや感じる | あまり感じない | 感じない | はにたんを知らない |

Q17. あなたは、高槻市営バスについて、どのくらい満足していますか。

- | | | | |
|----|------|------|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 |

Q18. あなたは、普段、高槻市営バスをどのくらいの頻度で利用していますか。

- | | | | | |
|------|--------|--------|------|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ほぼ毎日 | 週に3~4日 | 週に1~2日 | 月に数日 | 利用しない |

Q19. 高槻市営バスに関する以下の項目について、あなたのお考えをおうかがいします。

A. 運行本数が少ない

- | | | | | |
|------|--------|-----------|-----------|--------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| そう思う | ややそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | そう思わない |

B. 近くに路線やバス停がない

- | | | | | |
|------|--------|-----------|-----------|--------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| そう思う | ややそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | そう思わない |

Q20. あなたの関心が高い、環境問題に関する話題は何ですか。3つ以内でマルをつけてください。

- | | | |
|---------------|----------------|-----------------|
| 1. 地球温暖化 | 8. 悪臭 | 15. 食の安全性 |
| 2. ヒートアイランド現象 | 9. 水質汚濁 | 16. 食品ロス |
| 3. 異常気象 | 10. 土壌汚染 | 17. ごみの減量、リサイクル |
| 4. 省エネルギー（節電） | 11. 生物多様性、外来生物 | 18. 不法投棄 |
| 5. 再生可能エネルギー | 12. 森林荒廃 | 19. その他() |
| 6. 大気汚染、PM2.5 | 13. 景観保全 | |
| 7. 騒音、振動 | 14. 都市緑化 | 20. いずれにも関心がない |

Q21へ

Q21. 次に、現在の高槻市の環境に関するA～Dの項目について、あなたのお考えをおうかがいします。

A. 高槻市には、身近な自然環境とのふれあいがあると思いますか。

- | | | | |
|------|--------|-----------|--------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| そう思う | ややそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |

B. 高槻市は、不法投棄やポイ捨ての少ない美しいまちだと思いますか。

- | | | | |
|------|--------|-----------|--------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| そう思う | ややそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |

C. 高槻市には、良好な環境づくりを目指した活動が豊富にあると思いますか。

- | | | | |
|------|--------|-----------|--------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| そう思う | ややそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |

D. 高槻市には、環境活動に関する情報や呼びかけが十分にあると思いますか。

- | | | | |
|------|--------|-----------|--------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| そう思う | ややそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |

Q22. あなたは、普段、どの程度朝食をとっていますか。

- | | | | | |
|----|--------|--------|--------|----------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 毎日 | 週に5～6回 | 週に3～4回 | 週に1～2回 | まったく食べない |

Q23. あなたは、普段、どのくらいの頻度で運動をしていますか。

- | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|----------|----------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 週に5日以上 | 週に3～4日 | 週に1～2日 | 月に1～3日 | 3か月に1～2日 | まったくくしない |

Q24. あなたは、次のような活動をどのくらいしていますか。

A. 演劇を見に行く

- | | | | | |
|-------|------|------|-------|------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 月1回以上 | 年に数回 | 年に1回 | 数年に1回 | まったく |
| | | ぐらい | ぐらい | ない |

B. 宿泊をともなう旅行

- | | | | | |
|-------|------|------|-------|------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 月1回以上 | 年に数回 | 年に1回 | 数年に1回 | まったく |
| | | ぐらい | ぐらい | ない |

Q35. 今後の自殺対策について、おうかがいします。今後、どのような自殺対策が求められるとあなたは思いますか。いくつでもお選びください。

1. 自殺の実態を明らかにする調査・分析
2. 危険な場所、薬品等の規制
3. インターネットにおける自殺関連情報の対策
4. 自殺対策に関する広報・啓発
5. 適切な精神科医療体制の整備
6. 職場におけるメンタルヘルス対策の推進
7. 自殺対策に関わる民間団体の支援
8. 様々な分野におけるゲートキーパー※の養成
9. 様々な悩みに対応した相談窓口の設置
10. 地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い
11. 子どもの自殺予防
12. 自殺未遂者の支援
13. 自死遺族等の支援
14. その他 ()
15. 特になし

※「ゲートキーパー」とは、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなげ、見守る人のことです。

Q36. 自殺したいという気持ちを乗り越えるには、どのような方法が適切と思われますか。適切と思われるものをいくつでもお選びください。

1. 家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらう
2. 医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家に相談する
3. 弁護士や司法書士、公的機関の相談員など、悩みの元となる分野の専門家に相談する
4. できるだけ休養を取るようにする
5. 趣味や仕事など他のことで気を紛らわすよう努める
6. 特に何もしない
7. その他 ()
8. 適切と思われる方法はない

Q37. 次のa～sは、市の仕事のうち、生活に関係の深いものをあげています。

以下から、①あなたが、最近良くなってきたと思うもの(マルはいくつでも)、また、②あなたが、今後力を入れてほしいもの(マルは3つまで)をそれぞれ選んでください。

② 力を入れてほしいもの (3つまで)		
① 良くなってきたもの (いくつでも)	↓	
a. 学校教育の充実、青少年の健全育成	1	1
b. 図書館、博物館などの文化施設の整備	2	2
c. スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	3	3
d. 高齢者や障がい者等への福祉対策	4	4
e. 医療施設や救急医療体制の整備	5	5
f. 空気の汚れ、騒音などへの対策	6	6
g. 公園の整備や自然・緑の保全	7	7
h. 街並み・景観の整備	8	8
i. 駅前の整備、駐車・駐輪対策	9	9
j. ごみの収集・処理・再資源化(リサイクル)	10	10
k. 下水道の整備	11	11
l. 水の安定供給、上水道整備	12	12
m. バス・鉄道などの公共交通機関の整備	13	13
n. 身のまわりの生活道路の整備	14	14
o. 交通安全・災害防止対策	15	15
p. 公営住宅の建設や住宅融資制度	16	16
q. 市の広報・窓口相談、情報公開の充実	17	17
r. 災害対策・防犯対策	18	18
s. 子育て支援	19	19
t. 特になし	20	20

Q38. あなたは、『「高槻市みらいのための経営革新」に向けた改革方針』をご存知ですか。

1	2	3
名前も内容も知っている	名前だけ知っている	知らない

Q39. あなたは、高槻市が20年後、30年後を見据えて行財政改革に取り組む必要性を感じますか。

1	2	3	4
感じる	やや感じる	あまり感じない	感じない

Q40. あなたは、現在のお住まいの地域で親しくしている人の数が、どちらかといえば多い方だと思いますか、それとも少ない方だと思いますか。

1	2	3	4	5
多い	やや多い	どちらともいえない	やや少ない	少ない

Q41. あなたは、今まで以上に近所づきあいを増やしたいですか。それとも減らしたいですか。

1	2	3	4	5
増やしたい	少し増やしたい	どちらともいえない	少し減らしたい	減らしたい

Q42. あなたは、屋外にいて人がまばらな時、普段マスクを着用しますか。

1	2	3	4
常に着用する	たいてい着用する	あまり着用しない	まったく着用しない

Q43. あなたは、普段、新型コロナウイルスに感染するのではないかという不安を感じますか。

1	2	3	4
非常に感じる	ある程度感じる	あまり感じない	まったく感じない

Q44. あなたは、集団行動が好きですか。嫌いですか。

1	2	3	4
好き	やや好き	やや嫌い	嫌い

Q45. あなたは、自分の判断が不安になり、人に合わせて自分の意見を変えることが、どの程度ありますか。

1	2	3	4
よくある	ときどきある	あまりない	まったくない

Q46. あなたは、知り合いから聞いた情報に影響されやすいですか。

1	2	3	4
そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

Q47. あなたは、ご自身が詐欺の被害に遭うことはないと思いますか。

1	2	3	4
そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

Q48. あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という意見についてどう思いますか。

1	2	3	4
そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

Q49. あなたが子どもの頃、家族の誰かが本を読んでくれたことは、どの程度ありましたか。

1	2	3	4
よくあった	ときどきあった	あまりなかった	まったくなかった

Q50. あなたは、ご世帯の収入に、どのくらい満足していますか。

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	わからない

執筆者紹介

阪口 祐介（さかぐち ゆうすけ） 編集・はじめに・第 1 章（関西大学総合情報学部教授）
松本 渉（まつもと わたる） 編集・第 1 章（関西大学総合情報学部教授）
高山 理名（たかやま りな） 第 2 章（関西大学ティーチング・アシスタント）

高槻市と関西大学による市民意識調査報告書

—令和 6 年度—

編集 関西大学総合情報学部、発行 高槻市・関西大学総合情報学部、発行年月 令和 7 年 3 月

※ 関連する資料として、同時期に発行された『2024 年度社会調査実習報告書—高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査—』（関西大学総合情報学部[編集], 関西大学総合情報学部[発行]）があります。総合情報学部学生による詳細な分析も掲載されています。